大分市埋蔵文化財発掘調査報告書　第 142 集

# 大友府内23

## 中世大友府内町跡第112次発掘調査

## －集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2016

大分市教育委員会

# 大友府内23

中世大友府内町跡第112次発掘調査

－集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2016

大分市教育委員会

# 序　　文

本書は、大分市教育委員会が集合住宅建設工事に伴い実施しました中世大友府内町跡第 112 次調査の報告書です。

中世大友府内町跡は、大友氏館跡を中心として大分川左岸地域に展開する豊後国守護大友氏の拠点であり、第 21 代大友義鎮（宗麟）の時代には南蛮貿易の積極的な推進によって国際貿易都市として栄えました。これまでの 110 地点を超える発掘調査によって確認された多くの遺構や多彩な遺物から、国際色豊かなまちの様子が次第に明らかになっています。

今回の調査地点は、中世大友府内町跡の最盛期の姿が描かれた「府内古図」によると大友氏館の北側に位置する「御北町」の一角に該当し、調査区の南側隣接地では、大友氏館の北側外郭施設と思われる積土状遺構や溝状遺構が確認されています。調査では、掘立柱建物跡や廃棄土坑のほか、土地の区画を示すと思われる溝状遺構が発見されました。また、大友氏館成立以前の時期に該当する土師器を一括廃棄した土坑が良好な状態で確認されるなど、新たな知見を得ることができました。

本書に収録されたこれらの資料が、学術研究のみならず、地元の皆さんとともに多くの方々の文化財愛護への理解を深める一助となり、歴史教育・学術の振興に幅広く活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の刊行にあたり、ご配慮・ご協力を賜りました株式会社アライアンスおよび関係者各位に対しまして、心よりお礼申し上げます。

平成 28 年 3 月 25 日

大分市教育委員会

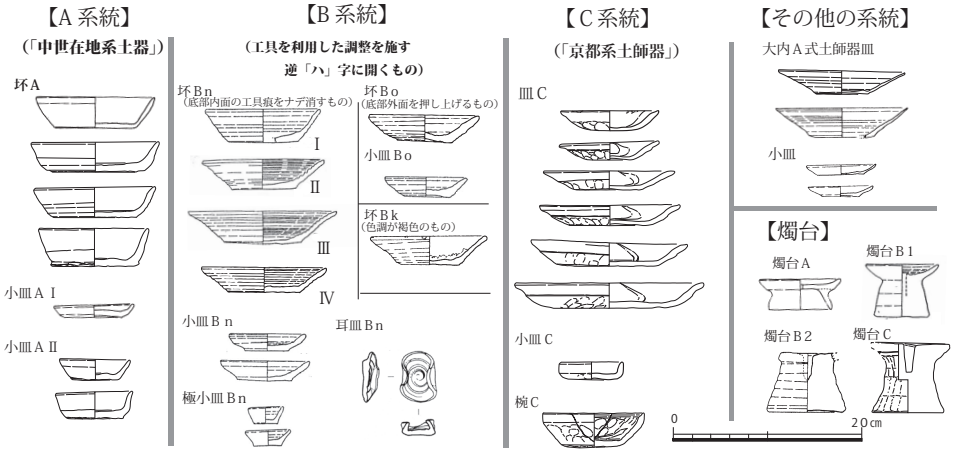
教育長　　三浦　享二

# 例　　言

1　本書は、大分市教育委員会が大分市顕徳町３丁目において集合住宅建設工事に伴う発掘調査として、平成 27 年度に実施した中世大友府内町跡第 112 次調査の発掘調査報告書である。
2　調査は、株式会社アライアンス（代表取締役：中垣昌康）からの依頼を受け、大分市教育委員会が実施している。
3　発掘調査は、大分市教育委員会文化財課（調査担当：松浦憲治・留野優兵）の委託を受け、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者：松浦智）が行った。
4　発掘調査における遺跡の掘削及び調査記録作成業務については、大分市教育委員会文化財課の委託を受け、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者：松浦智）が行った。
5　遺構の実測･写真撮影は、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者:同上）が大分市教育委員会文化財課の委託を受けて行った。調査区の航空写真撮影は、株式会社九州文化財総合研究所の依頼を受け、東亜航空技研株式会社が行った。
6　遺物の１次整理作業（接合・注記）は、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者：同上）が大分市教育委員会文化財課の委託を受け実施した。
7　報告書に掲載した出土遺物の実測・製図は、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者：井上索裕）が大分市教育委員会文化財課の委託を受け行った。
8　配置図・全体遺構図・個別遺構図の製図は、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者：同上）が大分市教育委員会文化財課の委託を受け行った。
9　総括図版の作成・製図作業は留野優兵（大分市教育委員会文化財課嘱託）が行った。
10　遺物写真撮影は、大分市教育委員会文化財課の委託を受け、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者：同上）が行った。
11　本書の執筆は以下のとおりである。
　第Ⅰ章　池邉　千太郎（大分市教育委員会文化財課）
　第Ⅱ章　井上　索裕（株式会社九州文化財総合研究所）
　第Ⅲ章　同上
　第Ⅳ章　留野　優兵（大分市教育委員会文化財課　嘱託）
12　本書の編集は、大分市教育委員会と株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者：同上）の双方の企画の下、株式会社九州文化財総合研究所（業務責任者：同上）が行った。
13　出土遺物・記録資料は、大分市埋蔵文化財保存活用センター（大分市大字田原 337 番地の 5）に収蔵・保管している。
14　報告書の作成業務については、『大分市埋蔵文化財発掘調査報告書作成指針』に基づいて実施している。
15　発掘調査及び報告書作成に際して、以下の方々に御指導・ご助言を賜った。
　小野　正敏（大学共同利用機関法人　人間文化研究機構元理事）、伊藤　正義（鶴見大学文学部教授）、金原　正明（奈良教育大学理科教育講座　古文化財科学　教授）

# 凡　　例

1　本書で用いた遺構記号と遺構掲載順番は、以下のとおりである。
　① SB：掘立柱建物跡、② SA：柵状遺構、③ SE：井戸跡、④ SK：土坑・貯蔵穴、⑤ SD：溝状遺構、⑥ SX：その他、⑦ SP：ピット・小穴
2　本書に用いた方位は全て座標北（G.N.）である。座標は、世界測地系の平面直角座標Ⅱ系の X・Y 座標を基点として表記している。
3　本書に掲載した遺構配置図の表記は、新旧関係を実線で示し下位の遺構については点線で記している。また、表記上遺構の新旧関係が不明瞭な場合は、矢印で補足している。
4　遺構の規模と深度の単位はメートル（m）で、遺物の法量はセンチメートル（㎝）で表記している。
5　本書に掲載した遺物の実測図の表記は、以下のとおりである。
　①遺物断面が黒塗りのもの…陶器・須恵器・須恵質土器　　②遺物断面が灰色のもの…瓦質土器・瓦器・瓦類
　③遺物平面の稜線と調整の変換点…実線　　④調整が同じでその単位が分かるもの…長破線
6　本書に用いた出土土器の分類は以下の文献による。
　［陶磁器］　太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊ＸＶ―陶磁器分類編―』
　　小野正敏 1982「15 ～ 16 世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2
　　上田秀夫 1982「14 ～ 16 世紀の青磁椀の分類について」『貿易陶磁研究』No.2
　　森田　勉 1982「14 ～ 16 世紀の白磁の分類について」『貿易陶磁研究』No.2
　［陶器類］　乗岡　実 2005「備前」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年資料集』
　［中世須恵器］（東播系）森田　稔 1995「中世須恵器」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社



# 目　　次

第Ⅰ章　はじめに ……1
　第１節　調査経過 ……1
　第２節　調査組織 ……1

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境 ……2
　第１節　地理的環境 ……2
　第２節　歴史的環境 ……2

第Ⅲ章　調査の成果 ……5
　第１節　調査の概要 ……5
　第２節　基本層序 ……6
　第３節　主要遺構 ……10
　第４節　出土遺物 ……28

第Ⅳ章　総括 ……50
　第１節　時期別の遺構変遷 ……50
　第２節　周辺調査区との比較 ……53
　第３節　まとめ ……54

# 図版目次

第１図　周辺遺跡分布図 (1/25,000) …… 2
第２図　調査地点位置図 (1/10,000) …… 3
第３図　周辺調査区配置図　(1/500) …… 5
第４図　土層模式図 …… 6
第５図　調査区西側西壁土層図 (1/80) …… 7
第６図　第１面遺構配置図 (1/200) …… 8
第７図　第１面全体遺構図 (1/200) …… 9
第８図　SB090 遺構実測図 (1/80) …… 10
第９図　SB095 遺構実測図 (1/80) …… 11
第 10 図　SB100・SB105 遺構実測図 (1/80) …… 13
第 11 図　SB110・SB115 遺構実測図 (1/80) …… 14
第 12 図　SE070 遺構実測図 (1/60) …… 15
第 13 図　SK005・SK010 遺構実測図 (1/40) …… 16
第 14 図　SK015・SK020 遺構実測図 (1/40・1/30) …… 17
第 15 図　SK025・SK030 遺構実測図 (1/40) …… 18
第 16 図　SK035・SK040(075・204)
　遺構実測図 (1/40・1/60) …… 19
第 17 図　SK045・SK050 遺構実測図 (1/40) …… 20
第 18 図　SD065 遺構実測図・土層断面図 (1/60・1/40) … 22
第 19 図　第２面遺構配置図 (1/200) …… 24
第 20 図　第２面全体遺構図 (1/200) …… 25
第 21 図　SK080・SK085 遺構実測図 (1/40) …… 26
第 22 図　SD060 遺構実測図 (1/40) …… 27
第 23 図　SB090・100・105・110・115　SE070
　SK005・010・015・020 出土遺物実測図 (1/4) …… 29
第 24 図　SK020・025・030・035・040・040(075)・
　040(204)・045・050・080 出土遺物実測図 (1/4) … 30
第 25 図　SK080・085・108・134　SD060
　出土遺物実測図 (1/1・1/4) …… 31
第 26 図　SD060・065・161・228
　SP017・023・074・087・191・234
　出土遺物実測図 (1/1・1/4) …… 32
第 27 図　SX141　その他出土遺物実測図 (1/1・1/4) …… 33
第 28 図　時期別遺構変遷図 (1/400) …… 51
第 29 図　周辺遺構分布図 (1/600) …… 52
第 30 図　調査区周辺模式図 …… 52
第 31 図　各時期遺物組成 …… 54

# 表 目 次

第 1 表　遺構出土遺物一覧表①……39
第 2 表　遺構出土遺物一覧表②……40
第 3 表　遺構出土遺物一覧表③……41
第 4 表　遺構出土遺物一覧表④……42
第 5 表　遺構出土遺物一覧表⑤……43
第 6 表　遺構出土遺物一覧表⑥……44
第 7 表　遺構出土遺物一覧表⑦……45
第 8 表　遺構出土遺物観察表①……46
第 9 表　遺構出土遺物観察表②……47
第 10 表　遺構出土遺物観察表③……48
第 11 表　遺構出土遺物観察表④……49

# 写真図版目次

写真図版 1
調査区遠景（北西より）
第 1 面調査区全景（上が南）

写真図版 2
第 1 面調査区西側ピット群完掘状況（上が南）
第 1 面調査区東側全体遺構写真（西より）

写真図版 3
第 1 面調査区中央西側全体遺構写真（東より）
第 2 面調査区東側全体遺構写真（西より）

写真図版 4
第 2 面調査区西側ピット群完掘状況（南より）
第 2 面調査区中央西側全体遺構写真（東より）

写真図版 5
SE070 東西土層（南より）
SE070 掘削状況（南より）
SK005 完掘状況（東より）
SK010 完掘状況（北より）
SK015 完掘状況（東より）
SK020 遺物出土状況（東より）
SK025 完掘状況（北より）
SK030 完掘状況（南より）

写真図版 6
SK035 遺物出土状況（北より）
SK035 完掘状況（北より）
SK040（075・204）検出状況（南より）
SK040（204）検出状況（東より）
SK040（075・204）東西土層（南より）
SK040（204）東西土層（南より）
SK040（204）遺物出土状況近景（南より）
SK040（075）完掘状況（東より）

写真図版 7
SK045 完掘状況（南より）
SK050 完掘状況（南より）
SD060 検出状況（南より）
SD060 東西土層（南より）
SD060 完掘状況（南より）
SD065・SE070 検出状況近景（南より）
SD065・SE070 検出状況近景（南より）
SD065 北側ベルト東西土層（南より）

写真図版 8
SD065 南ベルト東西土層（南より）
SD065 完掘状況（南より）
SK080 検出状況（南より）
SK080 遺物出土状況（南より）
SK085 検出状況（西より）
SK085 遺物出土状況（西より）
SK085 中央・南側遺物出土状況近景（西より）
SK085 完掘状況（西より）

写真図版 9
調査区中央北壁面東西土層（南より）
調査区西側西壁面南北土層（東より）
調査区西側西壁面南北土層近景 1（東より）
調査区西側西壁面南北土層近景 2（東より）
調査区西側西壁面南北土層近景 3（東より）
調査区東側北壁面東西土層（南より）
調査区西側拡張部全景（東より）
調査区西側拡張部北壁東西土層（南より）

写真図版 10
第 23 図 -7 / 第 23 図 -18 / 第 23 図 -26
第 23 図 -28/ 第 23 図 -35 / 第 23 図 -43 外面
第 23 図 -43 内面 / 第 24 図 -1 / 第 24 図 -9 外面
第 24 図 -9 内面 / 第 24 図 -15 / 第 24 図 -22
第 24 図 -23/ 第 24 図 -28 / 第 24 図 -30
第 24 図 -31/ 第 24 図 -47 外面 / 第 24 図 -47 内面

写真図版 11
第 24 図 -58 / 第 24 図 -59 / 第 25 図 -2
第 25 図 -6 / 第 25 図 -12 / 第 25 図 -24
第 25 図 -25 / 第 25 図 -30 / 第 25 図 -31
第 25 図 -41 / 第 25 図 -42 / 第 25 図 -44
第 25 図 -54 / 第 25 図 -55 / 第 25 図 -56
第 25 図 -59 / 第 25 図 -60 / 第 25 図 -61

写真図版 12
第 25 図 -66 / 第 26 図 -6 / 第 26 図 -7
第 26 図 -15 外面 / 第 26 図 -15 内面 / 第 26 図 -16
第 26 図 -17 / 第 26 図 -23 / 第 27 図 -3
第 27 図 -8 / 第 27 図 -11 / 第 27 図 -12 外面
第 27 図 -12 内面 / 第 27 図 -21 / 第 27 図 -22
第 27 図 -24 / 第 27 図 -26 / 第 27 図 -27

# 第Ⅰ章　はじめに

## 第１節　調査経過

平成 26 年 6 月に、大分市顕徳町 3 丁目における、集合住宅建設計画に伴い、開発事業者から文化財課に周知の埋蔵文化財包蔵地の照会がなされた。開発予定地は、国指定史跡の大友氏館跡の北側隣接地に位置し、平成 13 年度に実施された遺跡の確認調査により、中世の大型の掘り込み遺構や区画溝、建物跡等が発見されている地点である。これまでの開発事業において、開発と埋蔵文化財の保護の円滑な調整を図るなかで、遺構保存を行ってきたところであり、こうした経過を事業者に説明するとともに遺跡の取り扱いについて協議を進めるなかで、事業者から埋蔵文化財調査費用の積算について平成 26 年 6 月 18 日付けで依頼を受けた。このため、確認調査結果を基に遺跡に影響を及ぼす範囲の発掘調査に要する費用積算を行い、6 月 23 日付けで事業者に提示した。

その後、開発事業計画が具体化し、事業者より平成 27 年 2 月 17 日付けで文化財保護法第 93 条の届出がなされ、遺跡の取り扱いについて、平成 27 年 3 月 5 日付けで大分県教育委員会教育長野中信孝より発掘調査の実施について指示が行われた。

これを受けて、事業者から埋蔵文化財調査費用の積算について、平成 27 年 5 月 1 日付けで再度依頼があり、設計図書を踏まえたより詳細な費用積算のための確認調査を同年 5 月 20 ～ 22 日に実施し、調査範囲を絞り込むなかで、5 月 29 日付けで積算結果を提示した。また、工事計画と発掘調査の円滑な調整を図るため実施計画を作成し、開発者の同意が得られたため、発掘調査の実施等について、平成 27 年 6 月 18 日付けで、埋蔵文化財発掘調査業務等協定を締結し、この協定書に基づき、大分市顕徳町 3 丁目における埋蔵文化財の発掘調査委託契約を開発事業者である、株式会社アライアンス代表取締役　中垣昌康氏と締結した。

発掘調査は、開発事業者からの資金協力を得て平成 27 年 9 月 30 日に完了することを条件に平成 27 年 7 月 14 日に着手し、第 1 面目の調査を 9 月 4 日までに終了した。その後、第 2 面目の調査を継続して行い、埋戻しを含めて 9 月 30 日までにすべての調査を完了した。調査面積は 522.4 ㎡である。なお、遺跡の記録資料や出土遺物等の整理作業は調査の終了後に引き続き行い、報告書の作成を平成 28 年 3 月 25 日まで行った。

## 第２節　調査組織

調査主体者　大分市教育委員会　教育長　三浦　享二

**調査体制 ( 平成 27 年度 )**

文化財課

文化財課長　塔鼻　光司
参事　長野　清尊
　　坪根　伸也
特別顧問　玉永　光洋
歴史資料館館長　武富　雅宣
副館長　安東　俊昭
顧問　讃岐　和夫

埋蔵文化財担当班
班長 (ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ)　池邉千太郎
主事　松浦　憲治 ( 調査担当 )
嘱託職員　留野　優兵 ( 調査・整理担当 )

管理庶務担当班
班長 (ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ)　首藤　敏行
主査　竹中　智美
主任　朝川　貴俊

# 第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

## 第１節　地理的環境

大分市は九州の北東部に位置しており、北には瀬戸内海西端の別府湾、東には佐賀関半島から豊後水道、南には祖母・傾山系、西には九重連山が広がっている。別府湾に面する一帯には大分平野が広がり、九重連山や由布山系に源流を発する大分川が東流し、上野台地を境に北流して別府湾に注いでいる。大分川は大分平野西半部の形成にかかる主要河川であり、流域には沖積低地や台地・丘陵が形成され、上野台地よりも下流域では自然堤防・後背湿地・旧河道・浜堤などの微地形が複雑に広がっている。

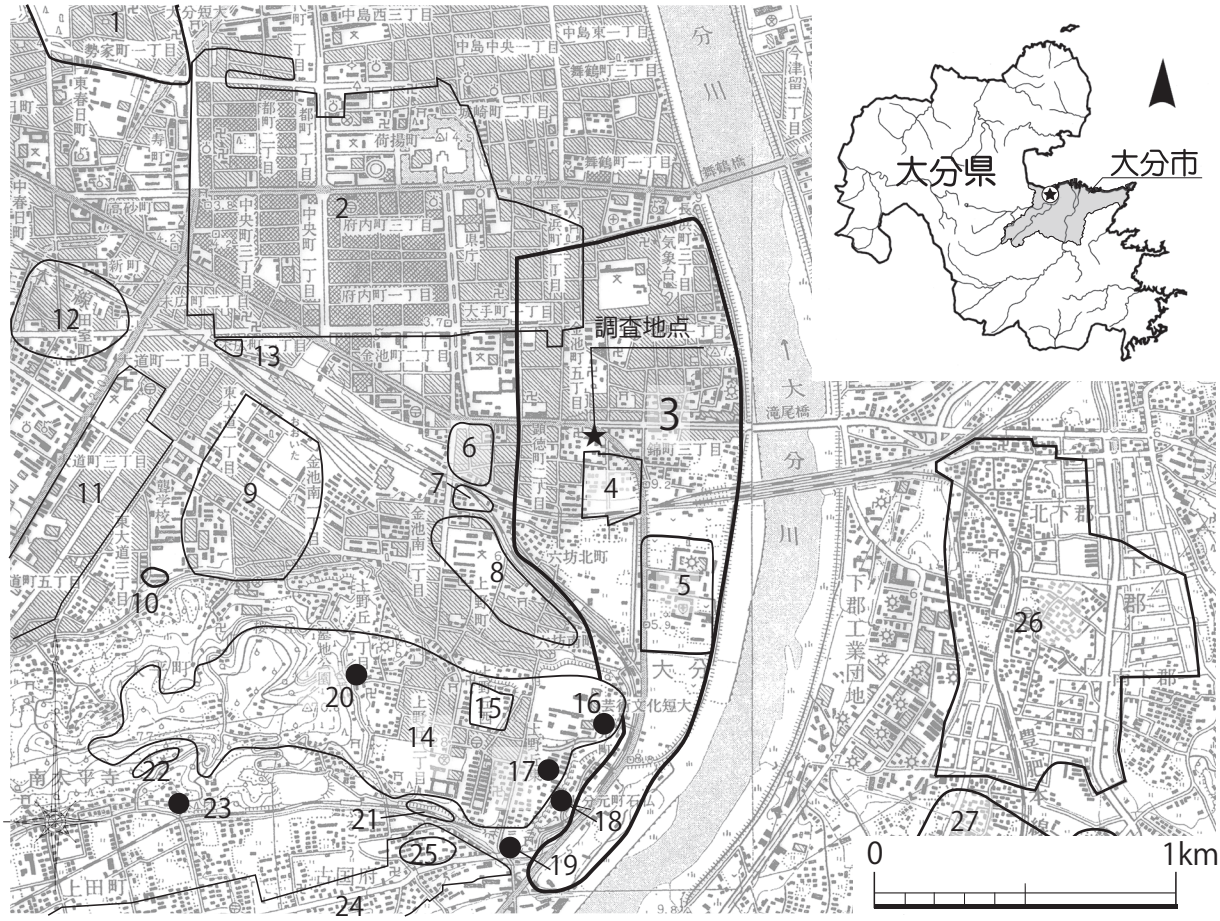
中世大友府内町跡第 112 次調査区は大分川河口部左岸に形成された標高 4 ～ 5m の河岸段丘上に位置しており、南側にはこれら河口部の微高地を望む標高 30 ～ 40m の上野台地が東西方向に延びている。

## 第２節　歴史的環境

中世大友府内町跡が位置する大分川左岸の沖積平野には後背湿地や微高地が、南には丘陵が広がり、北は海に面するという環境であり、多くの遺跡が存在し古くから人々が生活する場となっている。

ここでは、周辺地域を含め旧石器時代～中世に至る歴史的環境について述べることとする。

旧石器時代では明確な遺構は確認されていないが上野遺跡群が、縄文時代では大道遺跡群や羽屋・園遺跡、下郡遺跡群や大分川河川敷遺跡があげられる。弥生時代では上野遺跡群や下郡遺跡群が、古墳時代では大臣塚古墳




1　勢家遺跡　2　府内城・城下町　3　中世大友府内町跡　4　大友氏館跡　5　蒋山万寿寺跡　6　金池南遺跡　7　上野町遺跡　8　若宮八幡宮遺跡　9　大道遺跡群
10　東大道遺跡　11　大道条里跡　12　東田室遺跡　13　末広遺跡　14　上野遺跡群　15　上野大友館跡 ( 上原館跡 )　16　大臣塚古墳　17　上野竜王畑遺跡　18　大分元町石仏
19　岩屋寺石仏　20　上野廃寺　21　岩屋寺横穴墓群　22　南太平寺横穴墓群　23　伽藍石仏　24　古国府遺跡群　25　岩屋寺遺跡群　26　下郡遺跡群　27　羽田遺跡

第１図　周辺遺跡分布図 (1/25,000)

や南太平寺横穴墓群、大道遺跡群があげられる。

古代においては、豊後国や大分郡の中心施設は大分川の下流域に設置されたと考えられている。大分郡衙はその地名から大分川右岸の下郡遺跡群に比定され、豊後国府の所在地については古国府遺跡群と上野台地上が候補地として考えられてきた。古国府遺跡群は「古国府」の地名が残る有力地であり、羽屋・井戸遺跡（古国府遺跡群第 10 次）や羽屋・園遺跡では掘立柱建物群や倉庫群が確認されている。一方上野台地上に関しては文献資料で「高（隆）国府」の地名がみられ、上野台地東端部に位置する上野竜王畑遺跡からは 9 世紀代と思われる築地塀跡や掘立柱建物群、道路状遺構が確認されており国司館の可能性が指摘されている。台地東南端には平安時代末期頃と考えられる元町石仏・岩屋寺石仏が彫られており、上野台地上には官衙関連施設や宗教施設が点在しており現状では豊後国府の推定地として最も有力とされている。

鎌倉時代に入り、大友氏が豊後国に入ったのが建久 4 年（1193）とも同 7 年（1196）とも言われるが、初代能直や第 2 代親秀はともに守護として入国した事実は無い。実際に豊後国に最初に入国したのは 13 世紀中頃の第 3 代頼泰とされるが、大友氏館跡の調査からはこの段階の遺構は確認されていない。中世大友府内町跡で遺構が確認され、大友氏による都市の建設が窺えるのは 14 世紀になってからである。その契機としては第 5 代貞親が徳治元（1306）年に万寿寺を建立したことが挙げられるが、14 世紀代の遺構はこれまでの中世大友府内町跡の発掘調査結果全体からすると限定的である。当時の府内町としての遺構が広範囲にわたり展開するのは 15 世紀後半からである。順次町の整備が行われてきたが、第 21 代義鎮（宗麟）、第 22 代義統（吉統）の治世下である 16 世紀後半に最も発展する。

町は「大分市史」の「地籍図に残る戦国時代の府内・戦国時代の府内復原想定図」によると、南北 2.1km、東西 0.7km の範囲に及び堺や博多に並ぶ規模であると考えられている。

当時の町の様子を表した資料に 16 世紀末頃の様子を描いた「府内古図」があり、大友館を中心として南北に 4 本・東西に 5 本の道路を格子状に配置し、道路に沿って 40 以上の町屋が形成されていたことが描かれている。また、町域には万寿寺をはじめとする仏教寺院やキリスト教会であるダイウス堂等の様々な宗教施設が点在していた様子がうかがえる。このように「府内古図」からも、府内の町は南蛮貿易等によりポルトガル人宣教師や商人、中国・東南アジア地域の国際色豊かな人々が行き交う国際貿易都市であったことがうかがえる。

第 2 図　調査地点位置図 (1/10,000)

しかし、繁栄を極めた大友氏も薩摩の島津氏との争いに敗れ、府内のまち域も天正 14（1586）年島津軍の侵攻により焼失し、その後一定の範囲で復興するものの、文禄 2 年（1593）義統が朝鮮出兵時の失態により豊後国を除国されたことによって大友氏による豊後国支配は終焉を迎える。除国後の豊後は分割統治され府内地域の領主も次々に変わっていった。その中で慶長 6（1601）年に入封した竹中重利が現在の府内城の修増築工事と城下の建設を行い、城下については城の周囲に碁盤目状に区画された町屋を形成し、中世大友府内町に所在した町や寺院を町名ともども移転させ、新たな街づくりを行っている。これにより、近世の府内城とその城下が完成し、現在の大分市中心部の原型ができあがった。



（過去の調査）

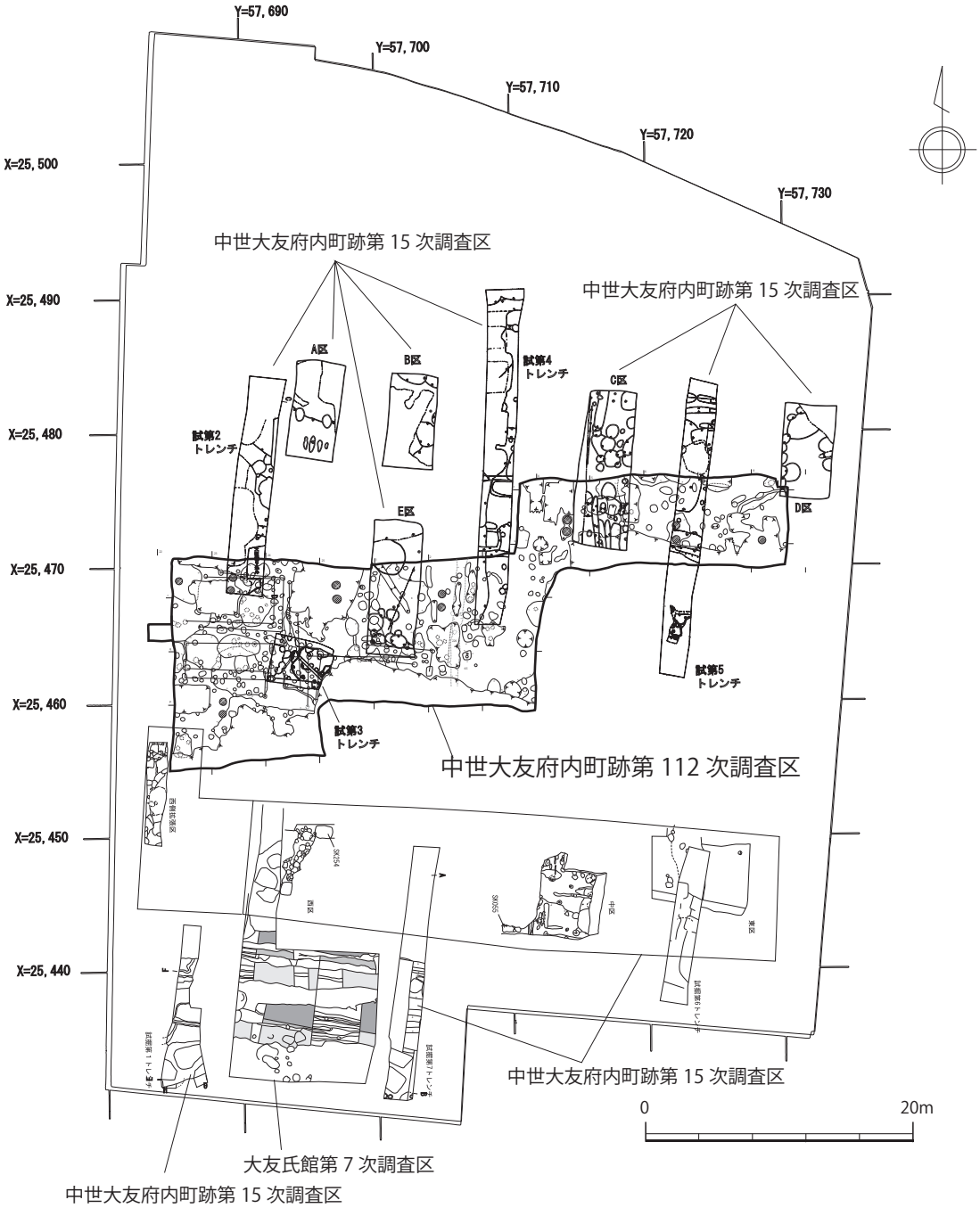
今回調査を行った中世大友府内町跡第 112 次調査区は大友氏館跡北側に隣接し、前述の「府内古図」によると「御北町」に推定される。周辺におけるこれまでの調査は、本調査区に一部重複する形で中世大友府内町跡第 15 次調査が、さらにその南側において大友氏館跡第 7 次調査が行われている。館 7 次調査では、大友氏館の北側推定外郭線上において、2 条 1 組となる溝状遺構に挟まれた積土遺構が確認されており、大友氏館の北側外郭施設の一部と推定されている。町 15 次調査では大規模な攪乱や削平により、遺構の残存状態が悪く、館の北辺に沿う東西道路跡の検出には至らなかった。また、「御北町」の状況把握においては部分的であるが、当時の生活痕を示す柱穴や廃棄土坑群が確認されている。

# 第Ⅲ章　調査の成果

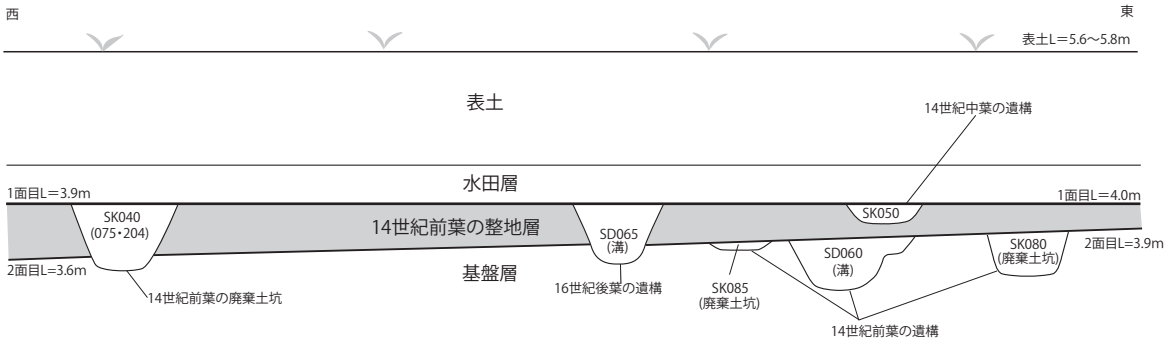
## 第１節　調査の概要

調査地点は大分市顕徳町３丁目に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地である中世大友府内町跡のほぼ中心部にあたる。「府内古図」によると推定「御北町」にあたる場所で、大友氏館跡の北側境界と接する部分でもある。

今回の調査は、民間の集合住宅建設に伴い、中世大友府内町跡第 112 次調査として平成 27 年７月 14 日から同年９月 30 日の期間に実施したものである。調査範囲は、事前の確認調査や中世大友府内町跡第 15 次調査の結果を踏まえて、遺跡に影響を及ぼす建物の基礎部分を中心に調査区を設定した。調査は、標高 3.8 ～ 4.0m で検出される整地層（茶褐色土）を第１面目の遺構検出面に、それより下位の標高 3.6 ～ 3.9m の整地層の最下位




第３図　周辺調査区配置図　(1/500)



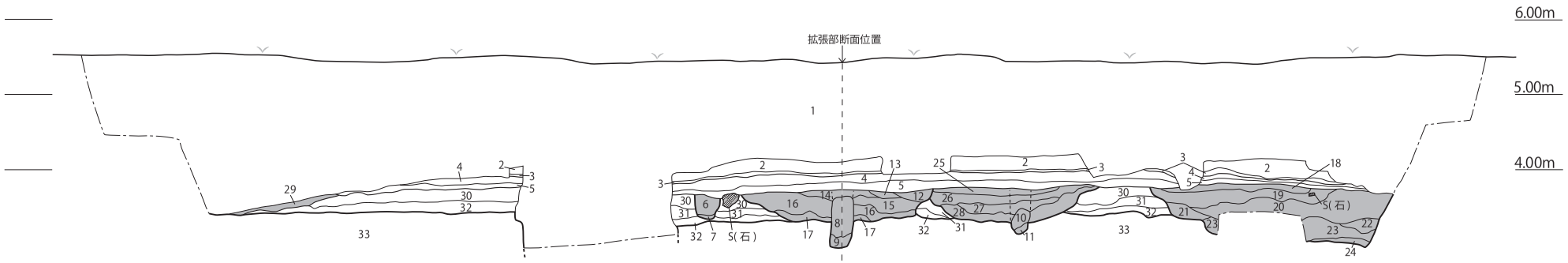

第４図　土層模式図

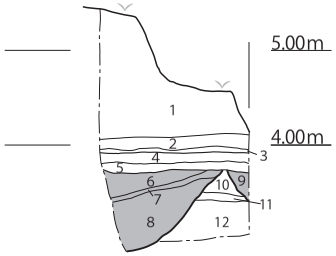
層である暗灰黄色土を第２面目の遺構検出面、標高約 3.4m の明黄褐色粘質土を地山（基盤層）として捉え、層序に従って順次堀削を行った。調査面積は、522.4 ㎡である。

調査の結果、上位層である第１面からは 14 世紀中葉～ 16 世紀後葉にかけての掘立柱建物跡６棟、溝状遺構２条、土坑 20 基前後、ピット 200 基前後を確認した。下位層である第２面目からは 14 世紀前葉段階の溝状遺構１条や土坑３基などが確認され、主に調査区の東側に分布している。なお、第３南北街路の有無を確認するため埋戻しの際に調査区西壁にトレンチを入れたところ、土層の観察により南北に延びる溝状遺構を確認している。

## 第２節　基本層序

第４図は調査区北壁を基本に作成した土層模式図である。本調査区の上位層は後世の建物建設等に伴うカクランによって大きく削平されており、地表面から 1.6 ～ 1.9 mにわたり現代の造成土である第１層が認められる。その下に水田耕作土である第２層、水田盤である第３層が見られ、この直下が遺物包含層である第 4･5 層である。遺物包含層からは土師器耳皿 B や龍泉窯系青磁坏・碗、銅銭等が出土している。その下に整地層である第 30・31・32 層が見られ、土師器坏・小皿 A や土師器耳皿 B 等が出土している。第１面である第 30 層からは 14 世紀中～後葉に位置づけられる SK050 や 16 世紀代の SD065 などが検出され、第２面である第 32 層からは 14 世紀前半に位置づけられる SD060 や SK085 等が検出されている。整地層の下には安定地盤である第 33 層が認められる。



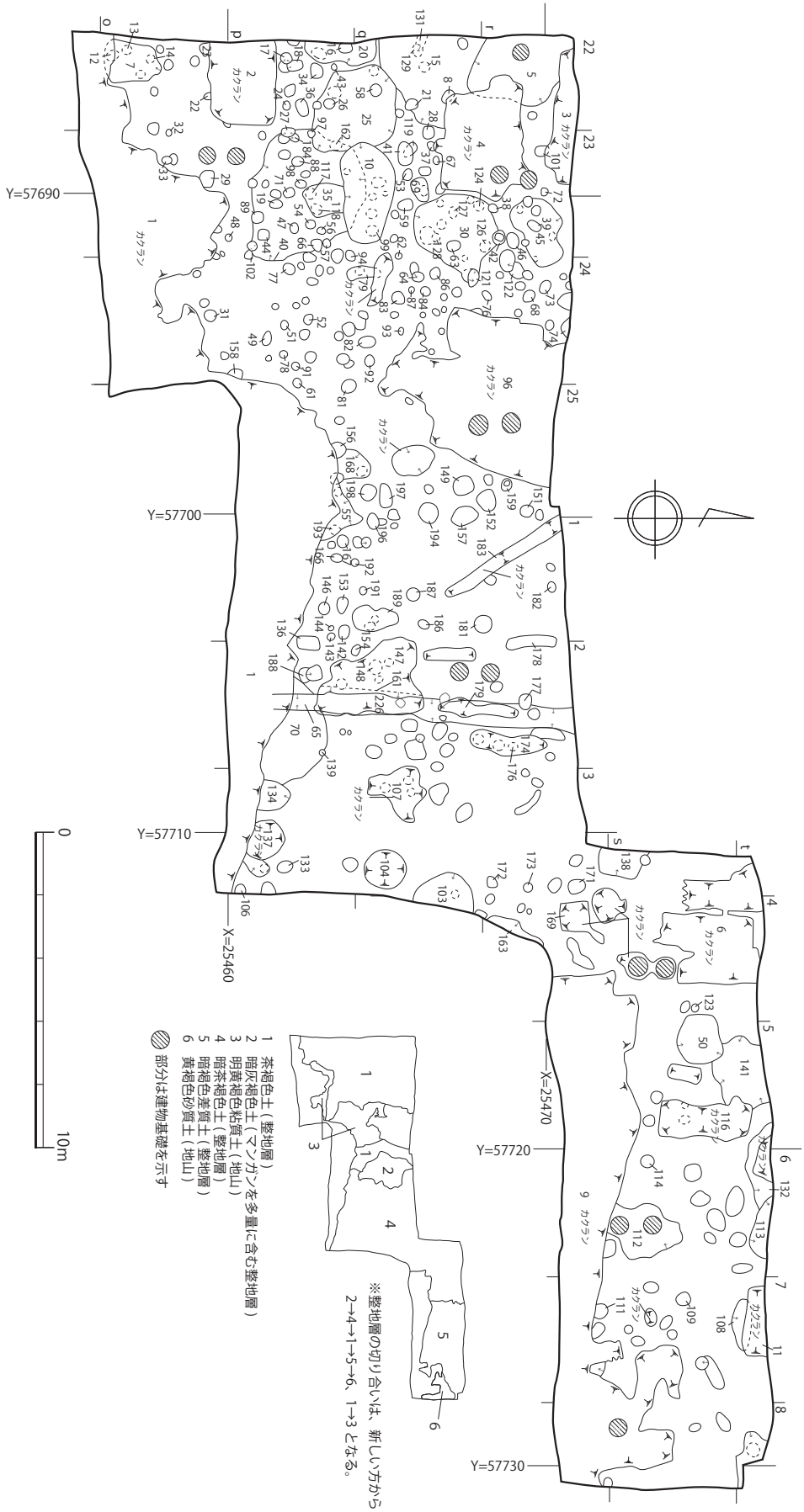



拡張部東西土層断面

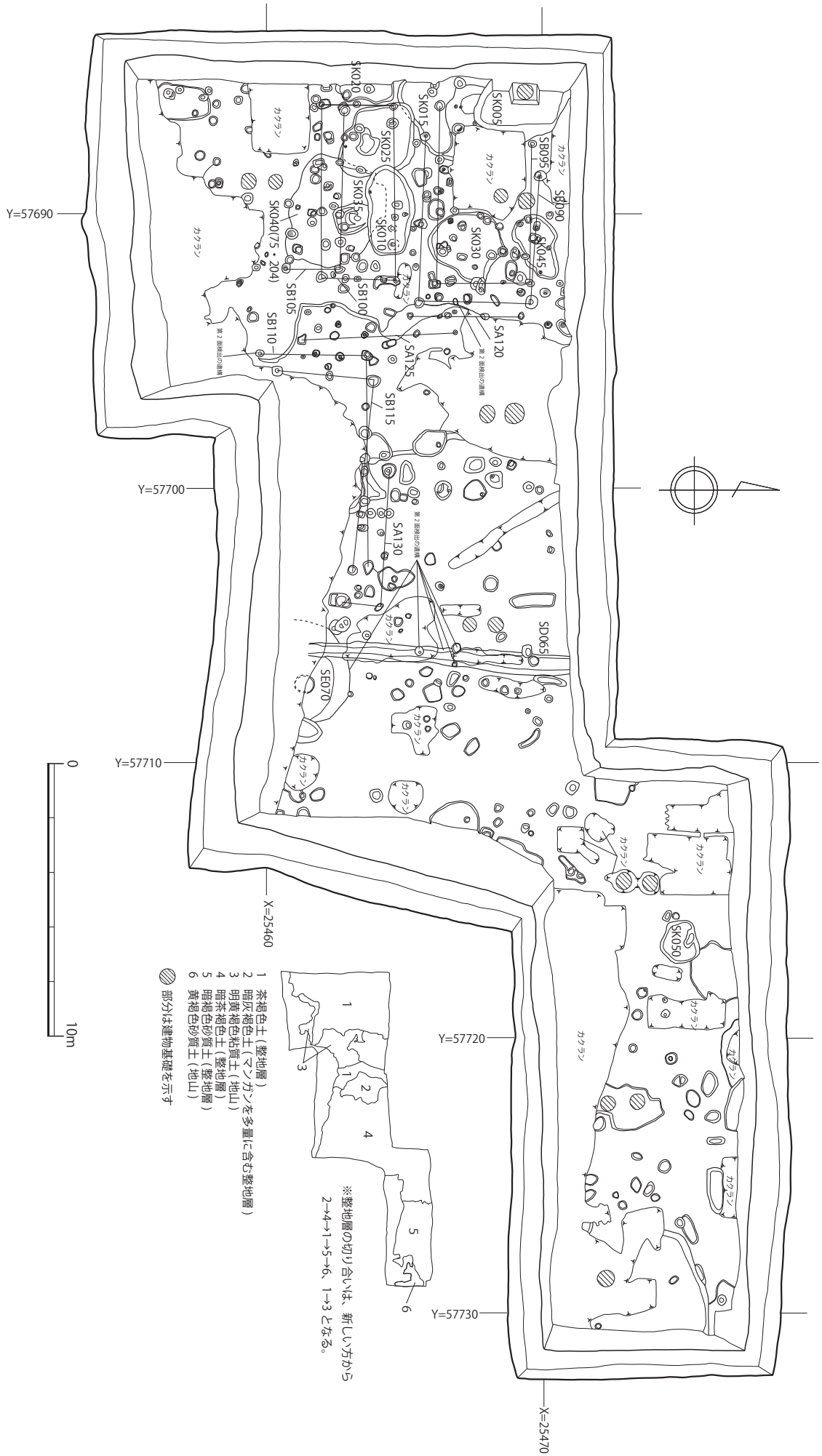
1. 灰色砂 ( 調査区西側西壁土層における（以下同）第 1 層に相当)
2. 灰黒色粘質土 ( 第 2 層に相当 )
3. 赤褐色土 ( 第 3 層に相当 )
4. 灰褐色土 ( 第 4 層に相当 )
5. 灰褐色土 ( 第 5 層に相当 )
6. 灰褐色土 ( 溝状遺構埋土 )
7. 茶褐色土 ( 溝状遺構埋土 )
8. 灰褐色粘質土 ( 溝状遺構埋土 )
9 . 茶灰色土 ( 第 8 層に相当。SP016 の埋土 )
10. 赤褐色土 ( 第 31 層に相当 )
11. 暗灰黄色土 ( 第 32 層に相当 )
12. 明黄褐色粘質土 ( 第 33 層に相当 )

1. 灰色砂 ( 現代の造成土 )
2. 灰黒色粘質土 ( 水田耕作土 )
3. 赤褐色土 ( 水田盤 )
4. 灰褐色土 ( 遺物包含層。マンガンを含む )
5. 灰褐色土 ( 遺物包含層 )
6. 茶灰色土 ( 遺構埋土。炭化物・焼土粒を少量含む )
7. 茶灰色土 ( 遺構埋土。黄褐色土粒を含む )
8. 茶灰色土 ( 黄褐色土粒・炭化物・焼土粒を少量含む ) } SK016 の埋土
9. 茶灰色土 ( 黄褐色土ブロックを少量含む )
10. 茶灰色土 ( 黄褐色土粒・炭化物・焼土粒を少量含む ) } SP131 の埋土
11. 茶灰色土 ( 黄褐色土ブロックが混じる )
12. 茶褐色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む )
13. 褐灰色土
14. 褐灰色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む )
15. 暗灰褐色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む ) } SK020 の埋土
16. 暗灰褐色土 ( 黄褐色土粒・炭化物・焼土粒を含む )
17. 暗灰褐色土 ( 黄褐色土ブロックが混じる )
18. 褐灰色土
19. 褐灰色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む )
20. 暗褐色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む ) } SK005 の埋土
21. 暗褐色土 ( 黄褐色土粒を含む )
22. 暗褐色土 ( 黄褐色土ブロックを含む )
23. 暗灰褐色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む ) } SK005 の埋土
24. 灰黄褐色土 ( 黄褐色土粒を多量に含む )
25. 褐色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む )
26. 灰黄褐色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む ) } SK015 の埋土
27. 暗褐色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む )
28. 暗灰色土 ( 炭化物・焼土粒を少量含む )
29. 灰黄褐色土 ( 黄褐色土粒を少量含む ) } SX007 の埋土
30. 茶褐色土 ( 整地土。黄褐色土粒を少量含む )
31. 赤褐色土 ( 整地土 )
32. 暗灰黄色土 ( 整地土。黄褐色土ブロックを多量に含む )
33. 明黄褐色粘質土 ( 地山 )

第 5 図　調査区西側西壁土層図 (1/80)




第６図　第１面遺構配置図 (1/200)




第７図　第１面全体遺構図 (1/200)

# 第３節　主要遺構

## (1) 第１面

### 掘立柱建物跡

### SB090( 第８図 )

調査区西側の q・ r 22 ～ 24 グリッドで検出された桁行３間以上 × 梁行３間、身舎面積 24 ㎡以上の掘立柱建物跡で建物主軸方向 N-87°　-W の東西棟である。重複関係は、SB090 の柱穴 b が SK045 を切っている。

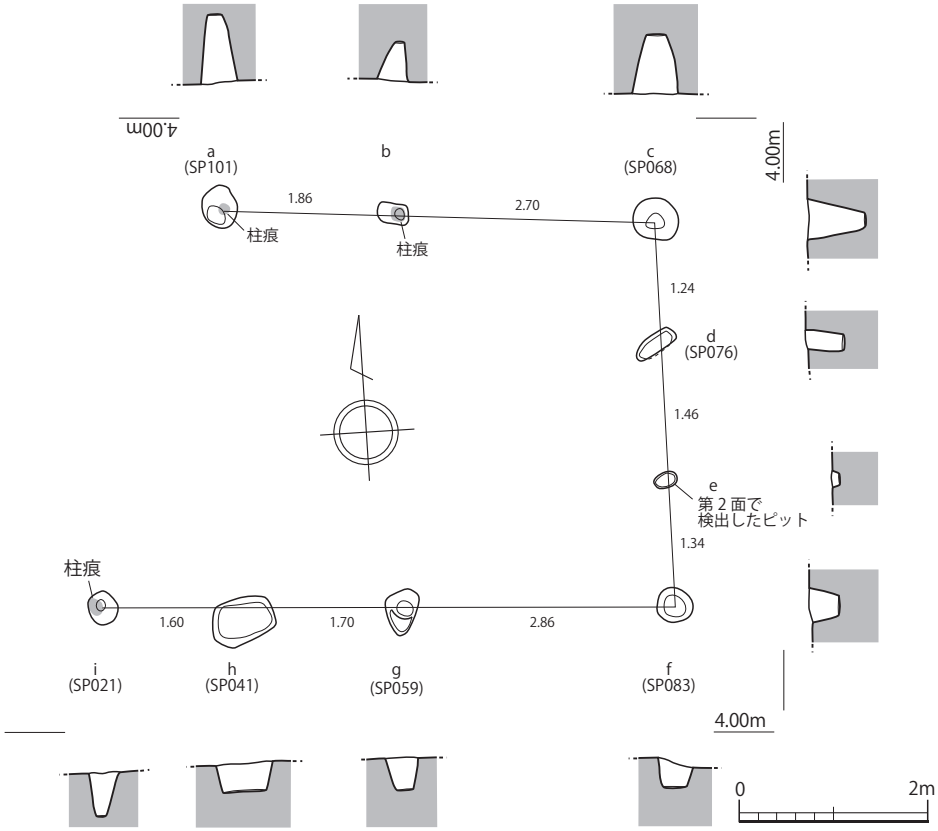
柱穴 e については、第２面目で検出した。柱穴の平面形状は楕円形や円形を呈する。柱穴の規模 ( 第２面目で検出した柱穴 e を除く ) は直径 0.19 ～ 0.67 m、検出面からの深度は 0.32 ～ 0.74 mを測る。SB090 を構成する柱穴９基のうち､柱穴３基から柱痕あるいは抜取痕を検出した。柱間は桁行が 1.60 ～ 2.86 m､梁行が 1.24 ～ 1.46 mで、桁行の間隔については東側部分が他の部分より 1 m程度広くなっている。

柱穴 a(SP101)・f(SP083)・i(SP021) から土師器皿 C の破片が出土しており、建物の年代は 16 世紀中葉～後葉頃に位置づけられる。

### SB095( 第９図 )

調査区西側の q・r22 ～ 24 グリッドで検出された桁行３間以上 × 梁行２間、身舎面積 22 ㎡以上の掘立柱建物跡で建物主軸方向 N-88°　-W の東西棟である。SB090 の建物ラインと重複する形で検出されており、周辺遺構との重複関係は柱穴 h が SK015 に切られ、柱穴 b が SK045 を切り、柱穴 d(SP121) が SK030 を切っている。

柱穴の平面形状は楕円形や隅丸方形を呈し、柱穴の規模は直径 0.26 ～ 0.77 m、検出面からの深度は 0.23 ～ 0.54 mを測る。SB095 を構成する柱穴８基のいずれからも、柱痕あるいは抜取痕は確認できなかった。柱間は、桁行が 1.90 ～ 2.72m、梁行が 1.68 ～ 1.76m で、桁行の間隔についてはバラつきが認められる。




第８図　SB090 遺構実測図 (1/80)

柱穴 d(SP121)・e(SP064)・f(SP069)・g(SP028) から土師器片や土師質土器片が出土しているが、細片であるため明確な建物の年代は不明である。ただし、柱穴 d が 16 世紀中葉～後葉段階の SK030 を切っている状況から、16 世紀後葉以降に建築されたものと推定される。

### SB100( 第 10 図 )

調査区西側の p・q22 ～ 24 グリッドで検出された桁行 3 間 × 梁行 2 間、身舎面積 16.67 ㎡の掘立柱建物跡で建物主軸方向 N-88°-W の東西棟である。SB090、SB095 の南側に位置し、周辺遺構との重複関係は SB100 の柱穴 b が SK010 に切られ、柱穴 a が SK015 に切られ、柱穴 f(SP071)・柱穴 g(SP184) が SK040 を切っている。

柱穴の平面形状は楕円形や不整楕円形を呈し、柱穴の規模は直径 0.18 ～ 0.95 m、検出面からの深度は 0.22 ～ 0.70 mを測る。SB100 を構成する柱穴 9 基のいずれからも、柱痕あるいは抜取痕は確認できなかった。柱間は、桁行が 1.64 ～ 2.38 m、梁行が 1.24 ～ 1.38 mで、桁行の間隔についてはバラつきが認められる。

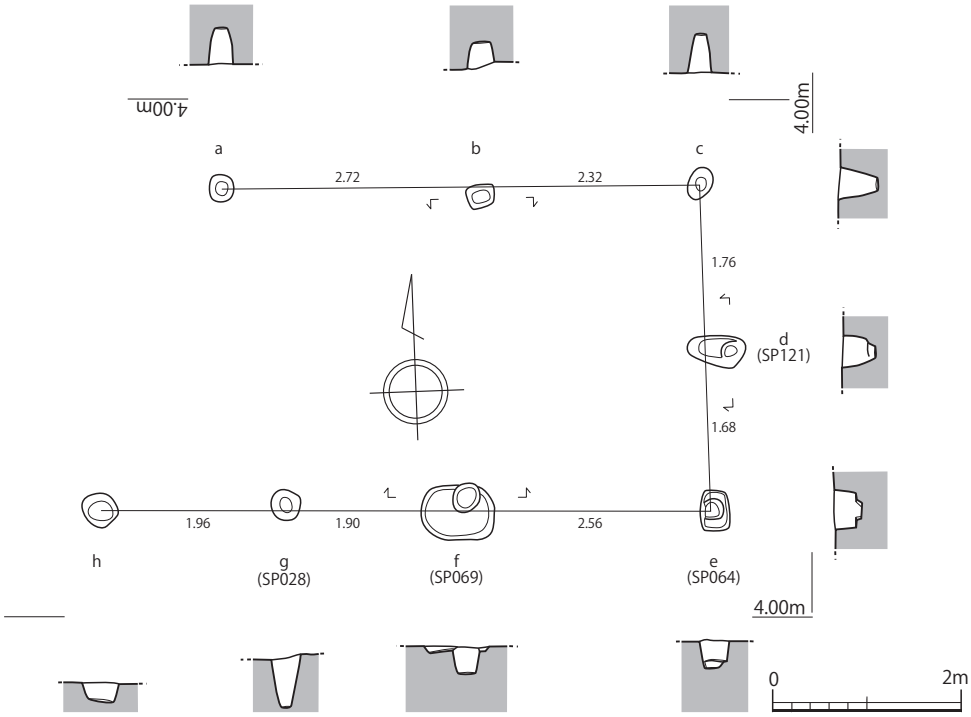
柱穴 g から瓦器椀、瓦質土器擂鉢 ( 防長系 ) が出土し、柱穴 c(SP079)・柱穴 e(SP077) から土師器坏 B 片が出土している。建物の年代は、土師器坏 B から 15 世紀末葉～ 16 世紀前葉頃と考えられる。

### SB105( 第 10 図 )

調査区西側の p22 ～ 23 グリッドで検出された桁行 3 間以上 × 梁行 1 間以上、身舎面積 11.33 ㎡以上の掘立柱建物跡で建物主軸方向 N-88°-W の東西棟である。SB100 の南側に位置し、周辺遺構との重複関係は、SB105 の柱穴 b(SP097) が SK025 を切り、柱穴 c(SP117) は SK035 に切られ、柱穴 d と柱穴 e(SP102) が SK040 を切っている。

柱穴の平面形状は楕円形や不整楕円形を呈し、柱穴の規模は直径 0.28 ～ 0.54 m、検出面からの深度は 0.24 ～ 0.52 mを測る。SB105 を構成する柱穴のうち、柱穴 e で柱痕が確認された。柱間は桁行が 1.92 ～ 1.98 m、梁行が 1.94 mでそれぞれの間隔は整っている。

柱穴 a から土師器坏 B 片、大内 A 式皿が出土し、柱穴 e から土師器坏 B 片が出土している。建物の年代は、土師器坏 B から 15 世紀末葉～ 16 世紀前葉頃と考えられる。




第 9 図　SB095 遺構実測図 (1/80)

### SB110( 第 11 図 )

調査区中央の p24・25 ～ p1 グリッドで検出された桁行 4 間以上 × 梁行 2 間以上、身舎面積 29.66 ㎡以上の掘立柱建物跡で建物主軸方向 N-90° -W の東西棟である。柱穴 a(SP218) のみ第 2 面で検出した。SB115 とともに SD065 の西側に位置しており、周辺遺構との重複関係は柱穴 e が SK168 を切っている。

柱穴の平面形状は楕円形や不整楕円形を呈し、柱穴の規模は直径 0.26 ～ 0.52 m、検出面からの深度は第 2 面で検出した柱穴の（SP218）を除いて 0.18 ～ 0.47m を測る。SB110 を構成する柱穴 7 基いずれからも、柱痕あるいは抜取痕は確認できなかった。柱間は桁行が 1.88 ～ 1.98 m、梁行が 1.92 ～ 1.96 mでそれぞれの間隔は概ね整っている。

柱穴 a(SP218) から吉備系土師器椀、柱穴 b(SP078) から土師器皿 C、大内 A 式土師器、柱穴 f(SP167) から土師器皿が出土している。建物の年代は、土師器皿から 16 世紀中葉～後葉頃と考えられる。

### SB115( 第 11 図 )

調査区中央の p24・25 ～ p1 グリッドで検出された桁行 4 間以上 × 梁行 2 間以上、身舎面積 24.7 ㎡以上の掘立柱建物跡で建物主軸方向 N-83° -W の東西棟である。SB110 とともに SD065 の西側に位置しており、周辺遺構との重複関係は柱穴 e が SK055 に切られている。

柱穴の平面形状は楕円形や不整楕円形を呈し、柱穴の規模は直径 0.24 ～ 0.50m、検出面からの深度は SK055 に削られている柱穴 e を除いて 0.24 ～ 0.42m を測る。SB115 を構成する柱穴 7 基いずれからも、柱痕あるいは抜取痕は確認できなかった。柱間は桁行が 1.38 ～ 2.02m、梁行が 1.64 ～ 1.95 mでバラつきが認められる。

柱穴 c(SP081) から土師器皿 C、柱穴 d(SP156)・柱穴 g(SP146) から土師器坏 B が出土している。建物の年代は、土師器皿 C が出土しており、16 世紀後葉の遺構である SK055 に切られていることから、16 世紀後葉までに埋没したと思われる。



## 井戸跡

### SE070( 第 12 図 )

調査区中央の p2・3 グリッドで検出された井戸跡である。遺構の南半分は、カクラン（S001）によって大きく削平を受け、SD065 にも切られている。

平面形状は円形を呈するものと想定され、直径は 3.7m 前後を測る。遺構の一部が調査区外に展開することと、検出面から約 1 m程度掘削した地点で湧水が認められたことから、安全面を考慮し、その地点で掘削を停止した。

遺構検出した段階で直径0.6m程度の井戸枠プランを検出した。井戸枠は円形で石組みや木枠は確認されなかった。井戸枠内の灰黄褐色土からは、土師器坏 B や土師質土器火鉢 A2 が出土したが、曲物などの木製品は出土していない。

また、裏込め土である暗灰褐色土からは、土師器坏 B、龍泉窯系青磁碗（大宰府椀Ⅲ類）・碗（上田 C 類）・碗×皿・瓶×壺、平瓦などが出土している。

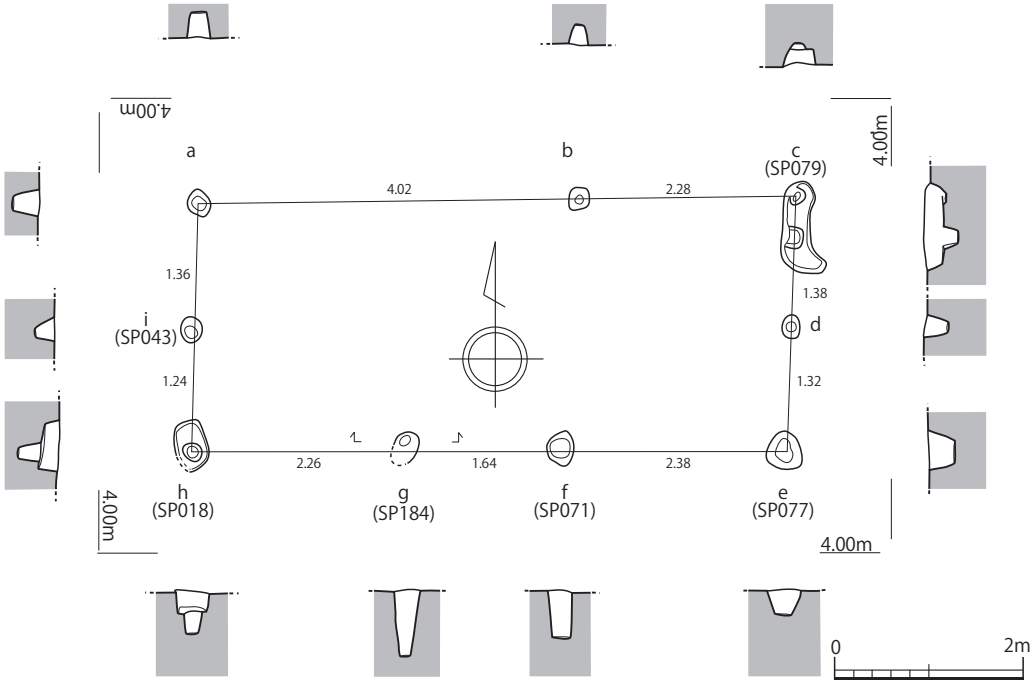
遺構の時期は出土遺物から 15 世紀末葉～ 16 世紀初頭頃であると考えられる。SD065 と同様に、整地層の造成土と SE070 の埋土の土色や土質が類似していたため第 1 面目で検出することができなかったが、SE070 と整地層の時期の検討から本来は SE070 も第 1 面目の遺構であると考えられる。

## 土坑

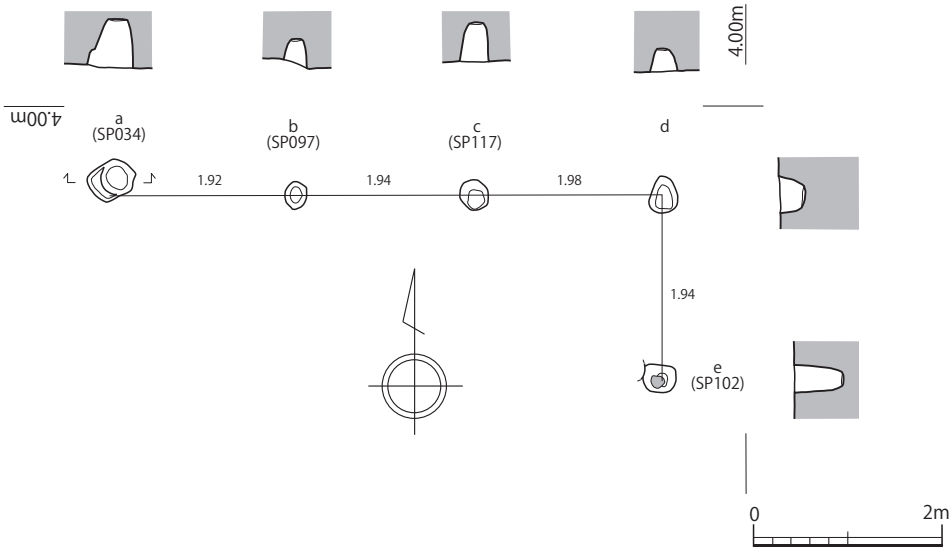
### SK005( 第 13 図 )

調査区西側の r22 グリッドで検出された土坑で、遺構の西側半分は、調査区外に展開している。遺構の重複関係はカクラン (S003・004) に切られ、SK015 を切っている。

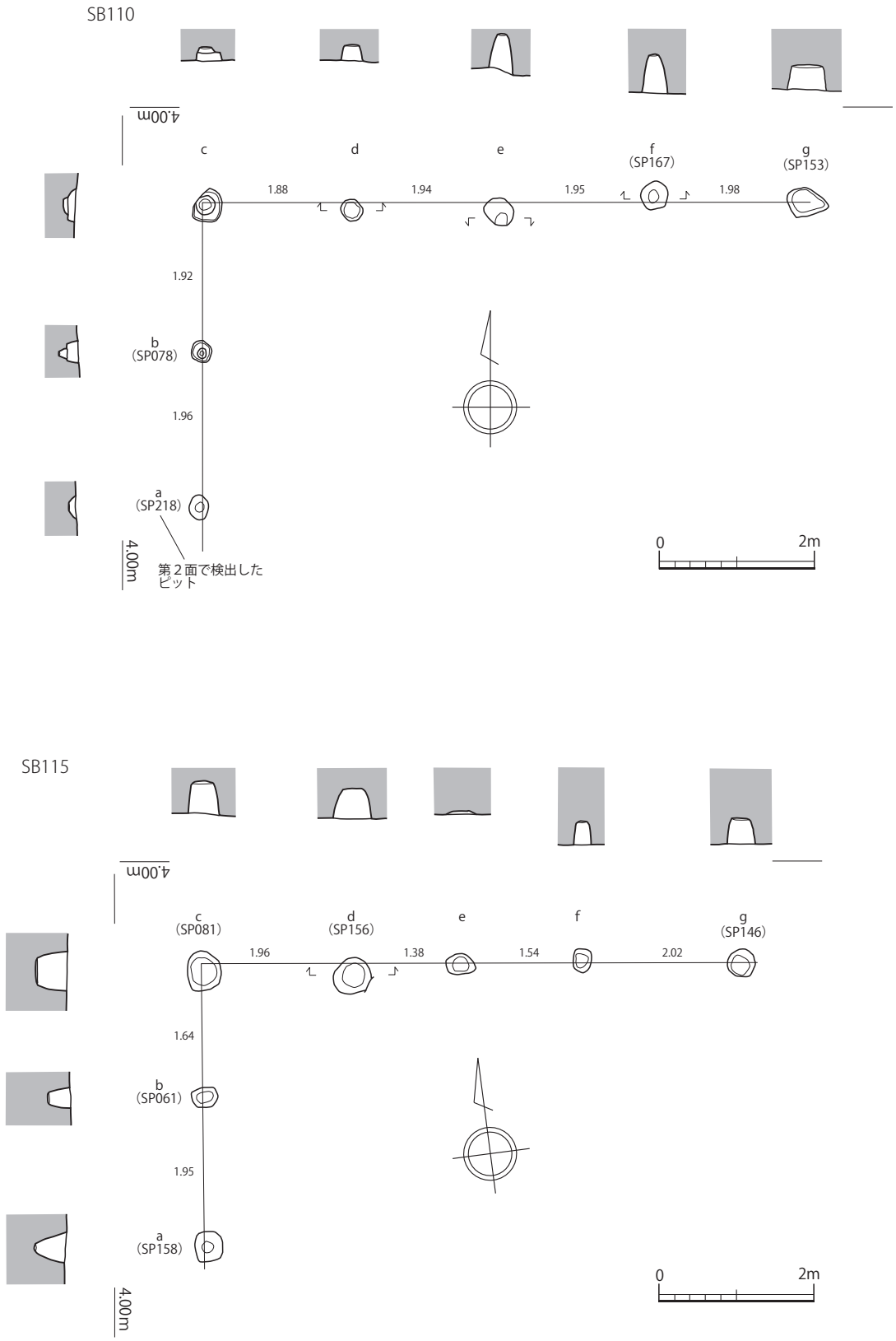
SB100



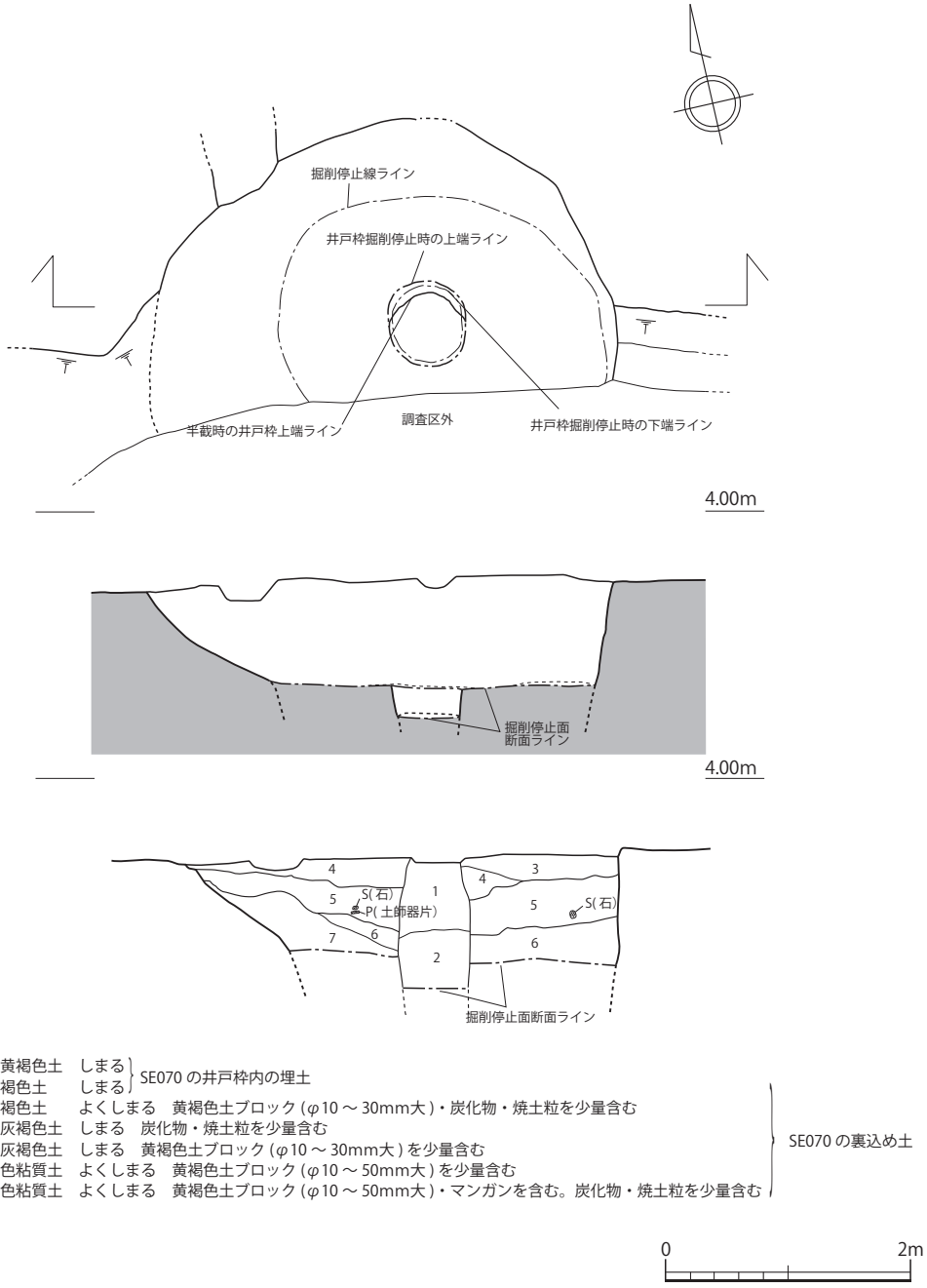

SB105




第 10 図　SB100・SB105 遺構実測図 (1/80)




第 11 図　SB110・SB115 遺構実測図 (1/80)

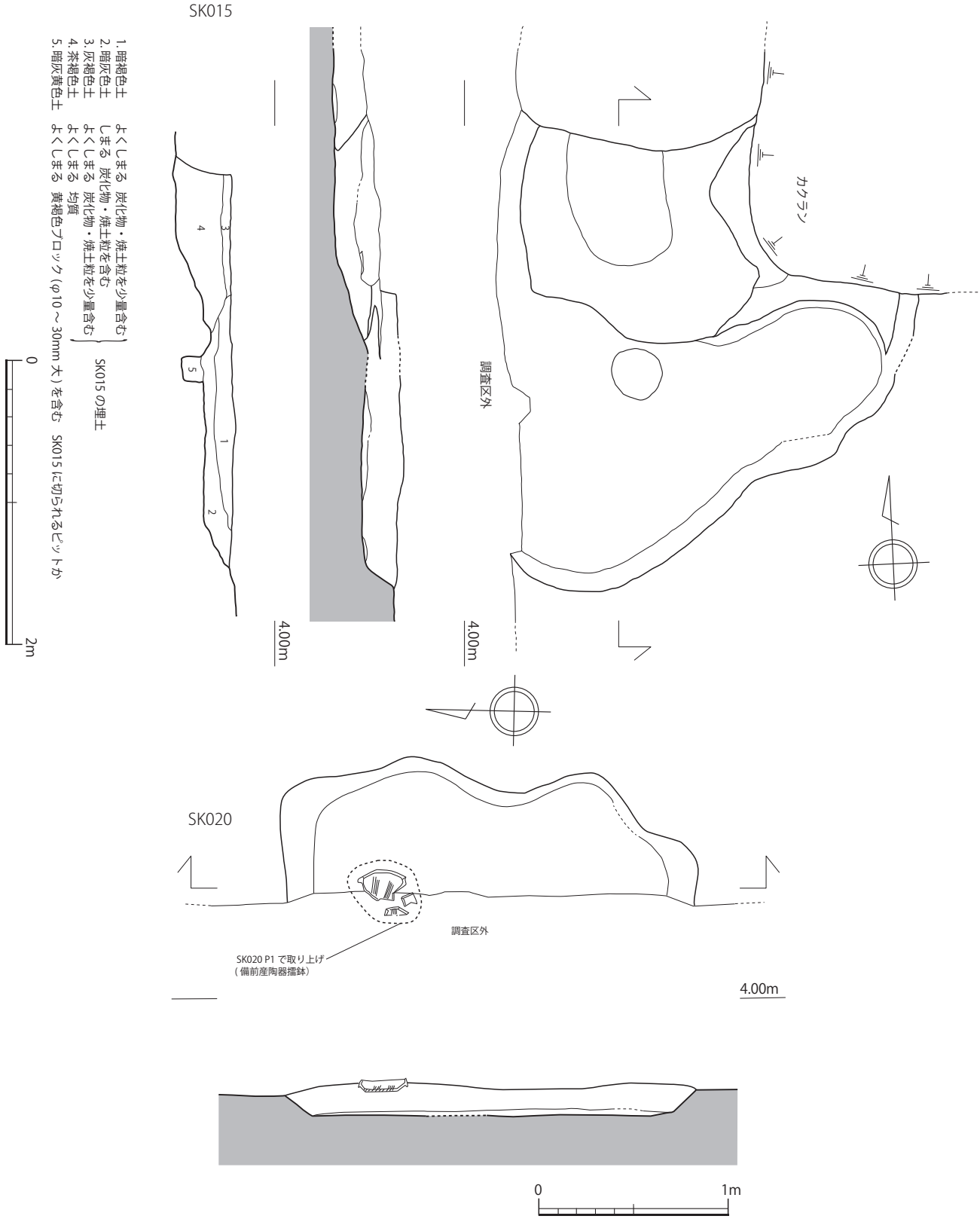



第 12 図　SE070 遺構実測図 (1/60)

平面形状は不整楕円形を呈し、長軸 3.28m、短軸 2.1+α m、検出面からの最大深度は 0.60 mを測る。断面形状は逆台形状になっている。土層の観察により、埋土中に黄褐色土ブロック・炭化物・焼土粒を含むことから、人為的に埋められたものと考えられる。

遺構内から土師器坏 B・皿 C・大内 A 式皿・白磁皿 ( 大宰府皿Ⅸ類 )・丸瓦などが出土している。その他に瓦質土器火鉢、備前産陶器擂鉢、龍泉窯系青磁片、土壁などが出土し、出土遺物の内容も多種多様である。このような状況から廃棄土坑として使用されたものと想定される。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀中葉頃と考えられる。

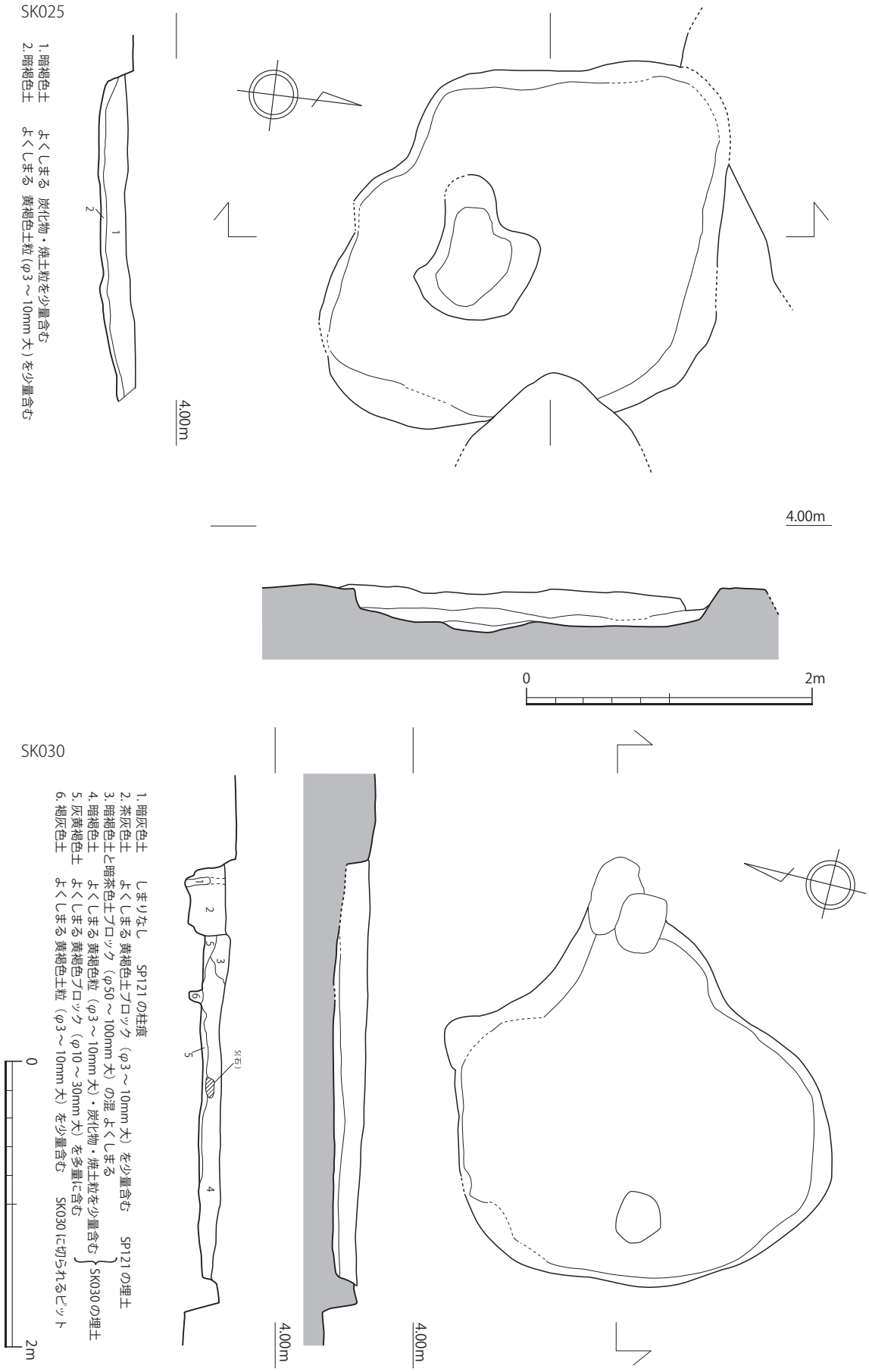
第 13 図　SK005・SK010 遺構実測図 (1/40)



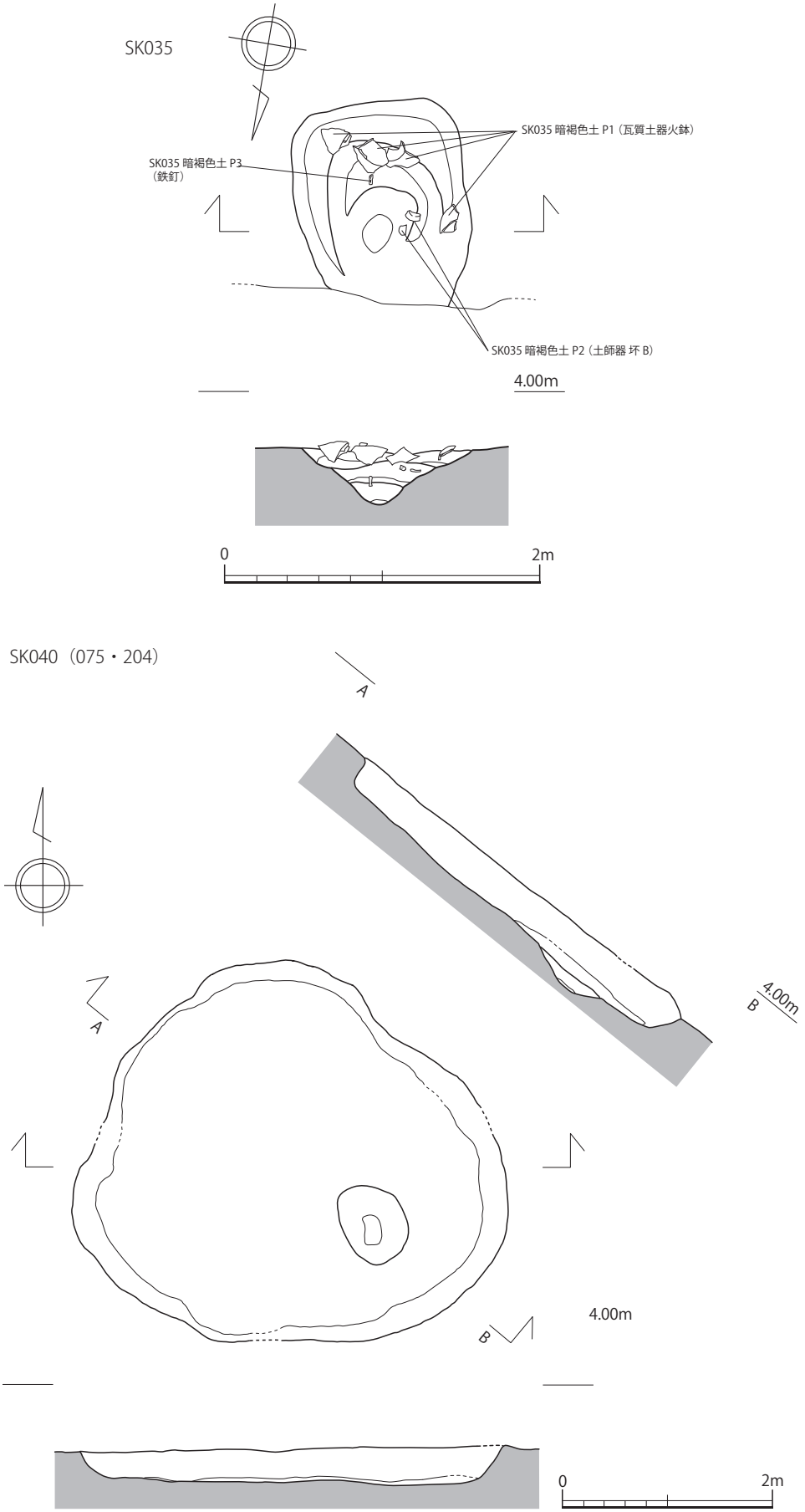

第 14 図　SK015・SK020 遺構実測図 (1/40・1/30)

**SK010( 第 13 図 )**

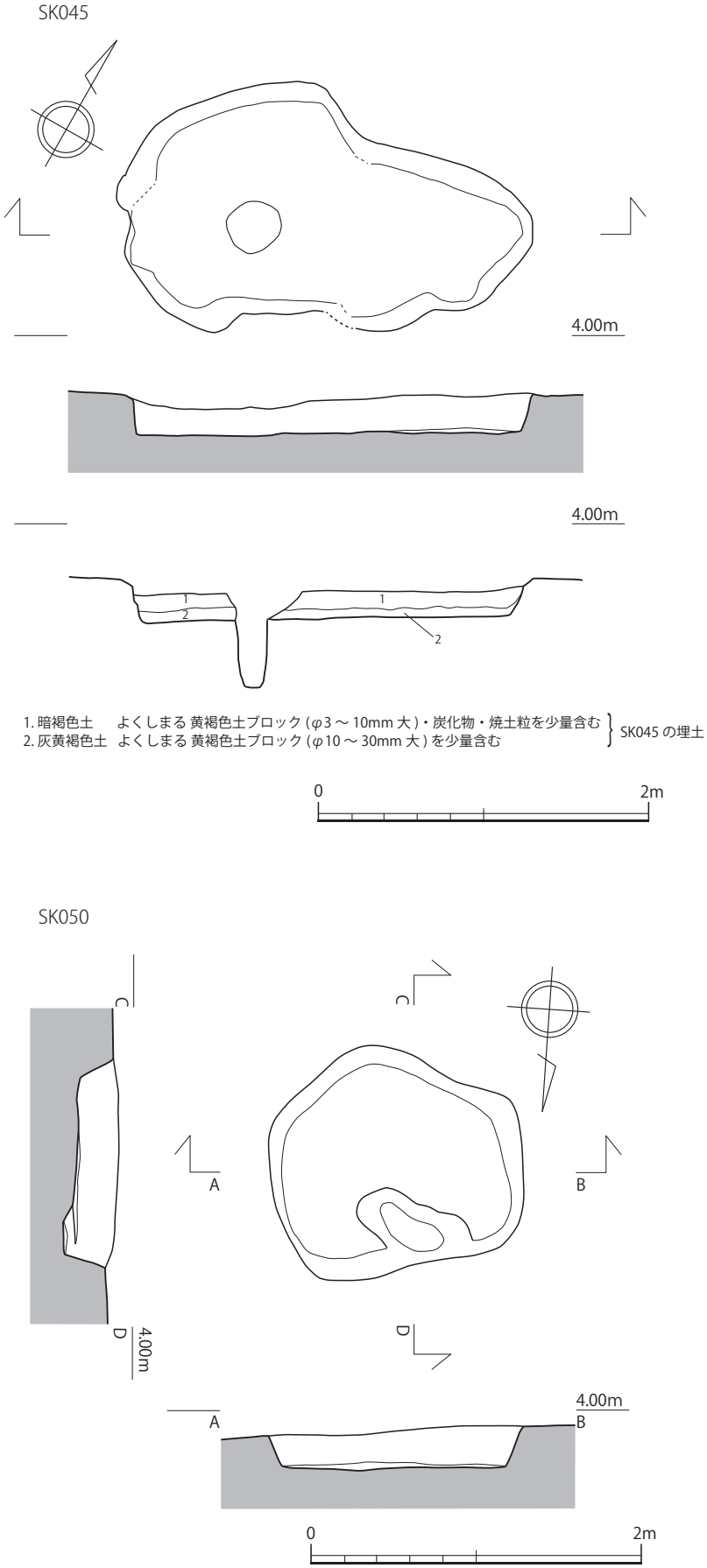
調査区西側の p･q23 グリッドで検出された土坑である。調査区西側では 10 基前後の土坑群が確認されている。土坑同士の重複関係は、SK010 が SK025・035・040(075・204) を切っており、土坑群の中では最も新しい。




第 15 図　SK025・SK030 遺構実測図 (1/40)




第 16 図　SK035・SK040(075・204) 遺構実測図 (1/40・1/60)




第 17 図　SK045・SK050 遺構実測図 (1/40)

平面形状は楕円形を呈し、長軸 3.28m、短軸 1.68m、検出面からの最大深度は 0.33m を測る。断面形状は浅い船底状になっている。

遺構内から土師器坏 B・皿 C・小皿 B、備前産陶器片、龍泉窯系青磁碗 ( 上田 B 類 )、平瓦、土錘・土壁、石製ヘラ、鉄釘・不明鉄製品などが出土している。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀後葉～末葉頃と考えられる。

## SK015( 第 14 図 )

調査区西側の q22 グリッドで検出された土坑で、遺構の西半分は調査区外に展開している。重複関係は、カクラン S004 や SK005・025 に切られ、SB095 の柱穴 h を切っている。

平面形状は不整楕円形を呈し、長軸 3.1+ α m、短軸 2.9+ α m、検出面からの最大深度は 0.40m を測る。東西方向の断面形状は二段掘りになっており、南側に中段テラスを有し、北側は南側の中段テラスの床面から 0.2 m程度深くなっている。土層の観察により、第 1・2 層と第 3・4 層の堆積状況から 2 基の土坑が重複していた可能性も考えられる。

出土遺物は、暗灰褐色土 ( 第 1・2 層 ) と暗茶色土 ( 第 3・4 層 ) からともに土師器坏 B が出土しており、明確な時期差は認められない。

遺構内から土師質土器鍋 B、龍泉窯系青磁碗 ( 上田 E 類 )、白磁皿 ( 森田 E-2 群 )、平瓦・塼、土錘、鉄釘・鉄滓などが出土している。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀前葉頃と考えられる。

## SK020( 第 14 図 )

調査区西側の p・q22 グリッドで検出された土坑で、遺構の西半分は調査区外に展開している。遺構の重複関係は、平

面上では SP016 に切られており、調査区西側西壁面土層の観察から SK020 が北側に隣接する SK015 を切っている。

平面形状は、西側半分が調査区外に展開するため不明であるが、検出面での遺構の規模は、長軸 2.16m、短軸 0.7+ α m、検出面からの最大深度は 0.18m を測る。断面形状は、浅い船底状になっている。

遺構内から土師器坏 B、瓦質土器片、備前産陶器擂鉢、龍泉窯系青磁碗 ( 上田 C 類 )、土壁、鉄釘などが出土している。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀前葉頃と考えられる。

**SK025( 第 15 図 )**

調査区西側の p・q22 ～ 23 グリッドで検出された土坑である。土坑群の中での重複関係は、SK010 に切られ、SK015・040(075・204) を切っている。

平面形状は不整楕円形を呈し、長軸 3.2+ α m、短軸 2.62m、検出面からの最大深度は 0.27m を測る。断面形状は浅い船底状になっており、中央床面に平面形状が不整形で、深度が 0.1m 未満の浅い窪みを有している。土層の観察により、埋土中に炭化物・焼土粒が混入する層が認められる。遺構内から土師器坏 B・皿 C・大内 A 式皿、瓦質土器火鉢、土師質土器鍋 B、龍泉窯系青磁碗 ( 上田 D 類 )、景徳鎮窯系青花皿 ( 小野 B1 群 )、平瓦、土錘、火打石、鉄釘などが出土している。周辺で確認された土坑群と同様に、多種多様な遺物が出土することから廃棄土坑として使用されたものと考えられる。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀前葉～中葉頃と考えられる。

**SK030( 第 15 図 )**

調査区西側の q・r23 グリッドで検出された土坑である。他の土坑との重複関係は認められないが、SB095 の柱穴 d (SP121) や床面に根石を有する柱穴 (SP042) などに切られている。

平面形状は不整楕円形を呈し、長軸 2.48m、短軸 2.30m、検出面からの最大深度は 0.24m を測る。断面形状は浅い船底状になっている。土層の観察により、埋土中に黄褐色ブロック・炭化物・焼土粒が混入する層が認められる。遺構内から土師器坏 B・皿 C・小皿 B、瓦質土器片、土師質土器片、同安窯系青磁碗、平瓦、土錘、鉄釘などが出土している。

埋土の状況や出土遺物の内容が周辺の土坑群の特徴と類似していることから、同様に廃棄土坑として使用されたものと考えられる。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀中葉～後葉頃と推定される。

**SK035( 第 16 図 )**

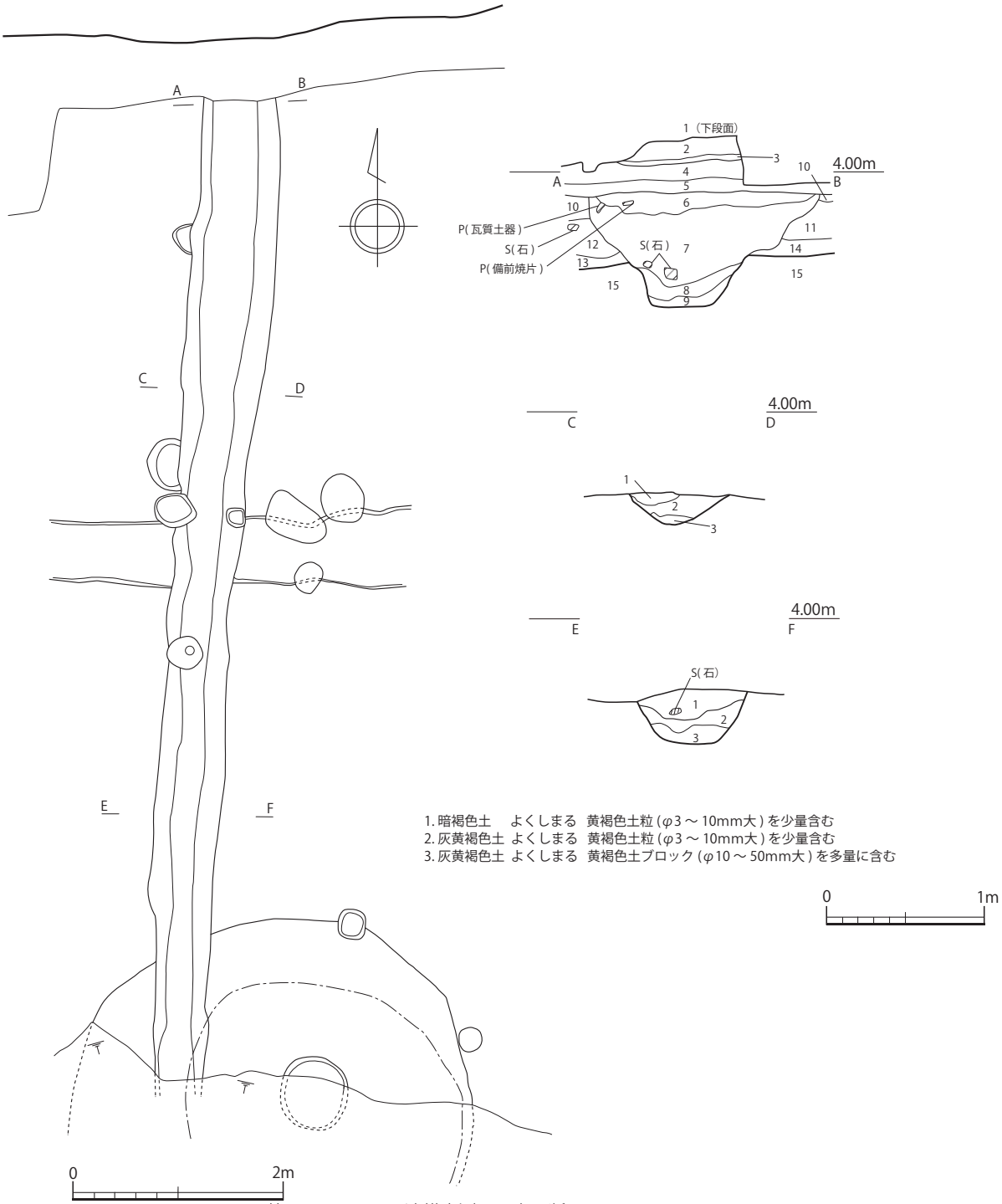
調査区西側の p23 グリッドで検出された土坑である。土坑同士の重複関係では、SK010 に切られ、SK040(075・204) を切っている。

平面形状は隅丸方形を呈し、長軸 1.3+ α m、短軸 1.07m、検出面からの最大深度は 0.35m を測り、調査区西側で確認された土坑群の中では最小規模の土坑である。遺構検出段階で、瓦質土器深鉢の底部片 4 点がひっくり返った状態で散乱して出土した。その他に土師器坏 B・皿 C・小皿 A、火打石、鉄釘・鉄製刀子などが出土している。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀前葉頃と考えられる。

**SK040(075・204)( 第 16 図 )**

調査区西側の p・q23 グリッドで検出された土坑である。土坑同士の重複関係は、SK010・025・035 に切られている。第 1 面では SK040 と整地層の土質・土色が非常に類似しており、遺構プランの検出が困難であったため、第 2 面で再検出し遺構掘削を行った。第 1 面で検出した SK040 に対し、第 2 面で検出した SK040 下層部分については、SK075 の S 番号を付けている。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 灰色砂 | しまりなし | コンクリートブロック・クラッシャーランを含む　現代の造成土 | |
| 2. 灰黒色粘質土 | よくしまる | マンガンを少量含む　水田耕作土 | |
| 3. 赤褐色土 | よくしまる | マンガンを多量に含む　水田盤 | |
| 4. 灰褐色土 | よくしまる | マンガンを含む | 遺物包含層<br>4 層は 2・3 層の水田の影響で<br>マンガンを含むものと考えられる |
| 5. 灰褐色土 | よくしまる | 土師器片を含む | |
| 6. 暗灰褐色土 | よくしまる | 黄褐色土粒（φ3~10mm 大）を少量含む | SD065 の埋土 |
| 7. 暗褐色土 | よくしまる | 黄褐色土粒（φ3~10mm 大）を少量含む | |
| 8. 灰黄褐色土 | よくしまる | 黄褐色土粒（φ3~10mm 大）を少量含む | |
| 9. 灰黄褐色土 | よくしまる | 黄褐色土ブロック（φ10~50mm）を多量に含む | |
| 10. 暗茶褐色土 | よくしまる | 炭化物・焼土粒・マンガンを少量含む | 整地層 |
| 11. 茶褐色土 | よくしまる | 炭化物・焼土粒を少量含む | |
| 12. 暗灰黄色土 | よくしまる | 炭化物・焼土粒を少量含む | |
| 13. 暗灰黄色土 | よくしまる | 黄褐色土ブロック（φ10~50mm）を多量に含む | |
| 14. 暗灰黄色土 | よくしまる | 黄褐色土粒（φ3~10mm 大）を少量含む | |
| 15. 明黄褐色粘質土 | よくしまる | 地山 | |




第 18 図　SD065 遺構実測図・土層断面図 (1/60・1/40)

SK040(075) と SK204 の関係については、SK204 の第 1 層と SK040(075) の第 2 層を比較すると、土色や炭化物・焼土粒を含む点で類似していることや両遺構の時期差が認められないことなどから同一遺構であると考えられる。平面形状は楕円形を呈し、長軸 3.98m、短軸 3.60m、第 2 面の検出面からの最大深度は 0.53m を測る。第 1 面の調査区西側で確認された土坑群の中では最大規模の土坑である。また、床面の東側に平面形状が楕円形を呈する長軸 0.78m、短軸 0.64m、深さ 0.12m 程度の浅いピットを確認した。

遺構内から土師器坏 A・小皿 A、備前産陶器鉢、中国南部産陶器片、石臼、鉄釘などが出土しており、遺構の時期は出土遺物から 14 世紀前葉頃と考えられる。

**SK045( 第 17 図 )**

調査区西側の r23 グリッドで検出された土坑で、SK030 の北側に隣接している。他の土坑との重複関係は認められないが、SB090 の柱穴 b と SB095 の柱穴 b に切られている。

平面形状は不整楕円形を呈し、長軸 2.43m、短軸 1.40m、検出面からの最大深度は 0.22m を測る。断面形状は浅い船底状になっている。土層の観察により、埋土中に黄褐色土ブロック・炭化物・焼土粒が混入する層が認められる。遺構内から土師器坏 B・小皿 B、龍泉窯系青磁坏、平瓦、土錘、鉄釘、不明鉛製品などが出土している。埋土の状況や出土遺物の内容などから廃棄土坑として使用されたものと考えられる。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀前葉頃と推定される。

**SK050( 第 17 図 )**

調査区東側の s5 グリッドで検出された土坑である。重複関係では、SX141( 溜まり状遺構 ) を切っている。

平面形状は不整楕円形を呈し、長軸 1.52m、短軸 1.40m、検出面からの最大深度は 0.28m を測る。断面形状は浅い船底状になっている。遺構内から土師器坏 A・小皿 A・吉備系椀、瓦器椀、龍泉窯系青磁碗 ( 上田 B 類 )、白磁皿 ( 森田 A 群 )・皿片などが出土している。遺構の時期は、出土遺物から 14 世紀中葉～後葉頃と推定される。

**溝状遺構**

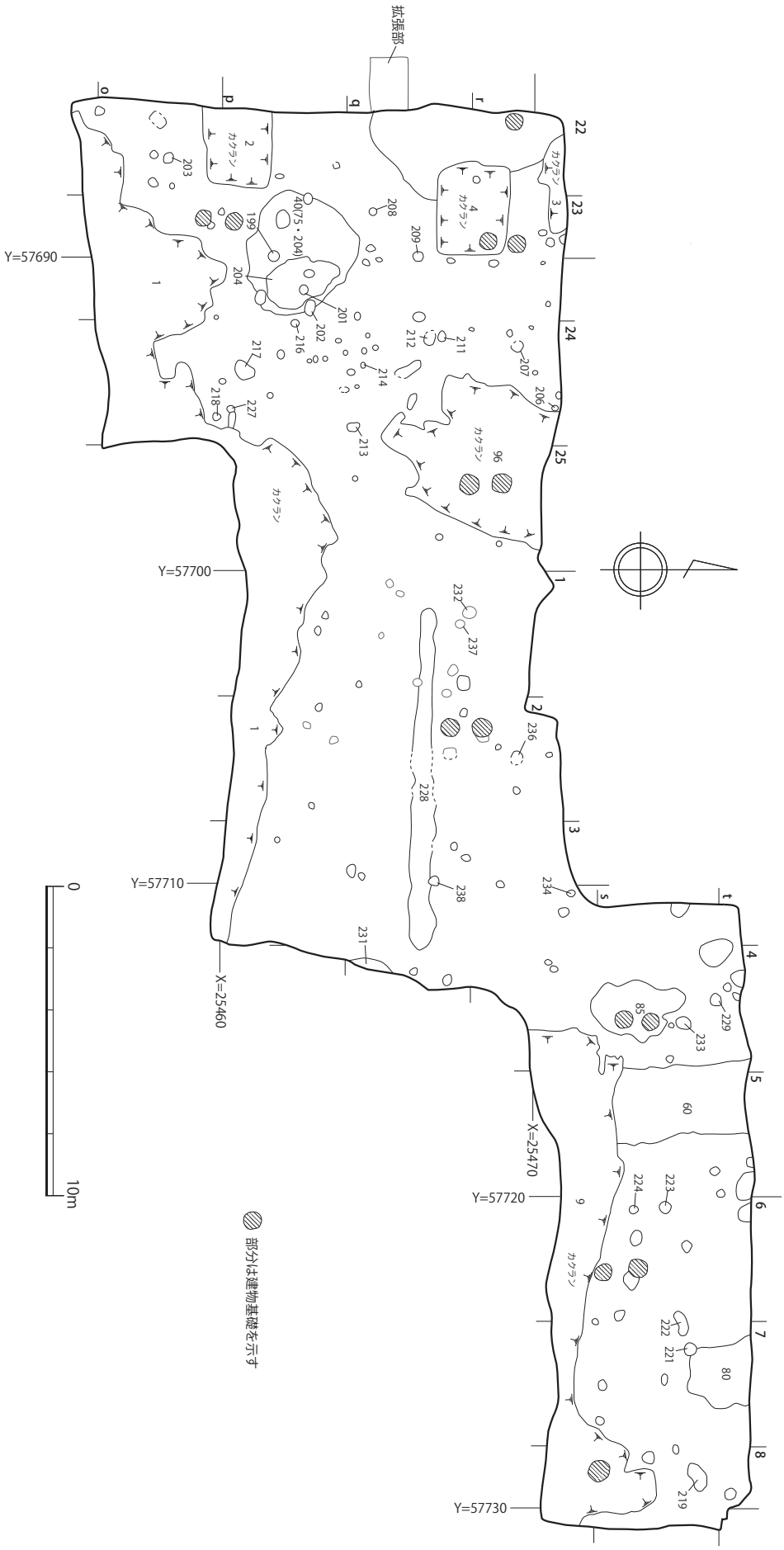
**SD065( 第 18 図 )**

調査区中央の p ～ r2 グリッドで検出された南北方向に走る溝状遺構である。本来は第 1 面の遺構であるが、整地層の造成土と遺構埋土の土色・土質が類似していたことから遺構プランを確認できず第 2 面で検出した。

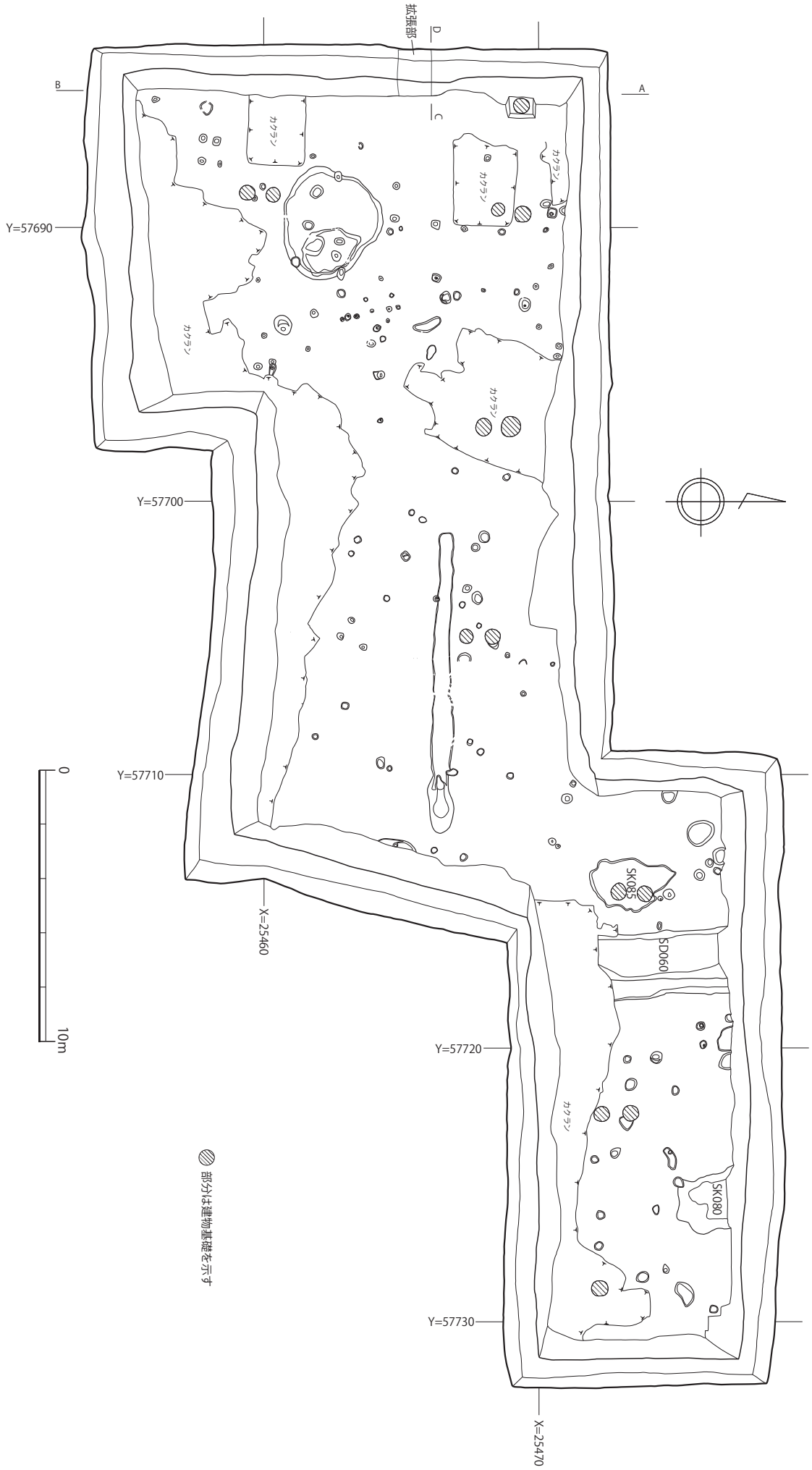
遺構北端は調査区外に延び、南端はカクラン (S001) によって大きく削平を受けている。重複関係は、SD065 が SE070・SD228 を切っている。溝の規模は、長さ 9.6+α m、最大幅 0.8m、検出面からの最大深度は 0.38m であり、東西軸の断面形状は擂鉢状になっている。溝は直線状に走っており、主軸方向は N-4°-E を指向している。

東西ベルトの土層の観察から、埋土中に砂の混入が認められず、流水の痕跡は確認できなかった。また調査区中央の北壁面土層の観察から、本来は第 1 面の遺構であることが判明し、溝の規模は上端幅 1.44m、深度は 0.72m を測る。

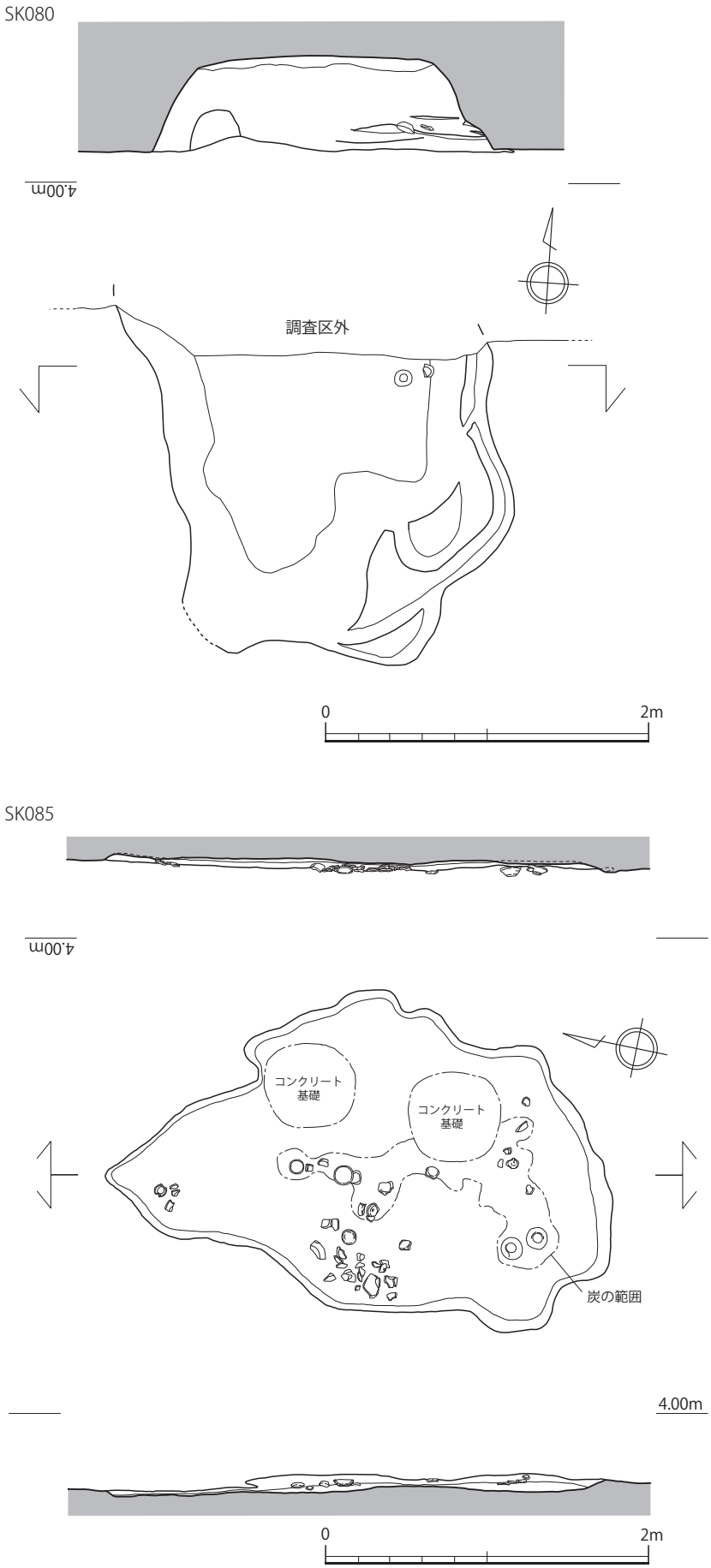
遺構内からは、土師器皿 C、土師質土器火鉢、瓦質土器火鉢・鍋、龍泉窯系青磁碗 ( 上田 B 類 )、景徳鎮窯系青花碗 ( 小野 E 群 )、漳州窯系青花皿、備前産陶器擂鉢・鉢、軒丸瓦、丸瓦・平瓦、鉄釘・不明鉄製品などが出土している。遺構の時期は、出土遺物から 16 世紀後葉頃と考えられる。




第 19 図　第 2 面遺構配置図 (1/200)




第 20 図　第 2 面全体遺構図 (1/200)




第 21 図　SK080・SK085 遺構実測図 (1/40)

## (2) 第 2 面

### 土坑

#### SK080( 第 21 図 )

調査区東側の s・t7 グリッドで検出された土坑で、遺構の北半分は調査区外に展開している。遺構の重複関係は、SK080 が SP221 に切られている。

平面形状は不整楕円形を呈し、長軸 2.0 ＋ α m、短軸 2.08 m、検出面からの最大深度は 0.59m を測る。断面形状は逆台形状になっており、南側に数段のテラスを有している。

土層の観察により、埋土中に炭化物・焼土粒の混入が認められることから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。遺構内から土師器坏 A・小皿 A・吉備系椀、土師質土器鍋 B、龍泉窯系青磁碗（上田 B 類）、白磁皿（森田 A 群）などが出土している。遺構の時期は、出土遺物から 14 世紀前葉頃と考えられる。

#### SK085( 第 21 図 )

調査区東側の s4 グリッドで検出された土坑で、南北方向に走る SD060 の西隣に位置する。平面形状は不整楕円形を呈し、長軸 3.09m、短軸 1.96 m、検出面からの最大深度は 0.12m を測る。

平面規模に対し深度が非常に浅く、断面形状は浅い船底状になっている。遺構検出段階で炭が広範囲にわたって広がっているのを確認した。遺構内からは、多量の土師器坏 A・小皿 A の完形品や破片が散乱した状態で出土した。

その他に、少量であるが土師器吉備系椀、土師質土器鍋・鍋×羽釜、須恵質土器片口鉢（東播系）、鉄釘などの破片が出土している。

埋土中に一定量の炭化物の混入が認められる点や遺物の出土状況から、一括廃棄が行われたものと考えられる。

遺構の時期は、出土遺物から 14 世紀前葉頃と考えられる。

## 溝状遺構

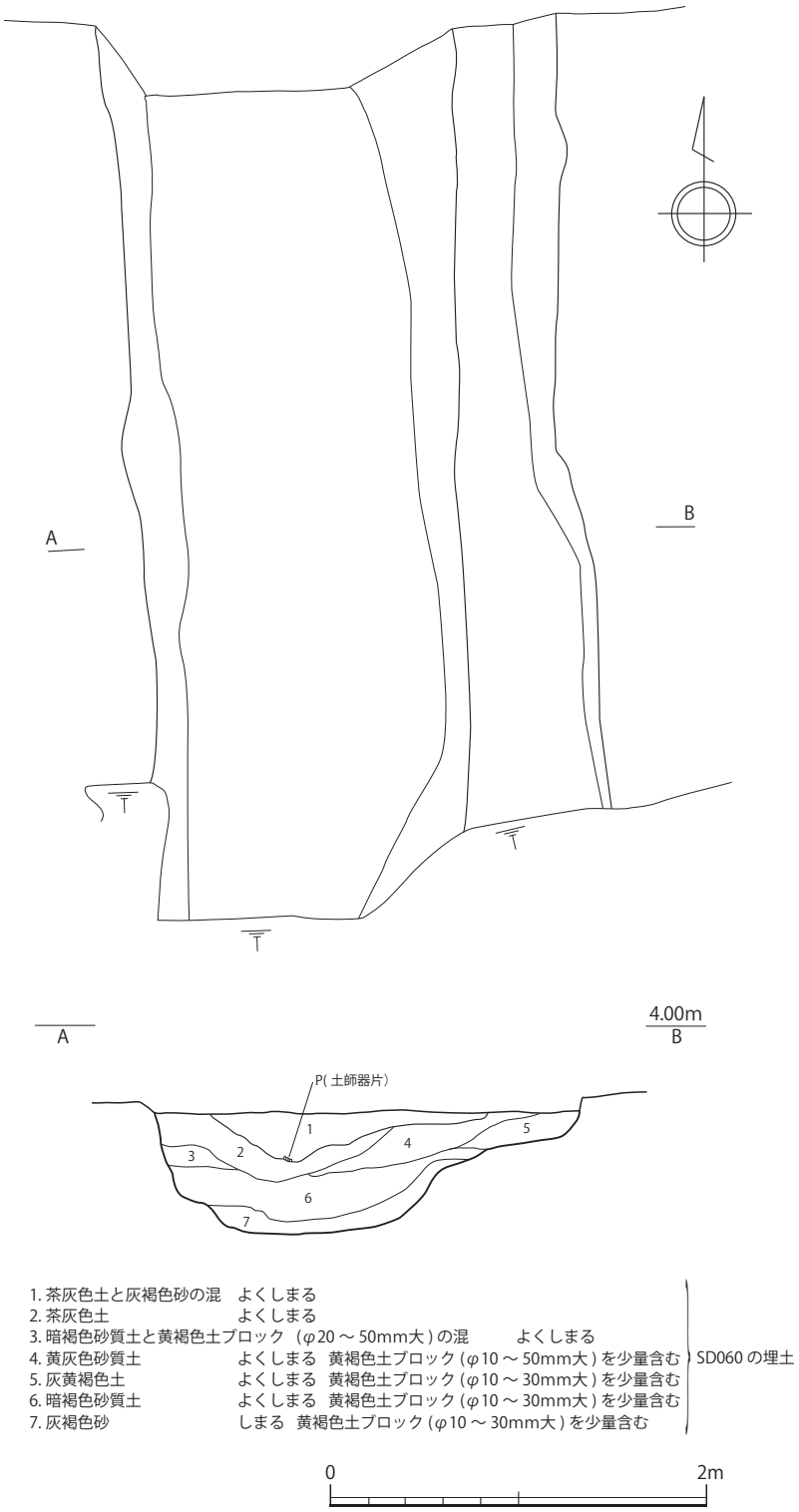
### SD060( 第 22 図 )

調査区東側のｓ・ｔグリッドで検出された南北方向に走る溝状遺構である。北端・南端ともに調査区外に延びている。溝の規模は、長さ 4.8 ＋ α m、最大幅 2.36m、検出面からの最大深度は 0.81m である。

東西軸の断面形状は、東側に一段テラスを有している。溝は直線状に走っており、主軸方向は、N-3°-W を指向している。

土層観察により、最下層が砂層であることから、流水があったことが推定される。遺構内からは土師器坏 A・小皿 A、土師質土器鍋 B1、瓦器椀、龍泉窯系青磁碗（上田 B 類）・碗・水注×瓶、銅銭、鉄釘などが出土しており、特に第 1 ～ 5 層に対応する茶灰色土から遺物が多く出土している。

また、埋土中に黄褐色土ブロックが一定量混入している状況が認められることから、人為的に埋め戻されたものと推定され、これらの遺物はその際に廃棄されたものと考えられる。遺構の時期は出土遺物から 14 世紀前葉頃と考えられる。




第 22 図　SD060 遺構実測図 (1/40)

## 第 4 節　出土遺物

今回の調査では、コンテナ 24 箱の遺物が出土した。出土遺物は弥生時代から現代に至るまで幅広い時代にわたっているが、主体となるのは 14 世紀前葉から 16 世紀後葉にかけての遺物で、土師器坏や小皿の出土量が圧倒的に多く、輸入陶磁器が少ないという特徴がみられる。今回掲載出来ていない遺物は多くあるが、主要遺構の時期を示すものや特殊な遺物を中心に掲載、報告を行う。

また、本文中に記載がなかった遺構及び出土遺物については遺構出土遺物一覧表（表 1 ～ 7）を、遺物の種類・名称・法量については遺物観察表(表 8 ～ 11)に示しており、ここでは特に重要と思われる遺物について記述する。

### SB090 出土遺物（第 23 図）

第 23 図 1 は土師質土器の鍋の口縁部であり、器高は 4.9+α cm を測る。2 は土師器皿 C の口縁部である。器高は 1.5+ α cm で胎土に 1mm 大の角閃石を微量に含む。3 は土師器皿 C である。器高は 1.9+α cm を測り、内外面に強いヨコナデがある。4 は土師器皿 C である。器高は 2.0cm を測り、反転復元したところ、口径 12.4cm、底径 6.4m で胎土に石英、雲母、赤色粒子を含む。5 は土師器皿 C である。器高は 2.1cm+α m を測り、胎土に石英や角閃石を含む。

### SB100 出土遺物（第 23 図）

6 は土師器坏 A である。器高は 4.0m を測り、反転復元したところ、口径 16.1cm、底径 10.6cm で外面底部に糸切り離しの痕跡が見られる。7 は防長系の瓦質土器擂鉢の口縁部である。器高は 5.3+α cm を測り内面には擂目が残る。

### SB105 出土遺物（第 23 図）

8 は土師器坏 B の口縁部である。器高は 1.7+α cm を測り、色調は橙色である。

### SB110 出土遺物（第 23 図）

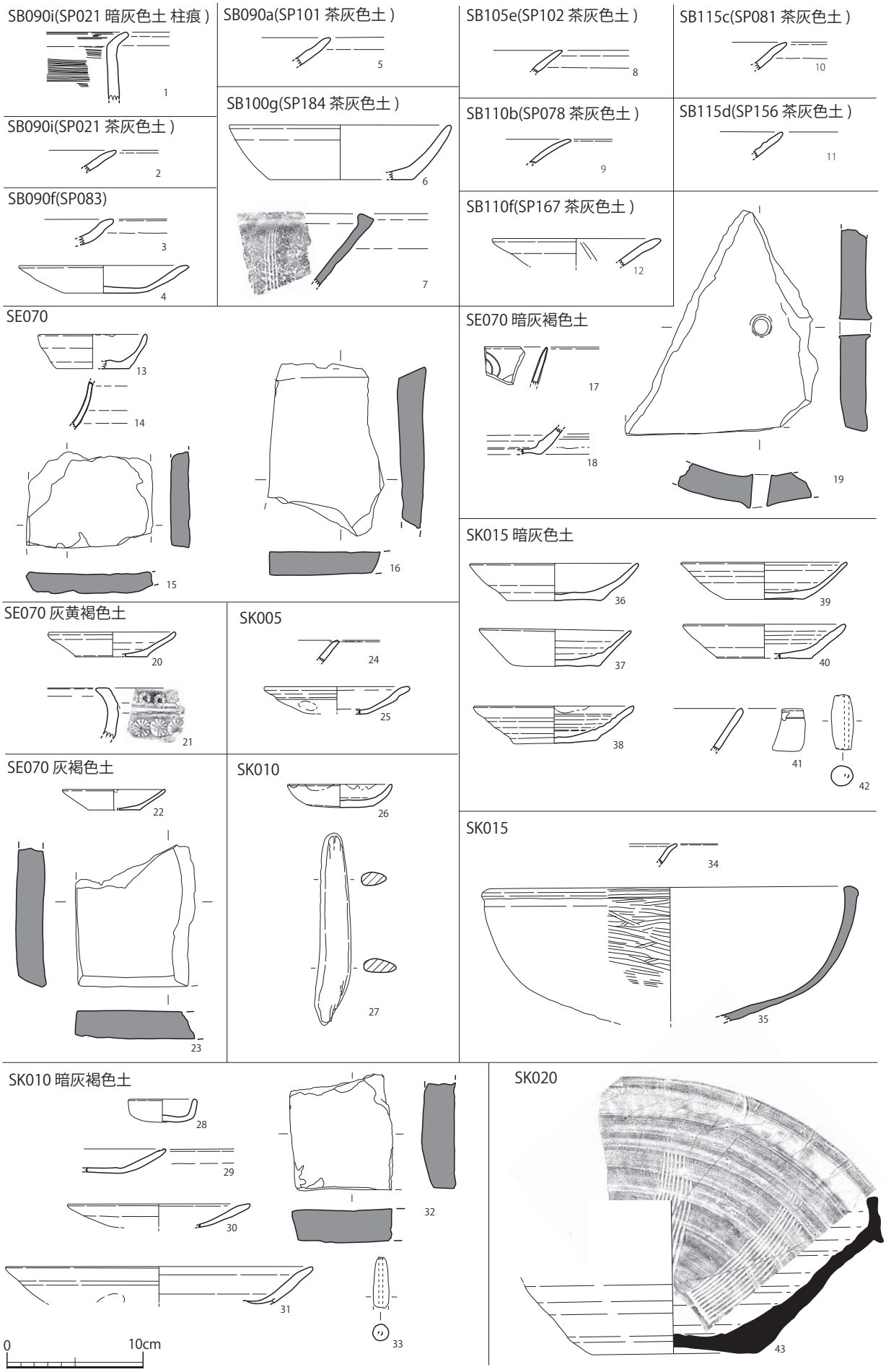
9 は土師器皿 C である。器高は 1.7+ α cm を測り、色調はにぶい黄橙色を呈する。10 は土師器皿 C である。器高は 2.0+ α cm、口径 12.2cm を測り、色調は茶白色を呈する。

### SB115 出土遺物（第 23 図）

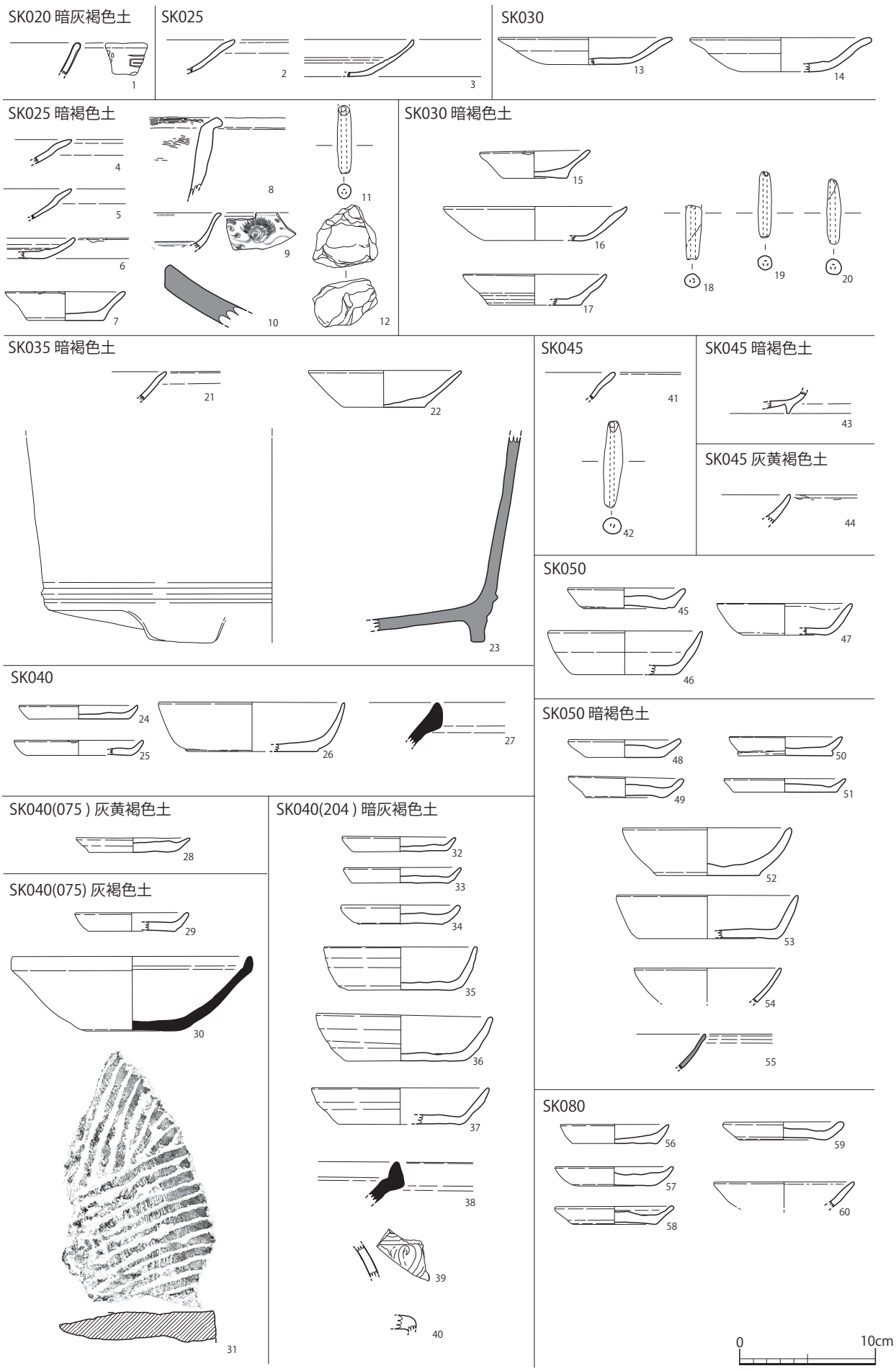
11 は土師器皿 C である。器高は 2.0+ α cm を測り、色調は暗灰～淡灰茶色を呈する。12 は土師器坏 B である。器高は 1.9+ α cm を測り、色調は淡橙色を呈する。

### SE070 出土遺物（第 23 図）

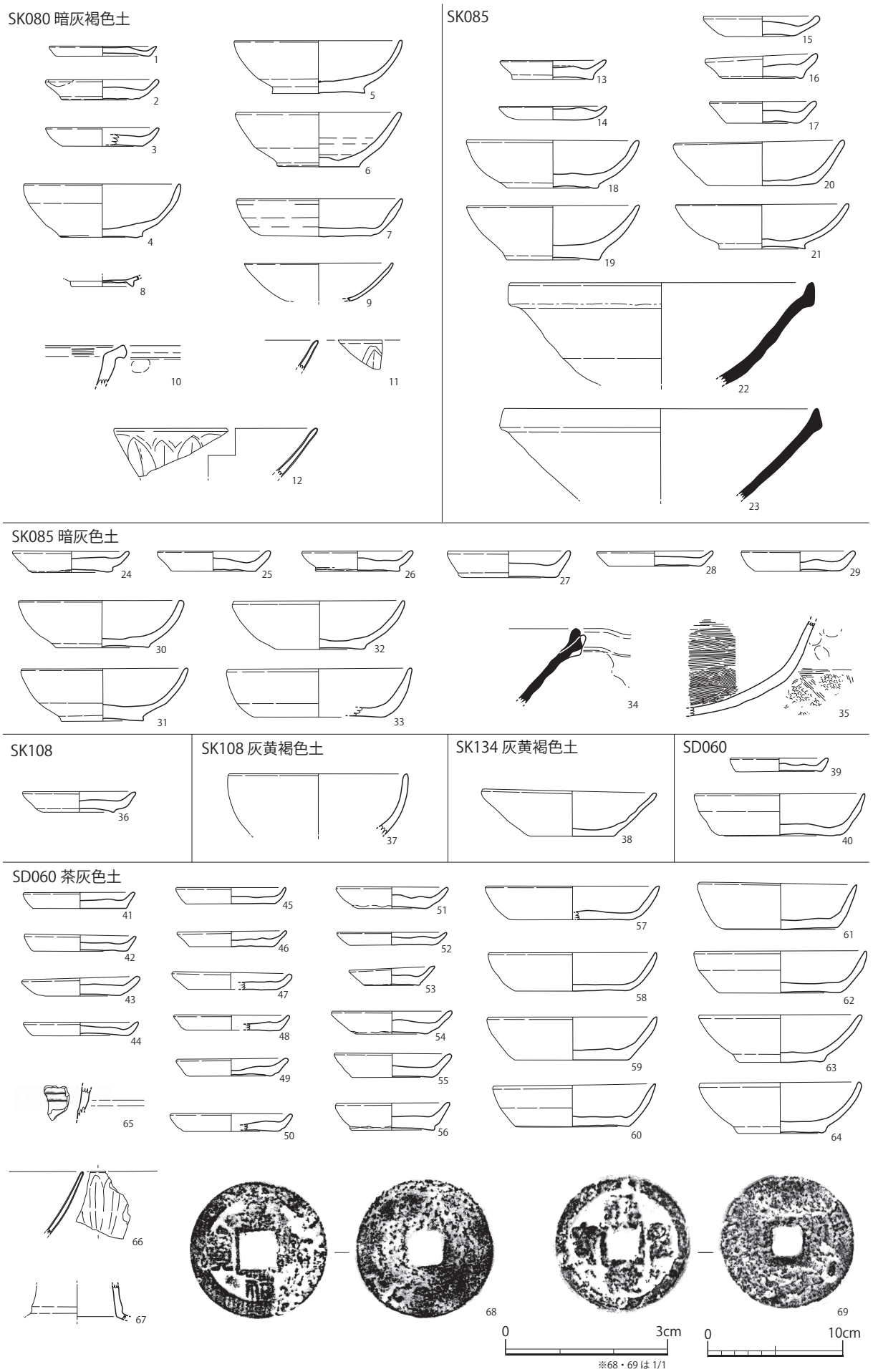
13 は土師器坏 B である。器高は 2.5cm を測り反転復元したところ、口径 8.0cm、底径 5.4cm で口縁部に煤が付着していたことから灯明皿として使用された可能性がある。14 は龍泉窯系青磁碗（上田 B 類）である。器高は 3.5+ α cm を測り内外面に貫入が認められる。15、16 は平瓦であり、16 は縄目のタタキ後ナデ調整した痕跡が残る。17 は龍泉窯系青磁碗（上田 C 類）の口縁部である。器高は 2.8+α cm を測る。18 は龍泉窯系青磁の瓶又は壺の底部から体部にかけての部分である。器高は 1.8+α cm で内面は施釉され外面は施釉と露胎部分が見られる。19 は平瓦で最大長 16.1+ α cm、最大幅 11.6+α cm、最大厚 1.9cm を測る。表面から裏面にかけて直径 1.0cm の釘穴が開けられている。20 は土師器坏 B である。器高は 1.8cm を測り、反転復元したところ口径 9.2cm、底径 5.2cm である。底部に糸切り離しの痕跡が認められる。21 は土師質土器火鉢（A2 類）である。器高は 3.7+ α cm を測り口縁部外面に菊型のスタンプ文を有している。22 は土師器坏 B である。器高が 1.5cm、底径は 3.8cm



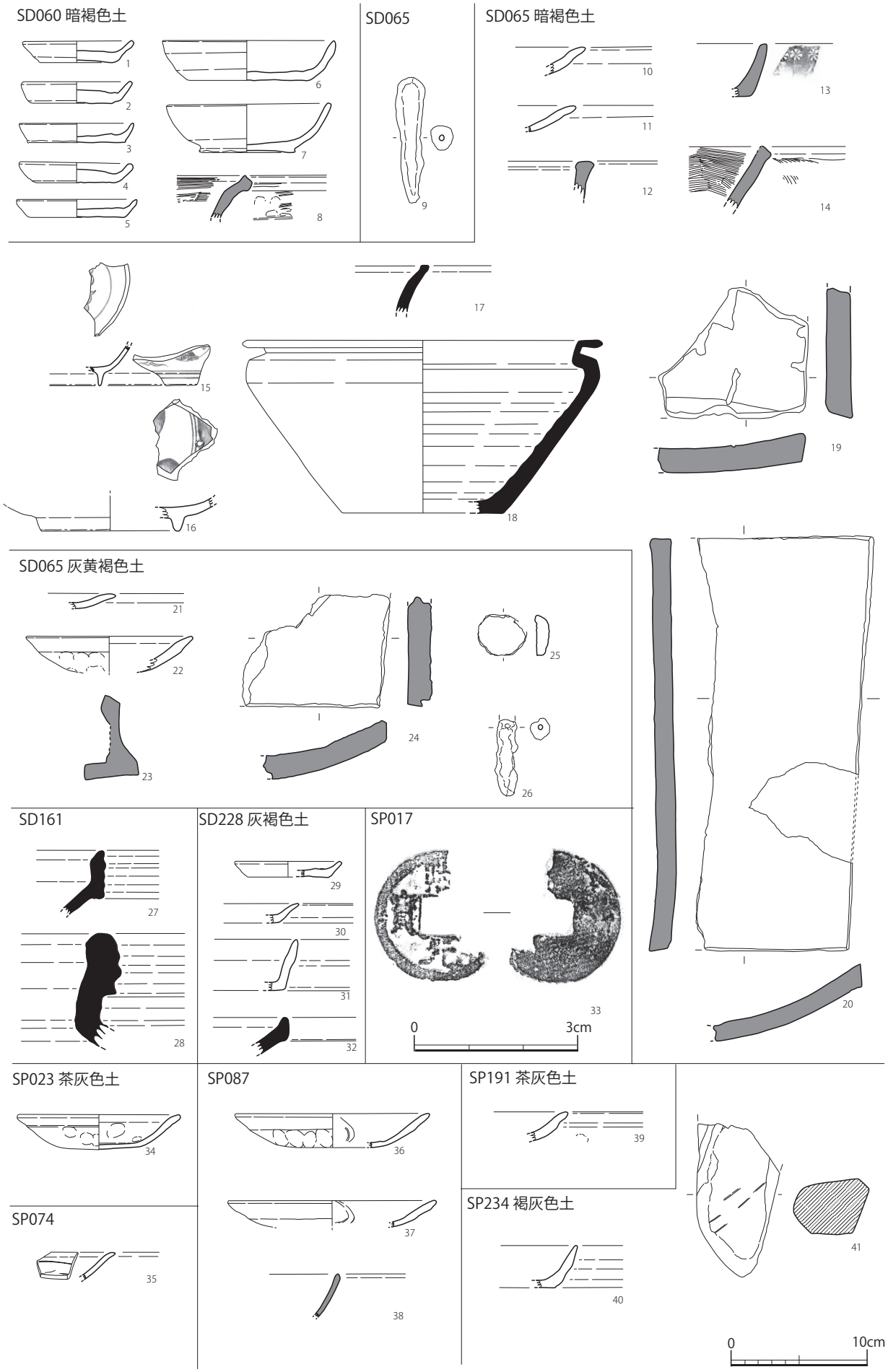

第 23 図　SB090・100・105・110・115　SE070　SK005・010・015・020 出土遺物実測図 (1/4)



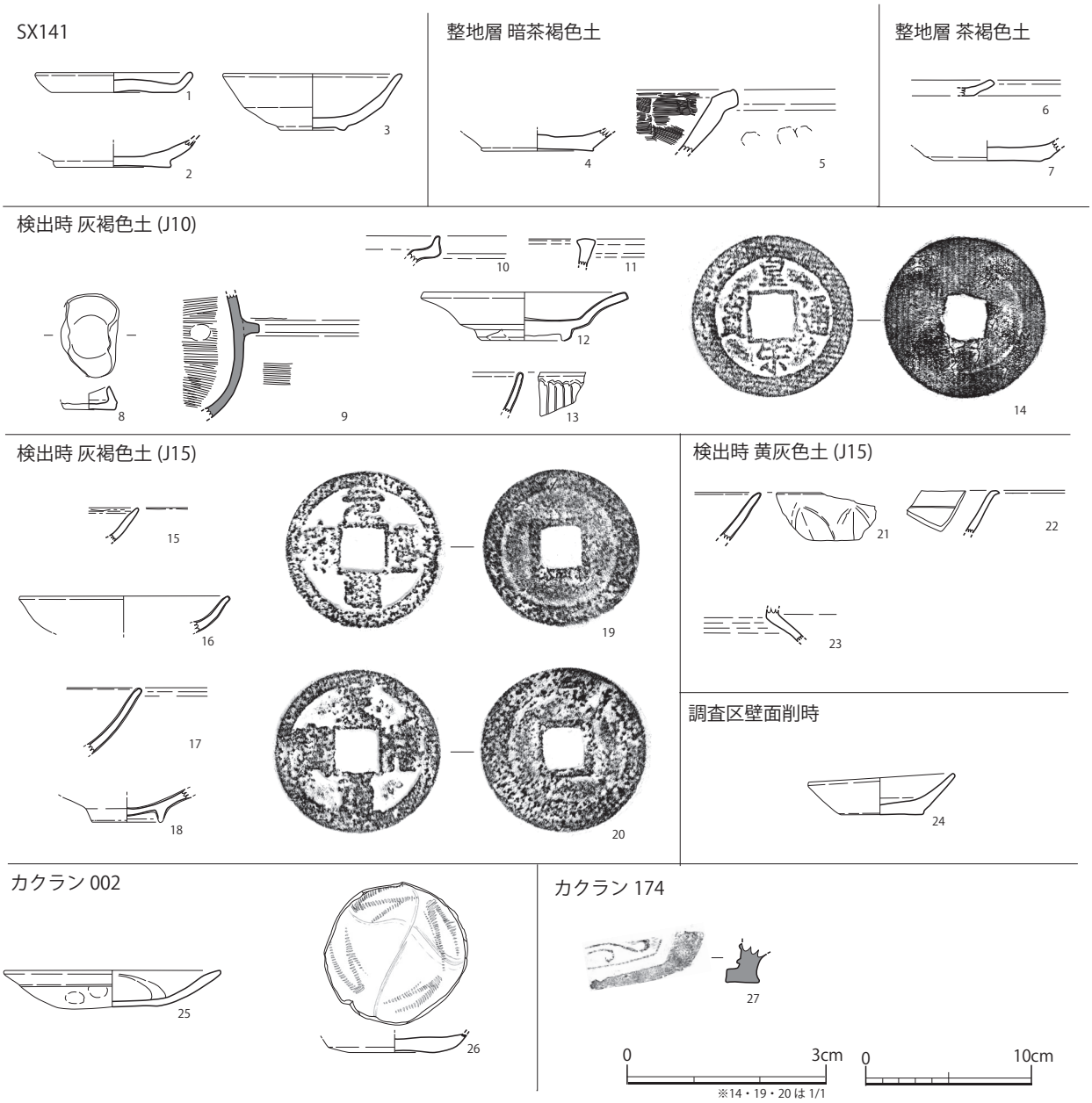

第 24 図　SK020・025・030・035・040・040（075）・040（204）・045・050・080 出土遺物実測図 (1/4)




第 25 図　SK080・085・108・134　SD060 出土遺物実測図 (1/1・1/4)




第 26 図　SD060・065・161・228　SP017・023・074・087・191・234 出土遺物実測図 (1/1・1/4)




第 27 図　SX141　その他出土遺物実測図 (1/1・1/4)

を測り、反転復元したところ口径は 7.4cm である。底部に糸切り離しの痕跡が見られ口縁部には煤が付着している。23 は平瓦である。最大長は 10.3+ α cm、最大幅 8.7+ α cm、最大厚 2.1cm を測る。

### SK005 出土遺物（第 23 図）

24 は白磁皿（大宰府Ⅸ類）の口縁部である。器高は 1.6+ α cm を測り、内外面とも口縁部が露胎しているいわゆる「口禿」の白磁である。25 は土師器皿 C である。器高は 2.0cm を測り、反転復元したところ、口径が 10.6cm となった。底部は残存していないため法量は不明である。

### SK010 出土遺物（第 23 図）

26 は土師器小皿 B である。器高は 1.7cm を測り口径 7.6cm、底径 5.0cm である。口唇部に煤が付着していることから灯明皿として使用された可能性がある。27 は石製のヘラである。最大長 13.4cm、最大幅 2.4cm、最大厚 1.0cm を測る。28 は土師器小皿 C である。器高は 1.7cm、口径 5.0cm を測る。底部外面に指圧痕が見られる。29 は土師器皿 C である。器高は 1.8cm を測り、内外面ともに黒変部分が見られる。30 は土師器皿 C である。器高は 1.7cm を測り、反転復元したところ、口径が 13.4cm であり、底部外面に黒変部分が見られる。31 は土師器皿 C である。器高は 2.6+ α cm を測り、反転復元したところ、口径は 22.4cm となった。32 は平瓦である。

最大長 8.5+ α cm、最大幅 7.6+ α cm、最大厚 2.4cm をはかり内面上部と外面下部に工具による調整痕が見られた。33 は土錘である。最大長は 3.7cm、最大幅 1.2cm、最大厚 1.2cm、質量 5.9g を測る。

**SK015 出土遺物（第 23 図）**

34 は白磁皿（森田 E-2 群）である。内外ともに施釉されているが口縁部分は淡褐色である。35 は瓦質土器の鍋である。器高は 9.8+ α cm を測り、反転復元したところ、口径が 26.5cm である。外面には横方向のヘラミガキがあるが中央部分から底部にかけて磨滅のため不明瞭である。36 は土師器坏 B である。器高は 2.7cm を測り反転復元したところ、口径が 12.2cm、底径が 7.0cm で底部に糸切り離しの痕跡が見られる。37 は土師器坏 B である。器高は 2.7cm、口径は 11.0 ｃｍを測る。底部に糸切り離しの痕跡が見られる。38 は土師器坏 B である。器高は 2.8cm 底径 6.2cm を測り反転復元したところ口径は 11.8cm となった。底部に糸切り離しの痕跡が見られる。39 は土師器坏 B である。器高は 2.7cm を測り、反転復元したところ、口径 12.0cm、底径が 5.8cm である。40 は土師器坏 B である。器高は 2.5cm を測り、反転復元したところ、口径が 11.8cm であった。41 は龍泉窯系青磁碗（上田 E 類）の口縁部である。器高は 3.1+ α cm を測り、内外面とも施釉されているが精緻な作りである。42 は土錘である。最大長は 4.0cm、最大幅 1.6cm、最大厚 1.6cm であり完形品である。

**SK020 出土遺物（第 23・24 図）**

43 は備前産陶器擂鉢（乗岡中世 6 期）である。器高は 11.2cm、底径 12.0cm を測る。内面には擂目が残り、摩耗は少ない。第 24 図 1 は龍泉窯系青磁碗（上田 E 類）の口縁部分で器高は 2.35+ α cm を測り、精緻なつくりである。

**SK025 出土遺物（第 24 図）**

2 は土師器皿 C の口縁部である。器高は 2.4+ α m を測り、内外面とも強いヨコナデが見られる。3 は土師器皿（大内 A 式）である。器高は 2.7+ α cm を測り、色調は淡白茶色である。4 は土師器皿 C である。器高は 1.8+ α cm を測り、口縁部がやや外側に開くタイプである。5 は土師器皿 C である。器高は 2.2+ α cm を測り、内外面に強いヨコナデが見られる。6 は土師器坏 B である。器高は 1.5+ α cm を測り、底部に糸切り離しの痕跡がある。7 は土師器坏 B である。器高は 2.1cm を測り反転復元したところ、口径が 8.7cm、底径が 5.6cm であった。口縁端部には煤が付着している。8 は土師質土器鍋 B である。器高は 5.9+ α cm を測り、色調は橙色である。9 は景徳鎮窯系青花皿（小野 B1 群）である。器高は 2.7+ α cm で外面にラマ式蓮弁の文様が描かれている。10 は平瓦で最大長 9.1cm、最大幅 6.5cm、最大厚 1.6cm を測る。11 は土錘である。最大長 5.0+ α cm、最大幅 1.0cm、最大厚 1.1cm、重量は 6.0g を測る。12 は火打石である。

**SK030 出土遺物（第 24 図）**

13 は土師器皿 C である。器高は 2.0+ α cm を測り、口径は 13.0cm、底径は 5.6cm である。14 は土師器皿 C である。器高は 2.5+ α cm を測り反転復元したところ、口径が 13.0cm、底径が 6.0cm であった。15 は土師器小皿 B である。器高は 2.1cm、口径 8.0cm、底径 4.7cm を測り、全体が黒変しており、口縁部に煤が付着している。底部には糸切り離しの痕跡が見られる。16 は土師器皿 C である。器高は 2.5cm を測り、反転復元したところ口径が 13.4cm、底径が 7.1cm であった。17 は土師器坏 B である。器高は 2.3cm を測り、反転復元したところ、口径 10.4cm、底径が 6.8cm であった。底部には糸切り離しの痕跡が見られる。18 ～ 20 は土錘である。最大長は 4.0+ α cm ～ 4.9cm、最大幅は 1.1 ～ 1.2cm、最大厚は 1.0 ～ 1.1cm である。

**SK035 出土遺物（第 24 図）**

21 は土師器皿 C である。器高は 2.1+ α cm を測り、内外面とも強いヨコナデが見られる。22 は土師器坏 B である。

器高は2.7cm、口径は11.2cm、底径は6.0cmを測る。底部に糸切り離しの痕跡が見られる。23は瓦質の深鉢である。器高は15.0+ α cmを測り、反転復元したところ、底径は31.0cmであった。

### SK040 出土遺物（第24図）

24は土師器小皿Aである。器高は1.0cmを測り、反転復元したところ、口径8.2cm、底径7.9cmであった。立ち上がり部分は浅く底部に糸切り離しの痕跡が見られる。25は土師器小皿Aである。器高は1.1cmを測り、反転復元したところ、口径9.4cm、底径7.8cmであった。26は土師器坏Aである。器高は3.6cmを測り、反転復元したところ、口径13.6cm、底径9.5cmであった。27は須恵質土器（東播系）の片口鉢であり器高は3.2+ α cmを測る。

### SK040（075）出土遺物（第24図）

28は土師器小皿Aである。器高は1.1cmを測り、口径8.4cm、底径6.6cmで底部が厚く立ち上がりが低い。29は土師器小皿Aである。器高は1.4cmを測り底部は厚い。30は須恵質土器（東播系）の片口鉢である。器高は5.5cmを測り反転復元したところ、口径は17.4cm、底径が7.4cmであった。31は石臼の上部である。器高は2.3+ α cmを測り、内面の擂目は摩耗している。

### SK040（204）出土遺物（第24図）

32～34は土師器小皿Aである。器高は1.1～1.4cmを測り、口径は8.4～8.8cm、底径は6.4～7.0cmである。32と33は上下重なった状態で出土し、器高以外は同じ法量であった。35～37は土師器坏Aである。器高は2.6～3.4cmを測り、反転復元から口径は11.3～13.0cmである。36、37には煤が付着している。38は須恵質土器（東播系）の片口鉢である。器高は3.0+ α cmを測り、煤が付着している。39は龍泉窯系青磁の水注又は瓶の胴部と考えられる。器高は4.9+ α cmを測り色調は淡灰緑色で精緻な作りである。40は龍泉窯系青磁の香炉又は蓋である。器高は1.2+ α cmを測り、色調は淡緑色で精緻な作りである。

### SK045 出土遺物（第24図）

41は土師器坏Bである。器高は2.0+ α cmを測る。42は土錘である。最大長6.4cm、最大幅1.3cm、最大厚1.1cmを測る。43は龍泉窯系青磁坏である。底部であり、足先のみ露胎である。44は土師器坏Bである。器高は2.2+ α cmを測り、口縁部に煤が付着している。

### SK050 出土遺物（第24図）

45は土師器小皿Aである。器高は1.4cmを測り、口径8.5cm、底径6.1cmである。46は土師器坏Aである。器高は3.2cmを測り、反転復元したところ、口径11.1cm、底径7.6cmであった。47は白磁皿（森田A群）である。器高は2.3cmを測り、反転復元したところ、口径10.0cm、底径6.1cmであった。口縁部は露胎で部分的に煤が付着している。48～51は土師器小皿Aであり、器高はほぼ1.0～1.4cmで49以外は反転復元であるが、口径も8.1～8.8cmとなっている。52、53は土師器坏Aである。器高はそれぞれ3.5、3.2cmであり、52の方が緩やかに立ち上がる。54は吉備系土師器椀である。器高は2.5cmを測り、反転復元したところ、口径は10.8cmであった。内面に丁寧なナデが見られる。55は瓦器椀である。器高は2.6+ α cmを測り色調は淡灰色を呈する。

### SK080 出土遺物（第24・25図）

56～59は土師器小皿Aである。器高は1.35cmと1.4cmを測り、反転復元したところ、口径8.0～8.9cm、底径5.8～6. 7cmであった。60は白磁皿（森田A類）であり、器高は1.8+ α cmで精緻なつくりである。第25図1～3は土師器小皿Aである。器高は0.7cm～1.5cmを測り、口径は7.8～8.5cmである。底部が厚く

立ち上がりが低い。4は土師器坏Aである。器高は3.9cmを測り反転復元したところ、口径は11.4cm、底径は6.0cmであった。口縁部は緩やかに内湾して立ち上がる。5は土師器坏Aである。器高は3.9cmを測り反転復元したころ、口径12.4cm、底径が6.8cmであった。6は土師器坏Aである。器高は4.0cmを測り口径は12.2cm、底径は6.1cmである。外面のうち底部から胴部にかけて煤が付着している。7は土師器坏Aである。器高は2.8cmを測り口径12.2cm、底径8.2cmを測る。8は吉備系土師器椀である。高台のみであり、器高は1.8+αcmを測り、反転復元したところ、底径が4.5cmであった。 9は吉備系土師器椀である。器高は2.8+αcmで口径11.0cm、を測る。10は土師質の鍋である。器高は3.0+ α cmで、口縁部のみである。外面に煤が付着している。11は龍泉窯系青磁碗(上田B類)である。器高は2.2+ α cmを測り、外面に蓮弁の上部が見える。12は龍泉窯系青磁碗(上田B類)である。器高は3.6+ α cmを測り、口径は反転復元したところ、16.0cmであった。

**SK085 出土遺物（第25図）**

13～17は土師器小皿Aである。器高は1.0～1.8cmを測り、反転復元で口径は7.7cm～8.4cmですべて底部が厚いタイプである。14は底部に摩耗が見られる。18～21は土師器坏Aである。器高は3.3～4.0cmを測り反転復元で口径は12.3または12.7cmである。20のみ底部に板状圧痕が見られる。22、23は須恵質土器（東播系）の片口鉢の口縁～胴部である。器高は6.7～7.5cmを測り、反転復元したところ口径は22.4～23.0cmであった。24～29は土師器小皿Aである。器高は1.2～2.0cmを測り、反転復元で口径8.1～9.2cmである。すべて底部が厚いタイプで28･29には板状圧痕が見られる。30～33は土師器坏Aである。器高は3.5～3.9cmを測り、反転復元で口径12.2～12.8cmである。34は須恵質土器(東播系)の片口鉢の口縁部であり、器高は5.5+ α cmを測る。35は土師質土器の鍋又は羽釜の胴部～底部である。器高は7.0+αcmを測り外面には煤の付着が見られる。

**SK108 出土遺物（第25図）**

36は土師器小皿Aである。器高は1.5cmを測り、口径8.2cm、底径5.1cmで、底部が厚いタイプである。
37は土師器坏Aの口縁～胴部である。器高は4.5+αcmを測り、反転復元したところ、口径13.0cmであった。

**SK134 出土遺物（第25図）**

38は土師器坏Bである。器高は3.2cmを測り、口径12.6cm、底径6.2cmである。

**SD060 出土遺物（第25・26図）**

39は土師器小皿Aである。器高は1.0cmを測り、口径7.2cm、底径6.4cmである。底部に板状圧痕が見られる。40は土師器坏Aである。器高は3.1cmを測り、反転復元したところ口径12.5cm、底径9.2cmである。41～56は土師器小皿Aである。完形品を含め、まとまって出土した。器高は0.9～2.7cmを測り、口径8.0～9.0cm、底径5.0～7.0cmであった。57～64は土師器坏Aである。こちらも完形品を含めまとまって出土している。器高は2.5～3.7cmを測り、口径11.8～12.8cm、底径6.2～9.1cmであった。65は龍泉窯系青磁の水注又は瓶である。器高は2.5cmを測り色調は淡灰色で精緻な作りである。66は龍泉窯系青磁碗（上田B類）である。器高は3.7+ α cmを測り色調は灰緑色で精緻な作りである。67は龍泉窯系青磁の水注又は瓶である。器高は2.6+ α cmを測り、色調は淡灰色である。68、69は北宋時代の銅銭で、68は嘉祐通寶、69は天聖元寶である。第26図1～5は土師器小皿Aである。完形品を含めまとまって出土した。器高は1.3～1.5cmを測り、口径8.2～8.8cm、底径5.6～7.2cmである。6、7は土師器坏Aである。器高は2.9～3.5cmを測り、口径12.1～12.7cm、底径7.1～8.8cmである。8は瓦質土器鍋（B1類）の口縁部である。器高は3.1+αcmを測り、色調は淡橙色から暗茶色を呈する。

**SD065 出土遺物（第 26 図）**

9 は鉄製釘である。最大長 9.2cm、最大幅 2.0cm、最大厚 2.0cm で重量は 38.4g である。10、11 は土師器皿 C である。器高はそれぞれ 2.0+ α、1.9+ α cm を測り 10 は橙色、11 は淡白茶色を呈する。12、13 は瓦質土器火鉢である。器高は 12 は 2.8+ α cm、13 は 3.9cm を測り、13 は外面口縁部にスタンプ文が見られる。14 は瓦質土器鉢であり、器高は 4.5+ α cm を測る。15 は景徳鎮窯系青花碗（小野 E 群）の底部である。器高は 2.9+ α cm を測り、精緻な作りである。16 は漳州窯系青花皿の底部である。器高は 2.4+ α cm を測り、精緻な作りである。17、18 は備前産陶器の鉢である。17 は器高が 3.8+ α cm で口縁部が斜めに立ち上がり、18 は器高が 12.6cm で口縁部がコの字型に外反している。19、20 は平瓦である。それぞれ最大長 9.6+ α cm、30.4cm、最大幅 10.8+ α cm、12.9cm、最大厚 1.8cm、1.5cm を測る。21、22 は土師器皿 C である。器高はそれぞれ 1.1+ α cm、2.7+ α cm を測り、22 には煤が付着している。23 は軒丸瓦である。最大長 3.9+ α cm、最大幅 12.3+ α cm、最大厚 3.9+ α cm を測る。24 は軒平瓦である。最大長 8.2+ α cm、最大幅 10.7+ α cm、最大厚 10.6cm を測る。25 は楕円形の鉄製品であるが器種は不明である。最大長 2.9cm、最大幅 3.6cm、最大厚 0.9+ α cm を測る。26 は鉄製釘である。最大長 5.7cm、最大幅 1.5cm、最大厚 1.5cm で重量は 13.9g である。

**SD161 出土遺物（SD065 の上層部分）（第 26 図）**

27 は備前産陶器擂鉢の口縁部である。器高は 4.7+ α cm を測る。28 は備前産陶器水屋甕（乗岡中世 6 期～近世 1 期）の口縁部である。器高は 7.3+ α cm で色調は明茶色である。

**SD228 出土遺物（第 26 図）**

29、30 は土師器小皿 A である。器高はそれぞれ 1.1cm、1.4cm を測り 30 の口唇部の方がやや薄い。31 は土師器坏 A である。器高は 4.6+ α cm を測り、色調は淡橙色を呈する。32 は須恵質土器（東播系）の片口鉢の口縁部である。器高は 2.7+ α cm を測り、色調は淡白灰色を呈する。

**SP017 出土遺物（第 26 図）**

33 は銅銭である。右半分が残存していないため不明であるが、□元通寶又は熙寧元寶と考えられる。

**SP023 出土遺物（第 26 図）**

34 は土師器皿 C である。器高は 2.6cm、口径 11.8cm を測り色調はにぶい黄橙色を呈する。

**SP074 出土遺物（第 26 図）**

35 は白磁碗（大宰府Ⅴ類）の口縁部である。器高は 2.5+ α cm を測り、色調は淡灰黄色を呈する。

**SP087 出土遺物（第 26 図）**

36、37 は土師器皿 C である。器高はそれぞれ 2.5+ α cm、2.0+ α cm を測り、色調は淡茶白色を呈する。38 は瓦質土器椀の口縁部である。器高は 3.2+ α cm を測り、色調は淡白色を呈する。

**SP191 出土遺物（第 26 図）**

39 は土師器皿 C である。器高は 3.1+ α cm を測り、色調は淡茶白色を呈する。

**SP234 出土遺物（第 26 図）**

40 は土師器坏 A である。器高は 3.1+ α cm を測り、色調は淡茶白色を呈する。41 は砥石である。最大長 11.3cm、最大幅 6.1cm、最大厚 4.0cm で重量は 380.8g である。

### SX141 出土遺物（第 27 図）

第 27 図 1 は土師器小皿 A である。器高は 1.2cm を測り、色調は橙茶色を呈する。底部が厚いタイプである。2 は土師器坏 A の底部である。器高 1.6+ α cm、底径 6.9cm を測る。3 は吉備系土師器椀で器高 3.4cm、口径 10.6cm、底径 3.8cm を測る。

### 整地層出土遺物（第 27 図）

4 は土師器坏 A の底部で器高 0.9+ α cm、底径 7.0cm を測る。色調は淡橙白色を呈する。5 は土師質土器鍋 B の口縁部である。器高は 3.8+ α cm を測り、色調は淡橙白色を呈する。6 は土師器小皿 A である。器高は 1.0+ α cm を測り、色調は淡橙色を呈する。7 は土師器坏 A の底部である。器高 1.2+ α cm、底径 6.6cm を測り色調は淡茶白色を呈する。

### 検出時出土遺物（第 27 図）

8 は土師器耳皿 B である。底径 3.0cm を測り、色調は橙色を呈する。9 は瓦質土器羽釜である。器高は 7.4+ α cm を測り、色調は灰青色を呈する。10 は龍泉窯系青磁坏の口縁部である。器高は 1.6+ α cm を測る。11 は龍泉窯系青磁香炉である。器高は 1.7+ α cm を測り、内外面に貫入が見られる。12 は龍泉窯系青磁坏（大宰府Ⅲ類）である。器高 2.9cm、口径 12.2cm、底径 5.7cm を測る。13 は龍泉窯系青磁碗（上田 B 類）の口縁部である。器高 2.5+ α cm を測り色調は灰緑色を呈する。14 は北宋時代の銅銭で皇宋通寶である。書体は真書で比較的明瞭である。15 は白磁皿（大宰府Ⅳ類）の口縁部である。器高は 2.0+ α cm を測り、色調は灰白色を呈する。16 は龍泉窯系青磁碗（上田 B 類）の口縁部で、器高 2.1+ α cm、口径 12.6cm を測る。17 は龍泉窯系青磁碗の口縁部～胴部で器高は 4.0+ α cm を測る。18 は龍泉窯系青磁の高台部分であり、碗又は坏と考えられる。器高 1.5+ α cm、底径 4.2m を測る。19、20 は北宋時代の銅銭で 19 は元豊通寶、20 は天禧通寶である。21 は龍泉窯系青磁碗（上田 B 類）の口縁部である。器高は 2.9+ α cm を測り、外面には鎬蓮弁が見られる。22 は白磁碗（大宰府Ⅴ類）の口縁部である。器高は 2.5+ α cm を測り、色調は淡灰黄色を呈する。23 は白磁の水注又は壺の頚部である。器高は 2.0+ α cm を測り、色調は淡い灰緑色を呈する。

### 調査区壁面削時出土遺物（第 27 図）

24 は土師器小皿 B である。器高 2.4cm、口径 9.0cm、底径 5.0cm を測り、色調は茶褐色を呈する。

### カクラン 002 出土遺物（第 27 図）

25 は土師器皿 C である。器高 2.2cm、口径 13.0cm を測る。色調は暗黄茶色を呈し、内面が部分的に黒変している。26 は同安窯系青磁皿（大宰府Ⅰ -2b 類）の底部である。器高は 1.1+ α cm を測り、色調は灰緑色を呈する。

### カクラン 174 出土遺物（第 27 図）

27 は軒平瓦である。最大長 2.3+ α cm、最大厚 2.0+ α cm を測り、唐草文である。

第１表　遺構出土遺物一覧表①

| S番号 | 遺構番号 | 検出面 | 種別 | 土色 | 出土遺物 | 切り合い（古→新） | 備考 | 時期 | グリッド |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器坏A・坏B・大内A式片・小皿A、弥生土器壺、平瓦・桟瓦、龍泉窯系青磁碗(上田C類)、白磁皿(森田E2群)、景徳鎮窯系青花皿、中国褐釉陶器片、備前産陶器片、肥前系磁器染付小坏、土壁、鉄釘(近現代)、銅銭、玉砂利、土管、ガラス瓶、タイル、 | 12・168・193→7・29・55・134・137・156・158→1 | | 現代 | J-10-o22～24・J-15-o1～3 |
| 2 | カクラン | 第1面 | | | 土師器坏A・皿C・小皿A、龍泉窯系青磁瓶×水注、同安窯系青磁皿(大宰府Ⅲ I -2b)、朝鮮磁器片、備前産陶器片、鉄釘(近現代)、土管、ガラス瓶 | 22・23→2 | | 現代 | J-10-o・p22 |
| 3 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器坏A・坏B・皿C・小皿A、瓦片、肥前系磁器染付片、土管、プラスチック、レンガ | 5・101→3 | | 現代 | J-10-r22・23 |
| 4 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器皿C、土管、モルタル | 15→5・8・37→4 | | 現代 | J-10-q・r22・23 |
| 5 | SK005 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏B・大内A式皿・小皿A、弥生土器甕、丸瓦、不明石製品 | 15→5→3・4 | | 16世紀中葉 | J-10-r22 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏B・皿C・大内A式片、須恵器壺×甕(古代)、瓦質土器火鉢、弥生土器片、龍泉窯系青磁片、白磁皿(大宰府皿Ⅸ類)、備前産陶器擂鉢、碁石、玉砂利 | | | | |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏B・皿C・大内A式皿・小皿B、龍泉窯系青磁片、備前産陶器片、土壁、玉砂利 | | | | |
| 6 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器大内A式片、平瓦、同安窯系青磁片、玉砂利、土管 | | | | J-15-s・t3・4 |
| 7 | SX007 | 第1面 | 溜まり状遺構 | 土色なし | 土師器片、瓦質土器片 | 12・13・14→7 | | 15世紀末葉～16世紀初頭？ | J-10-o22 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏B | | | | |
| 8 | SP008 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片 | 15→8→4 | | | J-10-q22 |
| 9 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器坏A・小皿A、須恵器蓋(古代)、瓦質土器片、国産磁器染付皿(銅板印刷)、土管、モルタル、タイル、ガラス | 111・112→9 | | 現代 | J-15-r4～8 |
| 10 | SK010 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏B・皿C・小皿B、備前産陶器片、土錘、石製ヘラ、鉄釘 | 40(75・204)→15・35→10→99 | | 16世紀後葉～末葉 | J-10-p・q23 |
| | | | | 暗灰褐色土 | 土師器坏B・皿C・小皿B・小皿C、須恵器甕×壺(古代)、弥生土器片、丸瓦・平瓦、龍泉窯系青磁碗(上田B類)、土錘・土壁、鉄釘・不明鉄製品、玉砂利 | | | | |
| | | | | 黄褐色土 | 土師器坏B、土壁 | | | | |
| 11 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器坏A・大内A式片・小皿A、瓦質土器片、モルタル | 108→11 | | 現代 | J-15-t7 |
| 12 | SP012 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片 | 12→7 | | | J-10-o22 |
| 13 | SP013 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師質土器片 | 13→7 | | | J-10-o22 |
| 14 | SP014 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器大内A式片・耳皿B | 14→7 | | | J-10-o22 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、弥生土器片 | | | | |
| 15 | SK015 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏B・大内A式片、瓦質土器鍋B、弥生土器片、平瓦、龍泉窯系青磁片、白磁皿(森田E－2群)、土壁、玉砂利 | 129・131→15→5・8・21・25 | | 16世紀前葉 | J-10-q22 |
| | | | | 暗灰色土 | 土師器坏A・坏B・大内A式片、瓦質土器片、平瓦・塼、龍泉窯系青磁碗(上田E類)、備前産陶器片、常滑産陶器片、土錘、鉄釘、玉砂利 | | | | |
| | | | | 暗茶色土 | 土師器坏B、須恵器坏(古代)、弥生土器甕、不明石製品、鉄滓 | | | | |
| 16 | SP016 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器坏B・皿C、備前産陶器片 | 20→16 | | | J-10-p22 |
| 17 | SP017 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片、土師質土器片、銅銭『熙寧元寶』 | 18→17 | | | J-10-p22 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦質土器片 | | | | |
| 18 | SP018 | 第1面 | SB100の柱穴h | 土色なし | 土師器片 | 18→17 | | | J-10-p22 |
| | | | | 茶灰色土 | 遺物なし | | | | |
| 19 | SP019 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器坏B | 40→19 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 20 | SK020 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏B、瓦質土器片、弥生土器片、備前産陶器擂鉢(乗岡中世6期)、土壁 | 20→16 | | 16世紀前葉 | J-10-p・q22 |
| | | | | 暗灰褐色土 | 土師器坏B・大内A式皿、龍泉窯系青磁碗(上田C類)、鉄釘、玉砂利 | | | | |
| 21 | SP021 | 第1面 | SB090の柱穴i | 土色なし | 土師質土器片 | 15→21 | 柱痕あり | 16世紀中葉～後葉 | J-10-q22 |
| | | | | 暗灰色土(柱痕) | 土師器片、土師質土器鍋 | | | | |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C、土師質土器鍋 | | | | |
| 22 | SP022 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器皿C | 22→2 | | 16世紀後葉 | J-10-o22 |
| 23 | SP023 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 茶灰土＝土師器坏B・皿C | 23→2 | | 16世紀中葉～後葉 | J-10-o22 |
| 24 | SP024 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-p22 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦質土器片 | | | | |
| 25 | SK025 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏A・坏B・皿C・大内A式皿、備前産陶器片、鉄釘 | 40(75・204)・162→25→15・26・58・97 | | 16世紀前葉～中葉 | J-10-p・q22・23 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏B・皿C・大内A式×吉備系片、土師質土器鍋B、瓦質土器火鉢・擂鉢、弥生土器甕、平瓦、龍泉窯系青磁碗(上田D類)、白磁碗、景徳鎮窯系青花皿(小野B1群)、中国産灰釉陶器碗×皿、備前産陶器片、土錘・土壁、火打石・玉砂利 | | | | |
| 26 | SP026 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片 | 25→26 | | | J-10-p22 |
| 27 | SP027 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 184→27 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦質土器擂鉢 | | | | |
| 28 | SP028 | 第1面 | SB095の柱穴g | 茶灰色土 | 土師器片、土師質土器片 | | | | J-10-p23 |
| 29 | SP029 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | 15世紀末葉～16世紀初頭 | J-10-o23 |
| 30 | SK030 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏B・皿C、須恵器片(古代)、平瓦 | 124・126・126・128→30→38・42・63・121 | | 16世紀中葉～後葉 | J-10-q・r23 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏B・皿C・小皿B、須恵器片(古代)、瓦質土器片、平瓦、同安窯系青磁碗、土錘、鉄釘、玉砂利 | | | | |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏B・皿C、土師質土器片、平瓦×塼 | | | | |
| 31 | SP031 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片、土師質土器片 | | | | J-10-o24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 32 | SP032 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器坏B、火打石 | | | | J-10-o23 |
| 33 | S0033 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 鉄釘 | | | | J-10-o23 |
| 34 | SP034 | 第1面 | SB105の柱穴a | 土色なし | 土師器坏B | | | | J-10-p22 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器大内A式皿、弥生土器片、土壁 | | | | |
| 35 | SK035 | 第1面 | 土坑 | 暗褐色土 | 土師器坏B・皿C・大内A式片・小皿A・耳皿、須恵器片(古代)、土師質土器片、瓦質土器深鉢形火鉢A、弥生土器片、土壁、鉄製品刀子・鉄釘、碁石・火打石・玉砂利 | 117・118・40(75・204)→35→10 | | 16世紀前葉 | J-10-p23 |
| 36 | SP036 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器坏B、砥石 | | | | J-10-p22 |
| 37 | SP037 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | 37→4 | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 38 | SP038 | 第1面 | ピット | 土色なし | 弥生土器片 | 30→38 | | | J-10-r23 |
| | | | | 茶灰色土 | 遺物なし | | | | |

第２表　遺構出土遺物一覧表②

| S番号 | 遺構番号 | 検出面 | 種別 | 土色 | 出土遺物 | 切り合い（古→新） | 備考 | 時期 | グリッド |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | SP039 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器坏B | 45→39 | | | J-10-r23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、須恵質土器片口鉢(東播系)、備前産陶器片 | | | | |
| 40 | SK040（75・204） | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏A・小皿A、須恵器甕×壺(古代)、須恵質土器片口鉢(東播系)、瓦質土器片、土壁 | 40(75・204)→25・35→10 | S－75・204はS－40の下層部分にあたり、2面目で掘削を行った。 | 14世紀前葉 | J-10-p・q23 |
| | | | | SK204暗灰褐色土 | 土師器坏A・坏B・小皿A・土師器片(古代)、須恵質土器片口鉢(東播系)、瓦器椀、龍泉窯系青磁碗・水注×瓶・香炉×蓋、土壁、石臼、鉄釘 | | | | |
| | | | | SK075灰褐色土 | 土師器坏A・小皿A、須恵器壺(古代)、中国南部産陶器片、備前産陶器鉢、常滑産陶器甕×壺、土壁、石臼 | | | | |
| | | | | SK075灰黄褐色土 | 土師器小皿A、弥生土器片、鉄釘 | | | | |
| 41 | SP041 | 第1面 | SB090の柱穴h | 土色なし | 土師器片、弥生土器片 | 119→41 | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、弥生土器片 | | | | |
| 42 | SP042 | 第1面 | 柱穴 | 茶灰色土 | 龍泉窯系青磁片 | 30→42 | 柱痕あり | | J-10-r23 |
| 43 | SP043 | 第1面 | SB100の柱穴i | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | J-10-p22 |
| 44 | SP044 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片、弥生土器片 | 40(75・204)→44 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | | |
| 45 | SK045 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏B、平瓦、土錘・土壁、不明鉛製品 | 45→39 | | 16世紀前葉 | J-10-r23 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏(古代)、龍泉窯系青磁坏、玉砂利、鉄釘 | | | | |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器大内A式片・小皿B | | | | |
| 46 | SP046 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器皿C、須恵器片(古代) | | | | J-10-r23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、備前産陶器片 | | | | |
| 47 | SP047 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | 40(75・204)→47 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏A | | | | |
| 48 | SP048 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器坏B、土師質土器片 | | | | J-10-p23 |
| 49 | SP049 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片皿C | | | | J-10-p24 |
| 50 | SK050 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏A・小皿A、須恵器長頸壺(古代)、弥生土器片、龍泉窯系青磁碗(上田B類)、白磁皿(森田A群)・皿片 | | | 14世紀中葉～後葉 | J-15-S5 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏A・吉備系椀・小皿A、須恵器片(古代)、瓦器椀 | | | | |
| 51 | SP051 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | J-10-p24 |
| 52 | SP052 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片、弥生土器片 | | | | J-10-p24 |
| 53 | SP053 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片、備前産陶器片 | | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 弥生土器片 | | | | |
| 54 | SP054 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器坏B・皿C・椀C、瓦質土器片、土壁 | 40(75・204)→54 | | 16世紀後葉 | J-10-p23 |
| 55 | SK055 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏B・皿C、瓦質土器片、景徳鎮窯系青花皿(小野B1群) | 193→55→1 | | 16世紀後葉 | J-10-p25・J-15-p1 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏B | | | | |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器小皿A、弥生土器片 | | | | |
| 56 | SP056 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器坏A・皿C・吉備系椀か・小皿A、弥生土器片 | 40(75・204)→56 | | | J-10-p23 |
| 57 | SP057 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器小皿A | 40(75・204)→57 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、土師質土器片 | | | | |
| 58 | SP058 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器皿C、瓦質土器片 | 25→58 | | 16世紀中葉～後葉 | J-10-q22 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C | | | | |
| 59 | SP059 | 第1面 | SB090の柱穴g | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、弥生土器片 | | | | |
| 60 | SD060 | 第2面 | 溝状遺構 | 土色なし | 土師器坏A・小皿A、龍泉窯系青磁碗、銅銭 | | | 14世紀前葉 | J-15-s・t5 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏A・小皿A、須恵質土器片口鉢(東播系)、瓦質土器片、龍泉窯系青磁碗(上田B類)・水注×瓶、土壁、鉄釘 | | | | |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏A・小皿A・坏c(古代)、須恵器片(古代)、土師質土器鍋B1、瓦器椀、弥生土器高坏、中国産陶器天目、鉄釘、銅銭、製塩土器(六連島式) | | | | |
| | | | | 灰褐色砂 | 土師器坏A・小皿A、弥生土器片 | | | | |
| 61 | SP061 | 第1面 | SB115の柱穴b | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-p24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 62 | SP062 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 63 | SP063 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器坏B | 30→63 | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 遺物なし | | | | |
| 64 | SP064 | 第1面 | SB095の柱穴e | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | J-10-q24 |
| 65 | SD065 | 第1面 | 溝状遺構 | 土色なし | 土師器坏B・小皿B、須恵器片(古代)、瓦質土器片、弥生土器片、平瓦、備前産陶器片、鉄釘、玉砂利 | 70・228・236→65→1・226 | | 16世紀後葉 | J-15-p～r2 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏B・皿C・大内A式片、土師質土器火鉢、瓦質土器火鉢・甕・鍋、弥生土器片、丸瓦・平瓦・塼、龍泉窯系青磁碗(上田B類)、景徳鎮窯系青花碗(小野E群)、漳州窯系青花皿、備前産陶器擂鉢・鉢、瀬戸美濃産陶器皿×碗、鉄釘、碁石・台石・玉砂利 | | | | |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏B・皿C、瓦質土器片、弥生土器片、軒丸瓦・丸瓦・平瓦、備前産陶器甕、鉄釘・不明鉄製品、玉砂利 | | | | |
| 66 | SP066 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器坏B、弥生土器片 | 40(75・204)→66 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、土壁 | | | | |
| 67 | SP067 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 弥生土器片 | | | | |
| 68 | SP068 | 第1面 | SB090の柱穴c | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-r24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | | |
| 69 | SP069 | 第1面 | SB095の柱穴f | 茶灰色土 | 土師器片、弥生土器片 | | | | J-10-q23 |
| 70 | SE070 | 第1面 | 井戸跡 | 土色なし | 土師器坏B・小皿A、須恵器片(古代)、瓦質土器擂鉢、平瓦、龍泉窯系青磁碗(上田B類)、備前産陶器擂鉢、玉砂利 | 70→65→1 | | 15世紀末葉～16世紀初頭 | J-15-p2・3 |
| | | | | 灰黄褐色土(井戸枠内) | 土師器坏B、土師質土器火鉢A2、弥生土器片、丸瓦・平瓦、土壁 | | | | |
| | | | | 灰褐色土(井戸枠内) | 土師器坏B、平瓦、龍泉窯系青磁碗(大宰府碗Ⅲ類)、石臼×茶臼 | | | | |
| | | | | 暗灰褐色土(裏込) | 土師器坏B、須恵器蓋(古代)、瓦質土器擂鉢、平瓦、龍泉窯系青磁碗(上田C類)・瓶×壺、備前産陶器片、常滑産陶器片、玉砂利 | | | | |
| | | | | 灰色粘土(裏込) | 須恵器片(古代)、土師質土器片、弥生土器片、備前産陶器片 | | | | |
| 71 | SP071 | 第1面 | SB100の柱穴f | 茶灰色土 | 土師器片 | 40(75・204)→71 | | | J-10-p23 |
| 72 | SP072 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | J-10-r23 |

第３表　遺構出土遺物一覧表③

| S番号 | 遺構番号 | 検出面 | 種別 | 土色 | 出土遺物 | 切り合い（古→新） | 備考 | 時期 | グリッド |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 73 | SP073 | 第1面 | 柱穴 | 土色なし | 土師器片 | | 柱痕あり | | J-10-r24 |
| | | | | 暗灰色土(柱痕) | 遺物なし | | | | |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 74 | SP074 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片、白磁碗(大宰府椀Ⅴ類) | | | | J-10-r24 |
| 75 | SK075 | 第2面 | 土坑(SK040の下層部) | | | | | | J-10-p・q23 |
| 76 | SP076 | 第1面 | SB090の柱穴d | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | J-10-r24 |
| 77 | SP077 | 第1面 | SB100の柱穴e | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | | J-10-p24 |
| 78 | SP078 | 第1面 | SB110の柱穴b | 茶灰色土 | 土師器皿C・大内A式片・玉砂利 | | | | J-10-p24 |
| 79 | SP079 | 第1面 | SB100の柱穴c | 土色なし | 土師器坏B、弥生土器片 | | | | J-10-q24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、備前産陶器片、玉砂利 | | | | |
| 80 | SK080 | 第2面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏A・小皿A、白磁皿(森田A群) | 80→221 | | 14世紀前葉 | J-15-s・t7 |
| | | | | 暗灰褐色土 | 土師器坏A・吉備系椀・小皿A、土師質土器鍋B、弥生土器甕、龍泉窯系青磁碗(上田B類)、常滑産陶器甕 | | | | |
| | | | | 灰褐色砂 | 土師器坏A・小皿A | | | | |
| 81 | SP081 | 第1面 | SB115の柱穴c | 土色なし | 土師器片、備前産陶器片 | | | | J-10-p24・25 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C、須恵器蓋(古代) | | | | |
| 82 | SP082 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | 15世紀末葉～16世紀初頭 | J-10-q24 |
| 83 | SP083 | 第1面 | SB090の柱穴f | 土色なし | 土師器皿C、玉砂利 | | | 16世紀後葉 | J-10-q24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 84 | SP084 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-q24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、土師質土器片、瓦質土器片 | | | | |
| 85 | SK085 | 第2面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏A・吉備系椀・小皿A、土師質土器鍋、須恵質土器片口鉢(東播系)、土壁、鉄釘 | | | 14世紀前葉 | J-15-s4 |
| | | | | 暗灰色土 | 土師器坏A・小皿A、須恵質土器片口鉢(東播系)、土師質土器鍋×羽釜、備前産陶器片、土壁、軽石 | | | | |
| 86 | SP086 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-q24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 87 | SP087 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器皿C、瓦器椀 | | | 16世紀後葉～末葉 | J-10-q24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C | | | | |
| 88 | SP088 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器坏B | 40(75・204)→88 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 89 | SP089 | 第1面 | 柱穴 | 暗灰色土(柱痕) | 土師器片 | 40(75・204)→89 | 柱痕あり | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 90 | SB090 | 第1面 | 掘立柱建物跡 | | | 45→90b(S番号なし) | S－21・41・59・68・76・83・101が柱穴として該当する。S－21・83・101から土師器皿Cが出土。 | 16世紀中葉～後葉 | J-10-q・r22～24 |
| 91 | SP091 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片、土錘 | | | | J-10-p24 |
| 92 | SP092 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | J-10-q24 |
| 93 | SP093 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-q24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C | | | | |
| 94 | SP094 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器坏B、平瓦 | | | | J-10-p23・24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、平瓦、鉄釘 | | | | |
| 95 | SB095 | 第1面 | 掘立柱建物跡 | | | 45→95b(S番号なし)、30→95d(121)、15→95h | S－28・64・69・121が柱穴として該当する。 | 16世紀後葉以降か | J-10-q・r22～24 |
| 96 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 弥生土器甕、唐津産陶器鉢(近世)、玉砂利、土管、モルタル、タイル | | | 現代 | J-10-q・r24・25 |
| 97 | SP097 | 第1面 | SB105の柱穴b | 土色なし | 土師器片 | 40(75・204)→25→97 | | | J-10-p22・23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 98 | SP098 | 第1面 | ピット | 茶灰色土 | 土師器片 | 40(75・204)→98 | | | J-10-p23 |
| 99 | SP099 | 第1面 | 柱穴 | 暗灰色土(柱痕) | 遺物なし | 10→99 | 柱痕あり | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C | | | | |
| 100 | SB100 | 第1面 | 掘立柱建物跡 | | | 100a(S番号なし)→15、100b(S番号なし)→10、40(75・204)→100f（71）・g（184） | S－18・71・77・79・184が柱穴として該当する。 | 15世紀末葉～16世紀前葉 | J-10-p・q22～24 |
| 101 | SP101 | 第1面 | SB090の柱穴a | 暗灰色土(柱痕) | 遺物なし | 101→3 | 柱痕あり | 16世紀中葉～後葉 | J-10-r23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C、弥生土器片 | | | | |
| 102 | SP102 | 第1面 | SB105の柱穴e | 暗灰色土(柱痕) | 土師器片 | 40(75・204)→102 | 柱痕あり | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、瓦質土器片 | | | | |
| 103 | SK103 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器片 | | | | J-15-q3・4 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器片、瓦質土器片 | | | | |
| 104 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器皿C、モルタル、レンガ | | | 現代 | J-15-q3 |
| 105 | SB105 | 第1面 | 掘立柱建物跡 | | | 40（75・204）→25→105b（S番号なし）、40（75・204）→35→105c（S番号なし）、40（75・204）→105d、40（75・204）→105e（102） | S－34・97・102・117が柱穴として該当する。S－23から土師器坏B・大内A式皿、S-102から土師器坏Bが出土している。 | 15世紀末葉～16世紀前葉 | J-10-P22・23 |
| 106 | SP106 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-p3 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器大内A式片 | | | | |

第４表　遺構出土遺物一覧表④

| S番号 | 遺構番号 | 検出面 | 種別 | 土色 | 出土遺物 | 切り合い（古→新） | 備考 | 時期 | グリッド |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 107 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器片、須恵器片(古代)、瓦質土器片、モルタル | | | 現代 | J-15-q3 |
| 108 | SK108 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏A・小皿A、土師質土器片 | 108→11 | | 14世紀前葉～中葉 | J-15-s・t7 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏A | | | | |
| 109 | SP109 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-s7 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 110 | SB110 | 第1面 | 掘立柱建物跡 | | | 55→168→110e（S番号なし）→1 | S－78・153・167・218が柱穴として該当する。S－78から土師器皿Cと大内A式皿、167から土師器皿C、218から吉備系土師器椀が出土している。 | 16世紀中葉～後葉 | J-10-P24・25～J-15-P1 |
| 111 | SP111 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 111→9 | | | J-15-r7 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 112 | SX112 | 第1面 | 溜まり状遺構 | 土色なし | 土師器片、弥生土器片 | 112→9 | | | J-15-s6 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器皿C | | | | |
| 113 | SK113 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器片 | 132→113 | | | J-15-t6 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器片、土師質土器鉢 | | | | |
| 114 | SP114 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-s6 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 115 | SB115 | 第1面 | 掘立柱建物跡 | | | 168→115d（56）→1、115e（193）→55→1、115a（158）→1 | | 16世後葉 | J-10-p24・25～J-15-p1 |
| 116 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器片、玉砂利、土管 | 141→116 | | 現代 | J-15-s・t5 |
| 117 | SP117 | 第1面 | SB0105の柱穴c | 土色なし | 土師器片 | 117→35 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、土壁 | | | | |
| 118 | SP118 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片、鉄釘 | 118→35 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 119 | SP119 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 119→41 | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | | |
| 120 | SA120 | 第1面 | 柵状遺構 | | | | | | J-10-q・r24 |
| 121 | SP121 | 第1面 | SB095の柱穴d | 土色なし | 遺物なし | 30→121 | | | J-10-q24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器高坏(古代)、玉砂利 | | | | |
| 122 | SP122 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-r24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | | |
| 123 | SP123 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-s4 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、弥生土器片 | | | | |
| 124 | SP124 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 124→30 | | | J-10-q・r24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦質土器片 | | | | |
| 125 | SA125 | 第1面 | 柵状遺構 | | | | S－49・93が柱穴として該当する。S－49・93から土師器皿Cが出土している。 | 16世紀中葉～後葉 | J-10-p・q24 |
| 126 | SP126 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 126→30 | | 16世紀中葉 | J-10-r23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C | | | | |
| 127 | SP127 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 127→30 | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 128 | SP128 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 128→30 | | | J-10-q23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 129 | SP129 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 131→129→15 | | | J-10-q22 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 130 | SA130 | 第1面 | 柵状遺構 | | | | S－146・154・191・198が柱穴として該当する。S－146・198から土師器坏B、191から土師器皿Cが出土している。 | 16世紀後葉 | J-10-q25・J-15-p1・2 |
| 131 | SP131 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 131→129→15 | | | J-10-q22 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、弥生土器、玉砂利 | | | | |
| 132 | SX132 | 第1面 | 溜まり状遺構 | 土色なし | 遺物なし | 132→113 | | | J-15-t5・6 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器片 | | | | |
| 133 | SP133 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-p3 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 134 | SK134 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器坏B・大内A式片、瓦質土器火鉢、龍泉窯系青磁碗、玉砂利 | 134→1 | | 15世紀末葉～16世紀前葉 | J-15-p3 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏B、瓦質土器片 | | | | |
| 135 | | 欠番 | | | | | | | |
| 136 | SP136 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-15-p1・2 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦片 | | | | |
| 137 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐土ブロック混 | 土師器小皿A、ガラス片 | 137→1 | | 現代 | J-15-p3 |
| 138 | SX138 | 第1面 | 溜まり状遺構 | 土色なし | 土師器片 | | | | J-15-r・s3 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏A・坏B | | | | |
| 139 | SP139 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-p2 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦質土器片 | | | | |
| 140 | | 欠番 | | | | | | | |

第５表　遺構出土遺物一覧表⑤

| S番号 | 遺構番号 | 検出面 | 種別 | 土色 | 出土遺物 | 切り合い（古→新） | 備考 | 時期 | グリッド |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 141 | SX141 | 第1面 | 溜まり状遺構 | 土色なし | 土師器坏A | 141→50・116 | | 14世紀前葉 | J-15-s・t5 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏A・吉備系椀・小皿A | | | | |
| 142 | SP142 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、瓦質土器片 | | | | |
| 143 | SP143 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、瓦質土器片、玉砂利 | | | | |
| 144 | SP144 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 145 | | 欠番 | | | | | | | |
| 146 | SP146 | 第1面 | SB115の柱穴f | 土色なし | 土師器片、瓦質土器片 | | | | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | | |
| 147 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器坏B・皿C、土師質土器片、弥生土器片、モルタル | 148・161→147 | | 現代 | J-15-p・q2 |
| 148 | SP148 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | 148→147 | | | J-15-q2 |
| | | | | 茶灰色土 | 遺物なし | | | | |
| 149 | SP149 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-q25 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏A×坏B | | | | |
| 150 | | 欠番 | | | | | | | |
| 151 | SP151 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-r25 |
| | | | | 茶灰色土 | 備前産陶器擂鉢(乗岡中世3期) | | | | |
| 152 | SP152 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-r25 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C、龍泉窯系青磁片 | | | | |
| 153 | SP153 | 第1面 | SB110の柱穴f | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 154 | SP154 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-q2 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、土師質土器片、鉄釘 | | | | |
| 155 | | 欠番 | | | | | | | |
| 156 | SP156 | 第1面 | SB115の柱穴d | 土色なし | 遺物なし | 168→156 | | | J-10-p25 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | | |
| 157 | SP157 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器坏B | | | | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B・大内A式片、土師質土器片、瓦質土器片、鉄釘、玉砂利 | | | | |
| 158 | SP158 | 第1面 | SB115の柱穴a | 土色なし | 遺物なし | 158→1 | | | J-10-p24 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、平瓦、火打石 | | | | |
| 159 | SP159 | 第1面 | 柱穴 | 土色なし | 遺物なし | | 根石あり、写真撮影のみ | | J-10-r25 |
| | | | | 茶灰色土 | 遺物なし | | | | |
| 160 | | 欠番 | | | | | | | |
| 161 | SD161(65) | 第1面 | 溝状遺構(S－65の上層) | 土色なし | 土師器坏B、瓦質土器片、丸瓦・平瓦、備前産陶器擂鉢・水屋甕(乗岡中世6期～近世1期) | 161(65)→147 | S－65の上層部にあたる | | J-15-p・q2 |
| 162 | SP162 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 40(75・204)→162→25 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、鉄釘・不明鉄製品 | | | | |
| 163 | SX163 | 第1面 | 溜まり状遺構 | 土色なし | 土師器片、土壁 | | | | J-15-r4 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器坏A・坏B・皿C | | | | |
| 164 | | 欠番 | | | | | | | |
| 165 | | 欠番 | | | | | | | |
| 166 | SP166 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | 16世紀前葉 | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、土壁、鉄釘、玉砂利 | | | | |
| 167 | SP167 | 第1面 | SB110の柱穴g | 土色なし | 遺物なし | | | 16世紀中葉～後葉 | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | | | | | |
| 168 | SK168 | 第1面 | 土坑 | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-p・q25 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 瓦質土器片 | | | | |
| 169 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器坏A、土師質土器片、土管 | | | 現代 | J-15-r4 |
| 170 | | 欠番 | | | | | | | |
| 171 | SP171 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | 16世紀前葉 | J-15-r4 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B | | | | |
| 172 | SP172 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-r4 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 173 | SP173 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-r4 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏A・小皿A | | | | |
| 174 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器皿C、土師質土器擂鉢×鉢、軒平瓦・丸瓦・平瓦、景徳鎮窯系青花片、鉄釘、土管 | 176→174 | | 現代 | J-15-q・r2 |
| 175 | | 欠番 | | | | | | | |
| 176 | SP176 | 第1面 | ピット | 土色なし | | 176→174 | | | J-15-r2 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師質土器片、弥生土器片 | | | | |
| 177 | SP177 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片、備前産陶器擂鉢(乗岡中世2～3期) | | | 16世紀後葉 | J-15-r2 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B・皿C・坏c(古代)、瓦質土器火鉢、平瓦 | | | | |
| 178 | SD178 | 第1面 | 溝状遺構 | 土色なし | 土師器片、土師質土器片、瓦質土器擂鉢、玉砂利 | | | | J-15-r1・2 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器皿C・大内A式片 | | | | |
| 179 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器坏B・皿C・大内A式片、瓦質土器浅形火鉢、常滑産陶器片、肥前系磁器染付碗 | | | 現代 | J-15-q・r2 |
| 180 | | 欠番 | | | | | | | |
| 181 | SP181 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-q・r1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、玉砂利 | | | | |
| 182 | SP182 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-r1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦片 | | | | |
| 183 | カクラン | 第1面 | カクラン | 灰黄褐色土ブロック混 | 土師器片、玉砂利、土管 | | | 現代 | J-15-q・r1 |
| 184 | SP184 | 第1面 | SB100の柱穴g | 土色なし | 遺物なし | 184→27 | | | J-10-p23 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦質土器擂鉢(防長系)、瓦器椀 | | | | |
| 185 | | 欠番 | | | | | | | |
| 186 | SP186 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-q1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦質土器片、土壁 | | | | |

第６表　遺構出土遺物一覧表⑥

| S番号 | 遺構番号 | 検出面 | 種別 | 土色 | 出土遺物 | 切り合い（古→新） | 備考 | 時期 | グリッド |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 187 | SP187 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-q1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、中国南部産陶器片 | | | | |
| 188 | SP188 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 平瓦、龍泉窯系青磁碗、備前産陶器片、製塩土器（六連島式） | | | | |
| 189 | SX189 | 第1面 | 溜まり状遺構 | 土色なし | 土師器皿C | | | | J-15-q1 |
| | | | | 灰黄褐色土 | 土師器片、龍泉窯系青磁碗（上田C類）、土壁 | | | | |
| 190 | | 欠番 | | | | | | | |
| 191 | SP191 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | 16世紀後葉 | J-15-q1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器皿C | | | | |
| 192 | SP192 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-q1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、土壁 | | | | |
| 193 | SP193 | 第1面 | SB115の柱穴e | 土色なし | 遺物なし | 193→55 | | | J-15-p1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、瓦質土器片、備前産陶器擂鉢、鉄釘 | | | | |
| 194 | SP194 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片、平瓦、土壁 | | | | J-10-q25、J-15-q1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦器椀 | | | | |
| 195 | | 欠番 | | | | | | | |
| 196 | SP196 | 第1面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-q1 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、須恵器片（古代） | | | | |
| 197 | SP197 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-10-q25 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器片、瓦質土器鉢、白磁碗×皿（大宰府椀Ⅸ×皿Ⅳ類）、土壁 | | | | |
| 198 | SP198 | 第1面 | ピット | 土色なし | 土師器坏B、玉砂利 | | | | J-10-q25 |
| | | | | 茶灰色土 | 土師器坏B、瓦質土器片 | | | | |
| 199 | SP199 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 40（75・204）→199 | | | J-10-p23 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片、土師質土器擂鉢 | | | | |
| 200 | | 欠番 | | | | | | | |
| 201 | SP201 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 40（75・204）→201 | | | J-10-p23 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 202 | SP202 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 40（75・204）→202 | | | J-10-p23 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器坏A、土壁 | | | | |
| 203 | SP203 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-o22 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器坏B | | | | |
| 204 | SK204 | 第2面 | 土坑（SK040の下層部） | | | | | | J-10-p23 |
| 205 | | 欠番 | | | | | | | |
| 206 | SP206 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-r24 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 207 | SP207 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-r24 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片、瓦質土器片 | | | | |
| 208 | SP208 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-q23 |
| | | | | 褐灰色土 | 鉄釘 | | | | |
| 209 | SP209 | 第2面 | 柱穴 | 土色なし | 遺物なし | | 柱痕あり | | J-10-q23 |
| | | | | 暗灰色土（柱痕） | 土師器片 | | | | |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片、土壁 | | | | |
| 210 | | 欠番 | | | | | | | |
| 211 | SP211 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-q24 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 212 | SP212 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-q24 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器坏A×坏B | | | | |
| 213 | SP213 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-q24 |
| | | | | 褐灰色土 | 須恵器蓋（古代） | | | | |
| 214 | SP214 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-q24 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片、弥生土器片 | | | | |
| 215 | | 欠番 | | | | | | | |
| 216 | SP216 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-p24 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 217 | SP217 | 第2面 | 土坑 | 土色なし | 師器片 | | | | J-10-p24 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器片、土壁 | | | | |
| 218 | SP218 | 第2面 | SB110の柱穴a | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-o24 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器吉備系椀 | | | | |
| 219 | SK219 | 第2面 | 土坑 | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-s8 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器片 | | | | |
| 220 | | 欠番 | | | | | | | |
| 221 | SP221 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 80→221 | | | J-15-s7 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器小皿A | | | | |
| 222 | SP222 | 第2面 | ピット | 土色なし | 土師質土器鍋A | | | | J-15-s6・7 |
| | | | | 褐灰色土 | | | | | |
| 223 | SP223 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-s6 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器質土器片 | | | | |
| 224 | SP224 | 第2面 | ピット | 土色なし | 土師器片 | | | | J-15-s6 |
| | | | | 褐灰色土 | 遺物なし | | | | |
| 225 | | 欠番 | | | | | | | |
| 226 | SP226 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 226→65 | | | J-15-q2 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器皿C、土師質土器擂鉢、鉄釘 | | | | |
| 227 | SP227 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-10-p24 |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片、備前産陶器片、土壁、玉砂利、歯 | | | | |
| 228 | SD228 | 第2面 | 溝状遺構 | 土色なし | 土師器坏A・小皿A、土師質土器片、常滑産陶器片 | 228→65・238 | | 14世紀末葉～15世紀前葉 | J-15-q1～3 |
| | | | | 灰褐色土 | 土師器坏A・小皿A・坏c（古代）、須恵質土器片口鉢（東播系）、瓦質土器片、弥生土器片、備前産陶器片、常滑産陶器片、鉄滓 | | | | |

第７表　遺構出土遺物一覧表⑦

| S番号 | 遺構番号 | 検出面 | 種別 | 土色 | 出土遺物 | 切り合い（古→新） | 備考 | 時期 | グリッド |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 229 | SP229 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-s4 |
| | | | | 灰褐色土 | 土師器坏a(古代) | | | | |
| 230 | | 欠番 | | | | | | | |
| 231 | SK231 | 第2面 | 土坑 | 土色なし | 土師器片 | | | | J-15-q4 |
| | | | | 暗褐色土 | 土師器坏A | | | | |
| 232 | SP232 | 第2面 | 柱穴 | 土色なし | 遺物なし | | 柱痕あり | | J-15-q・r1 |
| | | | | 暗灰色土(柱痕) | 遺物なし | | | | |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 233 | SP233 | 第2面 | 柱穴 | 土色なし | 土師器坏A | | 柱痕あり | | J-15-S4 |
| | | | | 暗灰色土(柱痕) | 遺物なし | | | | |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器坏A | | | | |
| 234 | SP234 | 第2面 | ピット | 土色なし | 土師器坏A、弥生土器片、砥石 | | | | J-15-r3 |
| | | | | 灰褐色土 | 遺物なし | | | | |
| 235 | | 欠番 | | | | | | | |
| 236 | SP236 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 236→65 | | | J-15-r2 |
| | | | | 灰褐色土 | 土師器坏B | | | | |
| 237 | SP237 | 第2面 | 柱穴 | 土色なし | 遺物なし | | | | J-15-q1 |
| | | | | 暗灰色土(柱痕) | 遺物なし | | | | |
| | | | | 褐灰色土 | 土師器片 | | | | |
| 238 | SP238 | 第2面 | ピット | 土色なし | 遺物なし | 228→238 | | | J-15-q3 |
| | | | | 灰褐色土 | 土師質土器片 | | | | |
| 整地層 | | | | 暗灰褐色土 | 土師器坏B、瓦質土器片、平瓦、玉砂利 | 茶褐色土→暗茶褐色土→暗灰褐色土 | | 14世紀前葉 | 調査区中央 |
| 整地層 | | | | 暗茶褐色土 | 土師器坏A、須恵器蓋(古代)、土師質土器鍋B、瓦質土器火鉢、平瓦、備前産陶器片、玉砂利 | 茶褐色土→暗茶褐色土→暗灰褐色土 | | 14世紀前葉 | 調査区中央 |
| 整地層 | | | | 茶褐色土 | 土師器坏A・小皿A、土師質土器片、瓦質土器片、土壁 | 茶褐色土→暗茶褐色土→暗灰褐色土 | | 14世紀前葉 | 調査区中央 |
| 遺構検出時 | | | | 灰褐色土 | 土師器坏A・坏B・皿C・大内A式小皿・小皿A・小皿B・耳皿B、須恵器蓋・壺(古代)、土師質土器鍋B・羽釜B・火鉢、瓦質土器火鉢・擂鉢・鉢×香炉・羽釜、瓦器椀、丸瓦・平瓦・塼、龍泉窯系青磁坏(大宰府坏Ⅲ類)・碗×坏(大宰府椀Ⅳ類×坏Ⅲ類)、碗(上田B類)・香炉、白磁皿(大宰府皿Ⅴ類)、高麗青磁片、中国南部産陶器壺、備前産陶器擂鉢(乗岡中世5～6期)・耳壺、瀬戸美濃産陶器壺、常滑産陶器片、土錘・土壁、火打石・玉砂利・姫島産黒曜石片、鉄釘、銅銭『皇宋通寶』、土管 | | | | J-10グリッド |
| 遺構検出時 | | | | 灰褐色土 | 土師器坏A・坏B・皿C・小皿A・小皿B、須恵器甕(古代)、須恵質土器片口鉢(東播系)、土師質土器羽釜・火鉢、瓦質土器鉢、弥生土器片、丸瓦、龍泉窯系青磁坏×碗(大宰府坏Ⅲ類×椀Ⅲ類)・碗(上田B・C類)・碗・坏、同安窯系青磁片、白磁皿(大宰府Ⅸ類)、景徳鎮窯系青花皿、漳州窯系青花皿、中国産褐釉陶器壺、備前産陶器擂鉢(乗岡中世Ⅳ期)、常滑産陶器片、国産陶器水滴、肥前系磁器染付片、土錘、鉄釘、銅銭『元豊通寶』・『天禧通寶』、砥石・玉砂利、土管 | | | | J-15グリッド |
| 遺構検出時 | | | | 黄灰色土 | 土師器坏A・坏B・皿C、土師質土器片、玉砂利 | | | | J-10グリッド |
| 遺構検出時 | | | | 黄灰色土 | 土師器坏A・坏B・皿C・吉備系椀・小皿A・小皿B・皿c(中世)、須恵器坏c(古代)、土師質土器鍋B、瓦質土器擂鉢、弥生土器片、平瓦、龍泉窯系青磁坏(大宰府坏Ⅲ類)、白磁碗(大宰府椀Ⅴ類)・水注×壺、備前産陶器鉢×小壺、常滑産陶器片、土錘・土壁、石製品硯、玉砂利 | | | | J-15グリッド |
| 調査区壁面削時 | | | | | 土師器坏A・坏B・皿C・小皿A・小皿B・白色土器片、須恵器片(古代)、土師質土器火鉢、瓦質土器鉢、丸瓦・平瓦・万十軒瓦、龍泉窯系青磁坏(大宰府坏Ⅲ類)、備前産陶器片、肥前系磁器染付碗、土壁、玉砂利、タイル、土管 | | | | |

## 第８表　遺構出土遺物観察表①

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | | 色調・釉調 | 胎土 | 調整・装飾 | | 備考 | 分類時期 | R番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径/最大長 | 器高/最大幅 | 底径/最大厚 | 孔径/重量(g) | | | 内面 | 外面 | | | |
| 第23図-1 | SB090i(SP021 暗灰色土　柱痕) | 土師質土器 | 鍋 | ― | 4.9+α | ― | ― | 外：橙色・内：灰黄色 | 長石・角閃石・石英 | 横方向のハケ目 | ヨコナデ | | | R001 |
| 第23図-2 | SB090i(SP021 茶灰色土) | 土師器 | 皿 | ― | 1.5+α | ― | ― | 黄橙色 | 角閃石 | ナデ・ヨコナデ | ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第23図-3 | SB090f(SP083) | 土師器 | 皿 | ― | 1.9+α | ― | ― | 淡灰茶色 | 雲母 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R002 |
| 第23図-4 | SB090f(SP083) | 土師器 | 皿 | (12.4) | 2.0 | (6.4) | ― | 淡茶色 | 石英・雲母・赤色粒子 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第23図-5 | SB090a(SP101 茶灰色土) | 土師器 | 皿 | ― | 2.1+α | ― | ― | 淡茶白色 | 石英・角閃石 | 回転ナデ | 回転ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第23図-6 | SB100g(SP184 茶灰色土) | 土師器 | 坏 | (16.1) | 4.0 | (10.6) | ― | 暗灰白色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R001 |
| 第23図-7 | SB100g(SP184 茶灰色土) | 瓦質土器 | 擂鉢 | ― | 5.3+α | ― | ― | 灰白色 | 砂粒少し・白色粒子・長石含む | 回転ナデ | 回転ナデ | 内面にすり目あり | | R002 |
| 第23図-8 | SB105e(SP102 茶灰色土) | 土師器 | 坏 | ― | 1.7+α | ― | ― | 橙色 | 石英・雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ | | 坏B | R001 |
| 第23図-9 | SB110b(SP078 茶灰色土) | 土師器 | 皿 | ― | 1.7+α | ― | ― | にぶい黄橙色 | 長石・白色粒子・石英 | 摩滅のため調整不明瞭 | 摩滅のため調整不明瞭 | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第23図-10 | SB110f(SP167 茶灰色土) | 土師器 | 皿 | 12.2 | 2.0+α | ― | ― | 茶白色 | 石英・雲母・白色粒子 | 強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第23図-11 | SB115c(SP081 茶灰色土) | 土師器 | 皿 | ― | 2.0+α | ― | ― | 暗灰色～淡灰茶色 | 橙色粒子 | ナデ・強いヨコナデ | ナデ・強いヨコナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第23図-12 | SB115d(SP156 茶灰色土) | 土師器 | 坏 | ― | 1.9+α | ― | ― | 淡橙色 | 石英・赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ | | 坏B | R001 |
| 第23図-13 | SE070 | 土師器 | 坏 | (8.0) | 2.5 | (5.4) | ― | にぶい橙色 | 角閃石・赤色粒子 | 一定方向のナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | 口縁スス付着 | 坏B | R001 |
| 第23図-14 | SE070 | 青磁 | 碗 | ― | 3.5+α | ― | ― | 灰緑色 | 白色で黒色粒子、褐色粒子含む | 施釉 | 施釉 | 内、外面に貫入あり | 上田B | R002 |
| 第23図-15 | SE070 | 瓦類 | 平瓦 | 12.6+α | 8.6+α | 1.9 | ― | 灰色 | 白色粒子・黒色粒子 | ナデ | 工具ナデ・ナデ | | | R003 |
| 第23図-16 | SE070 | 瓦類 | 平瓦 | 9.3+α | 7.1+α | 1.3+α | ― | 暗灰色 | 白色粒子 | ナデ | 工具ナデ・ナデ | | | R004 |
| 第23図-17 | SE070　暗灰褐色土 | 龍泉窯系青磁 | 碗 | ― | 2.8+α | ― | ― | 灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 上田C | R001 |
| 第23図-18 | SE070　暗灰褐色土 | 龍泉窯系青磁 | 瓶×壷 | ― | 1.8+α | ― | ― | 灰緑色 | 灰白色で黒色粒子、褐色粒子含む | 施釉 | 施釉・露胎 | 内、外面に貫入あり | | R002 |
| 第23図-19 | SE070　暗灰褐色土 | 瓦類 | 平瓦 | 16.1+α | 11.6+α | 1.9 | ― | 暗灰色 | 白色粒子・黒色粒子 | ナデ | ナデ | 釘穴あり | | R004 |
| 第23図-20 | SE070　灰黄褐色土 | 土師器 | 坏 | (9.2) | 1.8 | (5.2) | ― | 橙茶色 | 長石 | 回転ナデ後仕上げナデ | 回転ナデ・回転糸切り離し | | 坏B | R001 |
| 第23図-21 | SE070　灰黄褐色土 | 土師器 | 火鉢 | ― | 3.7+α | ― | ― | にぶい橙色 | 角閃石・長石・赤色粒子0.1～1mm含む・砂粒やや多い | ナデ | ナデ・スタンプ | | 火鉢A2 | R002 |
| 第23図-22 | SE070　灰褐色土 | 土師器 | 坏 | (7.4) | 1.5 | 3.8 | ― | にぶい橙色・一部灰黄色 | 赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | スス付着 | | R001 |
| 第23図-23 | SE070　灰褐色土 | 瓦類 | 平瓦 | 10.3+α | 8.7+α | 2.1 | ― | 灰色 | 白色粒子 | 工具ナデ | 工具ナデ・ナデ | | | R004 |
| 第23図-24 | SK005　暗褐色土 | 白磁 | 皿 | ― | 1.6+α | ― | ― | 灰白色 | 黒色の微粒子含む | 施釉・露胎 | 施釉・露胎 | 口縁部には釉がない（口はげ） | Ⅸ類 | R002 |
| 第23図-25 | SK005　暗褐色土 | 土師器 | 皿 | (10.6) | 2.0 | ― | ― | 淡黄色 | 長石 | ヨコナデ | 指圧痕・ナデ・ヨコナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第23図-26 | SK010 | 土師器 | 小皿 | 7.6 | 1.7 | 5.0 | ― | 橙茶色 | 長石・角閃石・赤色粒子 | 回転ヨコナデ・仕上げナデ | 回転ヨコナデ・回転糸切り離し | 口唇部にスス付着（灯明皿） | 小皿B | R004 |
| 第23図-27 | SK010 | 石製品 | ヘラ | 13.4 | 2.4 | 1.0 | 51.7 | ― | ― | ― | ― | | | R006 |
| 第23図-28 | SK010　暗灰褐色土 | 土師器 | 小皿 | 5.0 | 1.7 | ― | ― | 淡黄色 | 赤色粒子 | ヨコナデ | 指圧痕・ナデ・ヨコナデ | | 小皿C | R004 |
| 第23図-29 | SK010　暗灰褐色土 | 土師器 | 皿 | ― | 1.8 | ― | ― | 淡茶色～黒色 | 長石 | ヨコナデ・仕上げナデ | ナデ・ヨコナデ | 京都系 | 皿C | R002 |
| 第23図-30 | SK010　暗灰褐色土 | 土師器 | 皿 | (13.4) | 1.7+α | ― | ― | 淡黄橙色 | 長石・赤色粒子 | ヨコナデ | ナデ・ヨコナデ | 京都系・外面底が黒変 | 皿C | R003 |
| 第23図-31 | SK010　暗灰褐色土 | 土師器 | 皿 | (22.4) | 2.6+α | ― | ― | 暗灰茶色 | 角閃石少し・長石・微粒子多い | 回転ナデ・ナデ | 回転ナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第23図-32 | SK010　暗灰褐色土 | 瓦類 | 平瓦 | 8.5+α | 7.6+α | 2.4 | ― | 橙茶褐色 | 角閃石・長石・赤色粒子含む | 工具による横方向の調整・縦方向のナデ | 工具による調整 | | | R006 |
| 第23図-33 | SK010　暗灰褐色土 | 土製品 | 土錘 | 3.7 | 1.2 | 1.2 | 5.9 | にぶい黄褐色 | 角閃石・白色粒子 | ― | ナデ | | | R005 |
| 第23図-34 | SK015 | 白磁 | 皿 | ― | 1.5 | ― | ― | 灰白色（口縁部は淡褐色） | 黒色の微粒子含む | 施釉 | 施釉 | 口縁部分の釉が違う | E-2 | R005 |
| 第23図-35 | SK015 | 瓦質土器 | 鍋 | (26.5) | 9.8+α | ― | ― | 灰黄色 | 長石・角閃石・赤色石 | 横方向のナデ | 横方向のヘラミガキ・摩擦のため不明瞭 | | 鍋B | R004 |
| 第23図-36 | SK015　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | (12.2) | 2.7 | (7.0) | ― | にぶい黄橙色 | 角閃石・赤色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 坏B | R004 |
| 第23図-37 | SK015　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | 11.0 | 2.7 | ― | ― | 灰黄色 | 赤色粒子・長石・角閃石 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏B | R001 |
| 第23図-38 | SK015　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | (11.8) | 2.8 | 6.2 | ― | 黄橙色 | 長石・角閃石 | 回転ナデ・内底ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏B | R002 |
| 第23図-39 | SK015　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | (12.0) | 2.7 | (5.8) | ― | にぶい黄橙色 | 角閃石・長石 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏B | R003 |
| 第23図-40 | SK015　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | (11.8) | 2.5 | 7.0 | ― | にぶい黄橙色 | 赤色粒子・角閃石 | 回転ナデ・ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏B | R005 |
| 第23図-41 | SK015　暗灰色土 | 龍泉窯系青磁 | 碗 | ― | 3.1+α | ― | ― | 緑灰色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 上田E | R007 |
| 第23図-42 | SK015　暗灰色土 | 土製品 | 土錘 | 4.0 | 1.6 | 1.6 | 10.1 | 明赤褐色 | 石英・白色粒子 | ― | ナデ | | | R006 |
| 第23図-43 | SK020 | 国産陶器 | 擂鉢 | ― | 11.2 | 12.0 | ― | 淡橙色～淡暗茶色 | 長石・白色粒子 | ヨコナデ・擂目 | ヨコナデ・擂目・無調整 | 備前焼 | 乗岡中世6期 | R001 |
| 第24図-1 | SK020　暗灰褐色土 | 龍泉窯系青磁 | 碗 | ― | 2.35+α | ― | ― | 緑灰色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 上田E | R001 |
| 第24図-2 | SK025 | 土師器 | 皿 | ― | 2.4+α | ― | ― | 暗灰色 | 石英・雲母・角閃石・白色粒子 | 強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第24図-3 | SK025 | 土師器 | 皿 | ― | 2.7+α | ― | ― | 淡白茶色 | 石英 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 大内A式 | R003 |
| 第24図-4 | SK025　暗褐色土 | 土師器 | 皿 | ― | 1.8+α | ― | ― | 白茶色 | 石英・角閃石・雲母・赤色粒子 | 強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第24図-5 | SK025　暗褐色土 | 土師器 | 皿 | ― | 2.2+α | ― | ― | 淡橙色 | 石英・雲母・白色粒子 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R002 |
| 第24図-6 | SK025　暗褐色土 | 土師器 | 坏 | ― | 1.5+α | ― | ― | 橙茶色 | 石英・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏B | R004 |
| 第24図-7 | SK025　暗褐色土 | 土師器 | 坏 | (8.7) | 2.1 | (5.6) | ― | 橙茶色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏B | R003 |
| 第24図-8 | SK025　暗褐色土 | 土師質 | 鍋 | ― | 5.9+α | ― | ― | 橙色 | 石英・赤色粒子・白色粒子 | ハケ目後ナデ | ナデ | | | R006 |
| 第24図-9 | SK025　暗褐色土 | 景德鎮窯系青花 | 皿 | ― | 2.7+α | ― | ― | 透明釉 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | ラマ式蓮弁 | 小野B1 | R008 |
| 第24図-10 | SK025　暗褐色土 | 瓦類 | 平瓦 | 9.1 | 6.5 | 1.6 | ― | 暗灰色 | 白色粒子・黒色粒子 | ナデ | ナデ | | | R010 |
| 第24図-11 | SK025　暗褐色土 | 土製品 | 土錘 | 5.0+α | 1.0 | 1.1 | 6.0 | 淡橙色～橙色 | 石英・角閃石 | ― | ナデ | | | R007 |
| 第24図-12 | SK025　暗褐色土 | 火打石 | | 3.9+α | 3.0+α | 2.2+α | 30.8 | ― | ― | ― | ― | | | R011 |
| 第24図-13 | SK030 | 土師器 | 皿 | (13.0) | 2.0+α | (5.6) | ― | 淡茶白色 | 石英・雲母・白色粒子 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | | R003 |
| 第24図-14 | SK030 | 土師器 | 皿 | (13.0) | 2.5+α | (6.0) | ― | 茶白色 | 石英・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | | R002 |
| 第24図-15 | SK030　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | 8.0 | 2.1 | 4.7 | ― | 淡橙茶色 | 石英・雲母・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | 全体に黒変・口縁部にスス付着 | 小皿B | R002 |
| 第24図-16 | SK030　暗褐色土 | 土師器 | 皿 | (13.4) | 2.5 | (7.1) | ― | 淡橙茶色 | 石英・雲母 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | | R003 |
| 第24図-17 | SK030　暗褐色土 | 土師器 | 坏 | (10.4) | 2.3 | (6.8) | ― | 橙色 | 石英・雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏B | R001 |
| 第24図-18 | SK030　暗褐色土 | 土製品 | 土錘 | 4.8 | 1.1 | 1.1 | 5.4 | 橙色 | 石英・角閃石 | ― | ナデ | | | R004 |
| 第24図-19 | SK030　暗褐色土 | 土製品 | 土錘 | 4.9 | 1.1 | 1.0 | 4.9 | 淡橙色 | 石英・雲母 | ― | ナデ | 全体黒変 | | R005 |
| 第24図-20 | SK030　暗褐色土 | 土製品 | 土錘 | 4.0+α | 1.2 | 1.0 | 5.8 | 橙色 | 石英・雲母 | ― | ナデ | 黒変あり | | R006 |

第９表　遺構出土遺物観察表②

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | | 色調・釉調 | 胎土 | 調整・装飾 | | 備考 | 分類時期 | R番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径/最大長 | 器高/最大幅 | 底径/最大厚 | 孔径/重量(g) | | | 内面 | 外面 | | | |
| 第24図-21 | SK035　暗褐色土 | 土師器 | 皿 | — | 2.1+α | — | — | 淡茶白色 | 石英・雲母 | 強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサ工後ナデ | 京都系 | | R002 |
| 第24図-22 | SK035　暗褐色土 | 土師器 | 坏 | 11.2 | 2.7 | 6.0 | — | 橙茶色 | 石英・雲母・長石・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | P-2 | 坏B | R001 |
| 第24図-23 | SK035　暗褐色土 | 瓦質土器 | 深鉢 | — | 15.0+α | (31.0) | — | 淡白灰色 | 石英・長石・角閃石 | 回転ナデ・ナデ | 回転ナデ・ケズリ | P-1 | A | R004 |
| 第24図-24 | SK040 | 土師器 | 小皿 | (8.2) | 1.0 | (7.9) | — | 橙茶色 | 石英・雲母・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R002 |
| 第24図-25 | SK040 | 土師器 | 小皿 | (9.4) | 1.1 | (7.8) | — | 橙茶色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | 口縁端部にススト付着 | 小皿A | R003 |
| 第24図-26 | SK040 | 土師器 | 坏 | (13.6) | 3.6 | (9.5) | — | 淡橙茶色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R001 |
| 第24図-27 | SK040 | 須恵質土器 | 片口鉢 | — | 3.2+α | — | — | 灰色 | 石英・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ | 東播系 | | R004 |
| 第24図-28 | SK040(075　灰黄褐色土) | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 1.1 | 6.6 | — | にぶい黄橙色 | 金雲母 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 小皿A | R001 |
| 第24図-29 | SK040(075　灰褐色土) | 土師器 | 小皿 | (8.2) | 1.4 | 6.4 | — | 橙色・明赤褐色 | 白色粒子・赤色粒子 | 回転ナデ・ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 小皿A | R001 |
| 第24図-30 | SK040(075　灰褐色土) | 須恵質土器 | 片口鉢 | (17.4) | 5.5 | (7.4) | — | 茶灰色 | 長石・石英 | ヨコナデ | ヨコナデ・糸切り | 東播系 | | R004 |
| 第24図-31 | SK040(075　灰褐色土) | 石製品 | 石臼 | — | 2.3+α | — | — | 黒灰褐色 | — | 擂目 | — | 残存擂目よく使用されている | | R005 |
| 第24図-32 | SK040(204　暗灰褐色土) | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 1.1 | 7.0 | — | 淡橙白色 | 金雲母・石英 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | P-4㊦ | 小皿A | R005 |
| 第24図-33 | SK040(204　暗灰褐色土) | 土師器 | 小皿 | 8.7 | 1.1 | 7.0 | — | 淡橙白色 | 長石・石英・金雲母 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | P-4㊤ | 小皿A | R004 |
| 第24図-34 | SK040(204　暗灰褐色土) | 土師器 | 小皿 | (8.8) | 1.4 | (6.4) | — | 淡茶白色～淡茶灰色 | 金雲母・石英・長石 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | P-5 | 小皿A | R006 |
| 第24図-35 | SK040(204　暗灰褐色土) | 土師器 | 坏 | (11.3) | 3.2 | (7.8) | — | 淡橙白色 | 金雲母・角閃石・石英 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | P-2 | 坏A | R002 |
| 第24図-36 | SK040(204　暗灰褐色土) | 土師器 | 坏 | 13.0 | 3.4 | 8.7 | — | 淡茶白色 | 角閃石・石英・金雲母・長石 | 回転ナデ・ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | ススト付着・P-1 | 坏A | R001 |
| 第24図-37 | SK040(204　暗灰褐色土) | 土師器 | 坏 | (13.0) | 2.6 | (9.2) | — | 淡茶白色 | 長石・赤色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | ススト付着・P-5 | 坏A | R003 |
| 第24図-38 | SK040(204　暗灰褐色土) | 須恵質土器 | 片口鉢 | — | 3.0+α | — | — | 淡灰白色 | 長石・石英 | 回転ナデ | 回転ナデ | ススト付着 | | R009 |
| 第24図-39 | SK040(204　暗灰褐色土) | 龍泉窯系青磁 | 水注×瓶 | — | 4.9+α | — | — | 淡灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | | R008 |
| 第24図-40 | SK040(204　暗灰褐色土) | 龍泉窯系青磁 | 香炉×蓋 | — | 1.2+α | — | — | 灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | | R007 |
| 第24図-41 | SK045 | 土師器 | 坏 | — | 2.0+α | — | — | 橙茶色 | 石英・角閃石・雲母・長石・赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ | | 坏B | R001 |
| 第24図-42 | SK045 | 土製品 | 土錘 | 6.4 | 1.3 | 1.1 | 9.6 | 淡橙色 | 石英・角閃石 | — | ナデ | | | R002 |
| 第24図-43 | SK045　暗褐色土 | 龍泉窯系青磁 | 皿か | — | 2.1+α | — | — | 青緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | 貫入あり | | R001 |
| 第24図-44 | SK045　灰黄褐色土 | 土師器 | 坏 | — | 2.2+α | — | — | 橙茶色 | 石英・角閃石・雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ | 口縁部煤付着 | 坏B | R001 |
| 第24図-45 | SK050 | 土師器 | 小皿 | 8.5 | 1.4 | 6.1 | — | 橙茶色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R001 |
| 第24図-46 | SK050 | 土師器 | 坏 | (11.1) | 3.2 | (7.6) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母・赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 坏A | R002 |
| 第24図-47 | SK050 | 白磁 | 皿 | (10.0) | 2.3 | (6.1) | — | 灰白色 | 精緻 | 施釉・露胎 | 施釉・露胎 | | 森田A | R003 |
| 第24図-48 | SK050　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | (8.1) | 1.4 | (5.4) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R008 |
| 第24図-49 | SK050　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 1.4 | 5.6 | — | 橙茶色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R004 |
| 第24図-50 | SK050　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | (8.8) | 1.0 | (7.6) | — | 橙茶色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ・ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R005 |
| 第24図-51 | SK050　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | (8.2) | 1.4 | (7.0) | — | 淡橙色～橙色 | 石英・雲母・赤色粒子 | 回転ナデ? | 回転ナデ?糸切り離し後板状圧痕 | 摩耗あり | 小皿A | R006 |
| 第24図-52 | SK050　暗褐色土 | 土師器 | 坏 | (12.3) | 3.5 | 7.5 | — | 淡橙茶色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R001 |
| 第24図-53 | SK050　暗褐色土 | 土師器 | 坏 | (13.2) | 3.2 | (10.2) | — | 橙茶色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R002 |
| 第24図-54 | SK050　暗褐色土 | 土師器 | 椀 | (10.8) | 2.5 | — | — | 淡白茶色 | 石英・雲母 | 丁寧なナデ | ナデ | 吉備系 | | R009 |
| 第24図-55 | SK050　暗褐色土 | 瓦器 | 椀 | — | 2.6+α | — | — | 淡灰色 | 石英 | 回転ナデ | 回転ナデ | | | R011 |
| 第24図-56 | SK080 | 土師器 | 小皿 | (8.0) | 1.4 | 6.2 | — | にぶい橙色 | 長石・白色粒子・赤色粒子 | ナデ・ヨコナデ | ヨコナデ・糸切り離し | | 小皿A | R004 |
| 第24図-57 | SK080 | 土師器 | 小皿 | (8.6) | 1.4 | 5.8 | — | にぶい橙色 | 金雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 小皿A | R003 |
| 第24図-58 | SK080 | 土師器 | 小皿 | 8.8 | 1.35 | 6.4 | — | 黄橙色 | 長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英・金雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 小皿A | R001 |
| 第24図-59 | SK080 | 土師器 | 小皿 | 8.9 | 1.35 | 6.7 | — | 黄橙色 | 長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英・金雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 小皿A | R002 |
| 第24図-60 | SK080 | 白磁 | 皿 | 10.2 | 1.8+α | — | — | 透明釉 | 精緻 | 施釉・露胎 | 施釉・露胎 | | 森田A | R005 |
| 第25図-1 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 小皿 | (7.8) | 0.7 | 6.8 | — | 黄橙色 | 赤色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り離し | | 小皿A | R007 |
| 第25図-2 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 小皿 | 8.5 | 1.5 | 6.0 | — | 黄橙色 | 長石・角閃石・石英・金雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り離し | | 小皿A | R005 |
| 第25図-3 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 小皿 | (8.2) | 1.4 | 6.0 | — | 橙色 | 長石・角閃石・石英・金雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り離し | | 小皿A | R006 |
| 第25図-4 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 坏 | (11.4) | 3.9 | 6.0 | — | 橙色 | 角閃石・白色粒子・赤色粒子・金雲母 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り離し | | 坏A | R003 |
| 第25図-5 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 坏 | (12.4) | 3.9 | 6.8 | — | にぶい橙色 | 角閃石・白色粒子・赤色粒子・金雲母 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り離し | | 坏A | R004 |
| 第25図-6 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 坏 | 12.2 | 4.0 | 6.1 | — | 淡橙茶色 | 長石・石英・金雲母・赤色粒子 | 回転ヨコナデ | 回転ヨコナデ・回転糸切り離し | 外面にススト付着（底面から胴にかけて）P-1 | 坏A | R001 |
| 第25図-7 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 坏 | 12.2 | 2.8 | 8.2 | — | 淡橙黄色 | 長石・赤色粒子 | 回転ヨコナデ・仕上げナデ | 回転ヨコナデ・回転糸切り後板状圧痕 | P-3 | 坏A | R002 |
| 第25図-8 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 椀 | — | 1.8+α | (4.5) | — | 橙色 | 長石・角閃石 | ナデ | ナデ | 吉備系・高台のみ | | R009 |
| 第25図-9 | SK080　暗灰褐色土 | 土師器 | 椀 | 11.0 | 2.8+α | — | — | 淡灰白色 | 白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ | 吉備系 | | R008 |
| 第25図-10 | SK080　暗灰褐色土 | 土師質土器 | 鍋 | — | 3.0+α | — | — | 淡茶色 | 長石・赤色粒子 | ヨコハケ・ヨコナデ | 指圧痕・ナデ・ヨコナデ | 外面にススト付着（底面から胴にかけて） | 鍋B | R010 |
| 第25図-11 | SK080　暗灰褐色土 | 龍泉窯系青磁 | 碗 | — | 2.2+α | — | — | 淡青灰色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 上田B | R012 |
| 第25図-12 | SK080　暗灰褐色土 | 龍泉窯系青磁 | 碗 | (16.0) | 3.6+α | — | — | 青緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 上田B | R011 |
| 第25図-13 | SK085 | 土師器 | 小皿 | (7.8) | 1.4 | 6.0 | — | 橙茶色 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R005 |
| 第25図-14 | SK085 | 土師器 | 小皿 | 7.7 | 1.0 | 5.0 | — | 橙茶色 | 石英・雲母・赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し？摩耗？ナデ？ | 底部摩耗あり | 小皿A | R006 |
| 第25図-15 | SK085 | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 1.5 | 5.2 | — | 橙茶色～橙色 | 石英・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R009 |
| 第25図-16 | SK085 | 土師器 | 小皿 | 8.0 | 1.8 | 6.0 | — | 橙茶色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R008 |
| 第25図-17 | SK085 | 土師器 | 小皿 | (7.9) | 1.6 | 5.8 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母・金雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R007 |
| 第25図-18 | SK085 | 土師器 | 坏 | 12.7 | 3.5 | 6.4 | — | 淡橙色 | 石英・金雲母・雲母・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R001 |
| 第25図-19 | SK085 | 土師器 | 坏 | (12.3) | 4.0 | 7.0 | — | 淡橙色 | 石英・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R002 |
| 第25図-20 | SK085 | 土師器 | 坏 | 12.7 | 3.4 | 8.2 | — | 淡橙色 | 石英・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 坏A | R003 |
| 第25図-21 | SK085 | 土師器 | 坏 | (12.7) | 3.3 | 6.4 | — | 橙茶色 | 石英・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R004 |

第 10 表　遺構出土遺物観察表③

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | | 色調・釉調 | 胎土 | 調整・装飾 | | 備考 | 分類時期 | R番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径/最大長 | 器高/最大幅 | 底径/最大厚 | 孔径/重量(g) | | | 内面 | 外面 | | | |
| 第25図-22 | SK085 | 須恵質土器 | 片口鉢 | (22.4) | 7.5 | — | — | 灰色 | 石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ | 自然釉・東播系 | | R012 |
| 第25図-23 | SK085 | 須恵質土器 | 片口鉢 | (23.0) | 6.7 | — | — | 灰色 | 石英・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ | 東播系 | | R013 |
| 第25図-24 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.3 | 1.6 | 6.1 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R006 |
| 第25図-25 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 1.5 | 6.2 | — | 淡橙茶色 | 石英・角閃石・金雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R007 |
| 第25図-26 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 小皿 | (8.1) | 1.5 | (6.2) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 糸切り離し | | 小皿A | R009 |
| 第25図-27 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 小皿 | (9.2) | 2.0 | (7.2) | — | 淡橙茶色 | 石英・角閃石・長石・金雲母・白色粒子・橙色粒子 | 回転ナデ | 糸切り離し(摩耗)・回転ナデ | | 小皿A | R010 |
| 第25図-28 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.5 | 1.2 | 6.8 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母・赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R011 |
| 第25図-29 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.3 | 1.5 | 6.8 | — | 橙茶色 | 石英・角閃石・長石・雲母・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R012 |
| 第25図-30 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | 12.2 | 3.5 | 6.8 | — | 橙茶色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | P-6 | 坏A | R002 |
| 第25図-31 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | 12.4 | 3.9 | 6.0 | — | 橙茶色 | 石英・金雲母・雲母・白色粒子・赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R003 |
| 第25図-32 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 3.6 | 6.7 | — | 橙茶色 | 石英・角閃石・雲母・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R004 |
| 第25図-33 | SK085　暗灰色土 | 土師器 | 坏 | (12.8) | 3.6 | (9.6) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R005 |
| 第25図-34 | SK085　暗灰色土 | 須恵質土器 | 片口鉢 | — | 5.5+α | — | — | 灰色 | 石英・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ | 東播系 | | R013 |
| 第25図-35 | SK085　暗灰色土 | 土師質土器 | 鍋×羽釜 | — | 7.0+α | — | — | 黒色～暗灰茶色 | 石英・赤色粒子・白色粒子 | ハケ目 | ハケ後ナデ+タタキ・指オサエ後ナデ | 外面スス付着 | | R014 |
| 第25図-36 | SK108 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 1.5 | 5.1 | — | 淡橙茶色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R001 |
| 第25図-37 | SK108　灰黄褐色土 | 土師器 | 坏 | (13.0) | 4.5+α | — | — | 橙茶色 | 石英・雲母・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R001 |
| 第25図-38 | SK134　灰黄褐色土 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 3.2 | 6.2 | — | 橙茶色 | 石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏B | R001 |
| 第25図-39 | SD060 | 土師器 | 小皿 | (7.2) | 1.0 | (6.4) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R002 |
| 第25図-40 | SD060 | 土師器 | 坏 | (12.5) | 3.1 | (9.2) | — | 淡橙色 | 石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R001 |
| 第25図-41 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.1 | 1.2 | 7.0 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R012 |
| 第25図-42 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.1 | 1.2 | 7.0 | — | 淡橙色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R013 |
| 第25図-43 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.5 | 1.4 | 6.0 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母・金雲母・白色粒子・赤色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R014 |
| 第25図-44 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 1.0 | 7.0 | — | 淡橙色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R015 |
| 第25図-45 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | (8.2) | 1.2 | 6.8 | — | 淡橙色 | 石英・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R017 |
| 第25図-46 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.1 | 1.1 | 6.1 | — | 淡橙白色 | 角閃石・石英・長石 | ナデ・回転ナデ | 回転糸切り痕 | | 小皿A | R018 |
| 第25図-47 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.9 | 1.3 | 6.7 | — | 淡茶白色 | 金雲母・長石 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R019 |
| 第25図-48 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.6 | 1.1 | 6.9 | — | 淡茶白色 | 金雲母・長石 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 小皿A | R020 |
| 第25図-49 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.0 | 1.2 | 6.4 | — | 淡茶白色 | 金雲母・石英 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り痕 | | 小皿A | R021 |
| 第25図-50 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | (9.0) | 1.3 | (7.0) | — | 淡茶白色 | 金雲母・長石 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り痕 | | 小皿A | R022 |
| 第25図-51 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | (8.3) | 1.2 | (5.0) | — | 淡茶白色 | 金雲母・石英 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り痕 | | 小皿A | R023 |
| 第25図-52 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | (8.2) | 0.9 | (6.1) | — | 淡茶白色 | 金雲母・長石・角閃石 | 摩耗の為不明 | 摩耗の為不明・回転糸切り痕 | | 小皿A | R024 |
| 第25図-53 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 1.9 | 5.4 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母・金雲母・白色粒子・赤色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R016 |
| 第25図-54 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.0 | 2.7 | 5.2 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R009 |
| 第25図-55 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 1.7 | 6.0 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R010 |
| 第25図-56 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 2.0 | 6.3 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R011 |
| 第25図-57 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 3.2 | 8.6 | — | 橙色 | 石英・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R003 |
| 第25図-58 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 坏 | (12.6) | 3.1 | (9.0) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R004 |
| 第25図-59 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 坏 | (12.8) | 2.5 | (9.1) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・雲母・金雲母・白色粒子・赤色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R008 |
| 第25図-60 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 3.2 | 8.4 | — | 橙色 | 石英・角閃石・長石・雲母・白色粒子・赤色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 坏A | R001 |
| 第25図-61 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 坏 | (12.0) | 3.5 | (6.2) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・金雲母・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し後板状圧痕 | | 坏A | R007 |
| 第25図-62 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 坏 | (12.5) | 2.8 | (8.0) | — | 橙色 | 石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R006 |
| 第25図-63 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 坏 | 11.8 | 3.2 | 9.1 | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・黒色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R002 |
| 第25図-64 | SD060　茶灰色土 | 土師器 | 坏 | (11.9) | 3.7 | (6.2) | — | 淡橙色 | 石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R005 |
| 第25図-65 | SD060　茶灰色土 | 龍泉窯系青磁 | 水注×瓶 | — | 2.5 | — | — | 淡灰色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | | R038 |
| 第25図-66 | SD060　茶灰色土 | 龍泉窯系青磁 | 碗 | — | 3.7+α | — | — | 灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | 蓮弁文 | 上田B | R036 |
| 第25図-67 | SD060　茶灰色土 | 龍泉窯系青磁 | 水注×瓶 | — | 2.6+α | — | — | 淡灰色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | | R037 |
| 第25図-68 | SD060　茶灰色土 | 銅銭 | | — | 2.5 | 0.7 | 3.5 | — | — | — | — | 嘉祐通寶 | 1056年・北宋 | R001 |
| 第25図-69 | SD060　茶灰色土 | 銅銭 | | — | 2.4 | 0.6 | 3.1 | — | — | — | — | 天聖元寶 | 1023年・北宋 | R002 |
| 第26図-1 | SD060　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 1.5 | 5.6 | — | 淡茶白色 | 長石・金雲母・角閃石 | 回転ヨコナデ | 回転ヨコナデ | | 小皿A | R003 |
| 第26図-2 | SD060　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 1.5 | 6.0 | — | 淡茶白色 | 金雲母・石英・角閃石 | 回転ヨコナデ | 回転ヨコナデ | | 小皿A | R006 |
| 第26図-3 | SD060　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | (8.3) | 1.4 | (7.2) | — | 淡茶白色 | 金雲母・長石 | ナデ・回転ヨコナデ | 回転ヨコナデ・板状圧痕 | | 小皿A | R010 |
| 第26図-4 | SD060　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 1.5 | 5.9 | — | 淡茶白色 | 金雲母・長石 | 回転ヨコナデ | 回転ヨコナデ・回転糸切り痕 | | 小皿A | R004 |
| 第26図-5 | SD060　暗褐色土 | 土師器 | 小皿 | (8.8) | 1.3 | (7.1) | — | 淡茶白色 | 金雲母・長石 | 回転ヨコナデ・ナデ | 回転ヨコナデ・回転糸切り痕 | | 小皿A | R005 |
| 第26図-6 | SD060　暗褐色土 | 土師器 | 坏 | 12.7 | 2.9 | 8.8 | — | 淡茶白色 | 長石・石英・金雲母 | 回転ヨコナデ | 回転ヨコナデ・回転糸切り痕回転糸切り痕 | | 坏A | R002 |
| 第26図-7 | SD060　暗褐色土 | 土師器 | 坏 | 12.1 | 3.5 | 7.1 | — | 淡茶白色 | 金雲母・長石・角閃石 | 回転ヨコナデ | 回転ヨコナデ・回転糸切り痕 | | 坏A | R001 |
| 第26図-8 | SD060　暗褐色土 | 瓦質土器 | 鍋 | — | 3.1+α | — | — | 淡橙色～暗茶色 | 長石・石英・角閃石 | 横方向のハケ目 | ヨコナデ・指オサエの痕 | | B1 | R011 |
| 第26図-9 | SD065 | 鉄釘 | | 9.2 | 2.0 | 2.0 | 38.4 | — | — | — | — | | | R001 |
| 第26図-10 | SD065　暗褐色土 | 土師器 | 皿 | — | 2.0+α | — | — | 橙色 | 石英・雲母 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第26図-11 | SD065　暗褐色土 | 土師器 | 皿 | — | 1.9+α | — | — | 淡白茶色 | 石英・雲母 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R002 |

第 11 表　遺構出土遺物観察表④

| 図版番号 | 遺構番号 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | | 色調・釉調 | 胎土 | 調整・装飾 | | 備考 | 分類時期 | R番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径/最大長 | 器高/最大幅 | 底径/最大厚 | 孔径/重量(g) | | | 内面 | 外面 | | | |
| 第26図-12 | SD065　暗褐色土 | 瓦質土器 | 火鉢 | ― | 2.8+α | ― | ― | 暗灰色 | 石英・黒色粒子・橙色粒子 | ナデ | ナデ・スタンプ | | | R004 |
| 第26図-13 | SD065　暗褐色土 | 瓦質土器 | 火鉢 | ― | 3.9 | ― | ― | 淡灰色 | 石英 | ナデ | ナデ・スタンプ | | | R005 |
| 第26図-14 | SD065　暗褐色土 | 瓦質土器 | 鉢 | ― | 4.5+α | ― | ― | 淡白灰色 | 白色粒子・黒色粒子 | ナナメ方向のハケ目 | ヨコナデ・横方向のハケ目・ハケ目の後ナデ | | | R006 |
| 第26図-15 | SD065　暗褐色土 | 景徳鎮窯系青花 | 碗 | ― | 2.9+α | ― | ― | 透明釉 | 精緻 | 施釉 | 施釉・露胎 | | 小野E | R008 |
| 第26図-16 | SD065　暗褐色土 | 漳州窯系青花 | 皿 | ― | 2.4+α | ― | ― | 透明釉 | 精緻 | 施釉 | 施釉・露胎 | | | R010 |
| 第26図-17 | SD065　暗褐色土 | 国産陶器 | 鉢 | ― | 3.8+α | ― | ― | 暗灰色 | 石英・白色粒子 | 回転ナデ | 回転ナデ | 備前焼 | | R012 |
| 第26図-18 | SD065　暗褐色土 | 国産陶器 | 鉢 | (26.4) | 12.6 | (11.8) | ― | 茶黒色 | | 回転ナデ・自然釉 | 回転ナデ・自然釉 | 備前焼 | | R011 |
| 第26図-19 | SD065　暗褐色土 | 瓦類 | 平瓦 | 9.6+α | 10.8+α | 1.8 | ― | 暗灰色 | 白色粒子・黒色粒子 | 工具ナデ | 工具ナデ | | | R014 |
| 第26図-20 | SD065　暗褐色土 | 瓦類 | 平瓦 | 30.4 | 12.9 | 1.5 | ― | 暗灰色 | 角閃石・白色粒子 | 工具ナデ | 工具ナデ・ナデ | コビキ痕あり | | R013 |
| 第26図-21 | SD065　灰黄褐色土 | 土師器 | 皿 | ― | 1.1+α | ― | ― | にぶい黄橙色 | 長石・黒色粒子 | ナデ | ヨコナデ・指オサエ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第26図-22 | SD065　灰黄褐色土 | 土師器 | 皿 | (12.0) | 2.7+α | ― | ― | にぶい黄橙色 | 長石・黒色粒子 | ヨコナデ | ヨコナデ・指オサエ | 京都系　ス又付着 | 皿C | R002 |
| 第26図-23 | SD065　灰黄褐色土 | 瓦類 | 軒丸瓦 | 3.9+α | 12.3+α | 3.9+α | ― | 暗灰色 | 白色粒子・黒色粒子 | 工具ナデ | 工具ナデ | | | R003 |
| 第26図-24 | SD065　灰黄褐色土 | 瓦類 | 軒平瓦 | 8.2+α | 10.7+α | 10.6 | ― | 灰色 | 長石・白色粒子 | ナデ・工具ナデ | ナデ・工具ナデ・布目 | 珠文か　布目痕あり | | R004 |
| 第26図-25 | SD065　灰黄褐色土 | 鉄製品 | 不明 | 2.9 | 3.6 | 0.9+α | 9.5 | ― | ― | ― | ― | | | R002 |
| 第26図-26 | SD065　灰黄褐色土 | 鉄釘 | | 5.7 | 1.5 | 1.5 | 13.9 | ― | ― | ― | ― | | | R001 |
| 第26図-27 | SD065(SD161　上層) | 国産陶器 | 擂鉢 | ― | 4.7+α | ― | ― | 赤褐色 | 白色粒子・黒色粒子 | タテ・スリ目・ロクロナデ | ロクロナデ | 備前焼 | | R001 |
| 第26図-28 | SD065(SD161　上層) | 国産陶器 | 大甕 | ― | 7.3+α | ― | ― | 明茶色 | | ヨコナデ | ヨコナデ | 備前焼 | | R002 |
| 第26図-29 | SD228　灰褐色土 | 土師器 | 小皿 | (7.8) | 1.1 | (6.0) | ― | 淡茶灰色 | 角閃石・石英 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 小皿A | R002 |
| 第26図-30 | SD228　灰褐色土 | 土師器 | 小皿 | ― | 1.4 | ― | ― | 淡白灰色 | 角閃石 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 小皿A | R003 |
| 第26図-31 | SD228　灰褐色土 | 土師器 | 坏 | ― | 4.6+α | ― | ― | 淡橙色 | 赤色粒子・石英 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 坏A | R001 |
| 第26図-32 | SD228　灰褐色土 | 須恵質土器 | 片口鉢 | ― | 2.7+α | ― | ― | 淡白灰色 | 石英・角閃石 | ヨコナデ | ヨコナデ | 東播系 | | R004 |
| 第26図-33 | SP017 | 銅銭 | | ― | 2.4 | 0.7 | 1.2 | ― | ― | ― | ― | 熙寧元寳 | 1068年・北宋 | R001 |
| 第26図-34 | SP023　茶灰色土 | 土師器 | 皿 | 11.8 | 2.6 | ― | ― | にぶい黄橙色 | 角閃石・砂粒少ない | ナデ・指オサエ・回転ナデ | 回転ナデ・指オサエ・ナデ | 内面ナデ上げ痕あり | 皿C | R001 |
| 第26図-35 | SP074 | 白磁 | 碗 | ― | 2.5+α | ― | ― | 淡灰黄色 | | 施釉 | 施釉 | 貫入あり | 大宰府Ⅴ | R001 |
| 第26図-36 | SP087 | 土師器 | 皿 | (14.2) | 2.5+α | (8.6) | ― | 淡茶白色 | 石英・角閃石・雲母・白色粒子・赤色粒子 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第26図-37 | SP087 | 土師器 | 皿 | (15.0) | 2.0+α | ― | ― | 淡茶白色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・強いヨコナデ | 強いヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R002 |
| 第26図-38 | SP087 | 瓦質土器 | 椀 | ― | 3.2+α | ― | ― | 淡灰色 | 石英・角閃石・雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ | | | R003 |
| 第26図-39 | SP191　茶灰色土 | 土師器 | 皿 | ― | 3.1+α | ― | ― | 淡茶白色 | 石英・長石 | ヨコナデ | ヨコナデ・指オサエ後ナデ | 京都系 | 皿C | R001 |
| 第26図-40 | SP234　褐灰色土 | 土師器 | 坏 | ― | 3.1+α | ― | ― | 淡茶白色 | 長石・石英・金雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 坏A | R001 |
| 第26図-41 | SP234　褐灰色土 | 石製品 | 砥石 | 11.3 | 6.1 | 4.0 | 380.8 | ― | ― | ― | ― | | | R002 |
| 第27図-1 | SX141 | 土師器 | 小皿 | (9.2) | 1.2 | (7.6) | ― | 橙茶色 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 小皿A | R002 |
| 第27図-2 | SX141 | 土師器 | 坏 | ― | 1.6+α | 6.9 | ― | 橙茶色 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | ナデ・回転ナデ | 回転ナデ・糸切り離し | | 坏A | R001 |
| 第27図-3 | SX141 | 土師器 | 椀 | (10.6) | 3.4 | 3.8 | ― | 淡茶白色 | 石英・雲母 | ナデ | 高台ハリツケ(指オサエ) | 吉備系 | | R003 |
| 第27図-4 | 整地層　暗茶褐色土 | 土師器 | 坏 | ― | 0.9+α | 7.0 | ― | 淡橙白色 | 金雲母・石英・長石 | 回転ナデ・ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 坏A | R001 |
| 第27図-5 | 整地層　暗茶褐色土 | 土師質土器 | 鍋 | ― | 3.8+α | ― | ― | 淡橙白色 | 金雲母・石英 | 横方向のハケ目・ヨコナデ | ヨコナデ・指オサエ後ナデ | | 鍋B | R002 |
| 第27図-6 | 整地層　茶褐色土 | 土師器 | 小皿 | ― | 1.0+α | ― | ― | 淡橙色 | 角閃石・石英・長石 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 小皿A | R002 |
| 第27図-7 | 整地層　茶褐色土 | 土師器 | 坏 | ― | 1.2+α | (6.6) | ― | 淡茶白色 | 長石・石英・角閃石・金雲母 | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 坏A | R001 |
| 第27図-8 | 検出時　灰褐色土(J10) | 土師器 | 耳皿 | ― | | 3.0 | ― | 橙色 | 角閃石・長石・赤色粒子含む・砂粒多い | 回転ナデ | 回転ナデ・回転糸切り | | 耳皿B | R005 |
| 第27図-9 | 検出時　灰褐色土(J10) | 瓦質土器 | 羽釜 | ― | 7.4+α | ― | ― | 灰青色 | 石英・長石・黒色粒子 | ヨコハケ | ヨコハケ後ヨコナデ・ナデ | | 羽釜B | R007 |
| 第27図-10 | 検出時　灰褐色土(J10) | 龍泉窯系青磁 | 坏 | ― | 1.6+α | ― | ― | 灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | | R012 |
| 第27図-11 | 検出時　灰褐色土(J10) | 龍泉窯系青磁 | 香炉×蓋 | ― | 1.7+α | ― | ― | 青緑色 | 精緻・褐色粒子 | 施釉 | 施釉 | 内外側に貫入あり | | R011 |
| 第27図-12 | 検出時　灰褐色土(J10) | 龍泉窯系青磁 | 坏 | 12.2 | 2.9 | 5.7 | ― | 淡緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉・露胎 | | 大宰府Ⅲ | R010 |
| 第27図-13 | 検出時　灰褐色土(J10) | 龍泉窯系青磁 | 碗 | ― | 2.5+α | ― | ― | 灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 上田B | R013 |
| 第27図-14 | 検出時　灰褐色土(J10) | 銅銭 | | ― | 2.4 | 0.7 | 2.3 | ― | ― | ― | ― | 皇宋通寳 | 1038年・北宋 | R001 |
| 第27図-15 | 検出時　灰褐色土(J15) | 白磁 | 皿 | ― | 2.0+α | ― | ― | 灰白色 | 黒色の微粒子含む灰白色 | 施釉・露胎 | 施釉 | | 大宰府Ⅸ | R005 |
| 第27図-16 | 検出時　灰褐色土(J15) | 龍泉窯系青磁 | 碗 | (12.6) | 2.1+α | ― | ― | 灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 上田B | R002 |
| 第27図-17 | 検出時　灰褐色土(J15) | 青磁 | 碗 | ― | 4.0+α | ― | ― | 灰緑色 | 精緻・褐色粒子 | 施釉 | 施釉 | | | R003 |
| 第27図-18 | 検出時　灰褐色土(J15) | 龍泉窯系青磁 | 碗か | ― | 1.5+α | (4.2) | ― | 灰緑色 | 精緻・褐色粒子 | 施釉 | 施釉・露胎 | 高台のみ | | R004 |
| 第27図-19 | 検出時　灰褐色土(J15) | 銅銭 | | ― | 2.3 | 0.7 | 3.2 | ― | ― | ― | ― | 元豊通寳 | 1078年・北宋 | R001 |
| 第27図-20 | 検出時　灰褐色土(J15) | 銅銭 | | ― | 2.4 | 0.7 | 2.6 | ― | ― | ― | ― | 天禧通寳 | 1017年・北宋 | R002 |
| 第27図-21 | 検出時　黄灰色土(J15) | 龍泉窯系青磁 | 碗 | ― | 2.9+α | ― | ― | 灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉・鎬蓮弁 | | 上田B | R002 |
| 第27図-22 | 検出時　黄灰色土(J15) | 白磁 | 碗 | ― | 2.5+α | ― | ― | 淡灰黄色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 大宰府Ⅴ | R003 |
| 第27図-23 | 検出時　黄灰色土(J15) | 白磁 | 水注×壺 | ― | 2.0+α | ― | ― | 淡灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | | R004 |
| 第27図-24 | 調査区壁面削時 | 土師器 | 小皿 | (9.0) | 2.4 | 5.0 | ― | 茶褐色 | 長石 | 回転ナデ後仕上げナデ | 回転ナデ・回転糸切り | 灯明皿 | 小皿B | R001 |
| 第27図-25 | カクラン002 | 土師器 | 皿 | 13.0 | 2.2 | ― | ― | 暗黄茶色 | 長石 | ヨコナデ・仕上げナデ | 指圧痕・ナデ・ヨコナデ | 京都系　内面が部分的に黒変 | 皿C | R001 |
| 第27図-26 | カクラン002 | 同安窯系青磁 | 皿 | ― | 1.1+α | 5.2 | ― | 灰緑色 | 精緻 | 施釉 | 施釉 | | 大宰府Ⅰ-2b | R002 |
| 第27図-27 | カクラン174 | 瓦類 | 軒丸瓦 | 2.3+α | ― | 2.0+α | ― | 淡灰色 | 白色粒子・黒色粒子 | 工具ナデ | ナデ・工具ナデ | | | R001 |

# 第Ⅳ章　総括

本調査の報告を終えるにあたり、時期別の遺構変遷を整理し、周辺調査の結果とあわせて「御北町」の様相について検討を行うことで総括とする。

## 第１節　時期別の遺構変遷

町 112 次調査区では整地層を挟んで遺構面を２面確認した。整地層よりも上層を第１遺構面、下層を第２遺構面とする。第２遺構面の地形は、東側から西側へと緩やかに傾斜しており、調査区の東端と西端の遺構検出面の高低差は 0.4 m前後を計る。この第２遺構面の上に整地層が認められる。調査区東側の整地層の厚さは 0.1 ～ 0.2 m前後であるのに対し、中央から西側にかけては 0.3 ～ 0.5 m前後と整地層が厚くなっており、第１遺構面はこの整地による盛土によって平坦な地形になっており、14 世紀前葉～ 16 世紀後葉の遺構が検出された。以上から、調査区内で見られる整地は、14 世紀前葉に行われたものであると考えられる。そのため、14 世紀前葉の遺構は、整地前後に分けて時期別変遷に反映している。

**Ⅰ期：14 世紀前葉 ( 整地以前 )**

Ⅰ期とした遺構は、14 世紀前葉の遺構のうち、第２遺構面で検出されたものである。遺構は調査区の東側に分布しており、廃棄土坑と溝状遺構がある。

すべての遺構で、14 世紀前葉段階の土師器坏 A・小皿 A が出土遺物の多くを占めている。また、吉備系の土師器椀や東播系の須恵質土器片口鉢、龍泉窯系青磁碗 ( 上田 B 類 )、白磁皿 ( 大宰府Ⅸ類 ) といった、外部から搬入されたものも少量ではあるが出土している。廃棄土坑で出土した遺物のうち、個体が識別可能な坏 A と小皿 A の数は破片も含めると、SK080 で坏 A46 点・小皿 A18 点、SK085 では坏 A58 点・小皿 A17 点と、どちらも坏 A が小皿 A よりも多く出土している。遺物組成は、万寿寺南側の調査である中世大友府内町跡第 30 次調査の 14 世紀前葉の廃棄土坑 (SK115) から出土したセットと類似しており、大友氏館跡の北側では類例の少ない時期の遺物群である。土師器を一括廃棄した土坑の存在から武家地等の一部である可能性があるが、遺構数の少なさから断定することはできない。

**Ⅱ期：14 世紀前葉 ( 整地以後 ) ～ 15 世紀後葉**

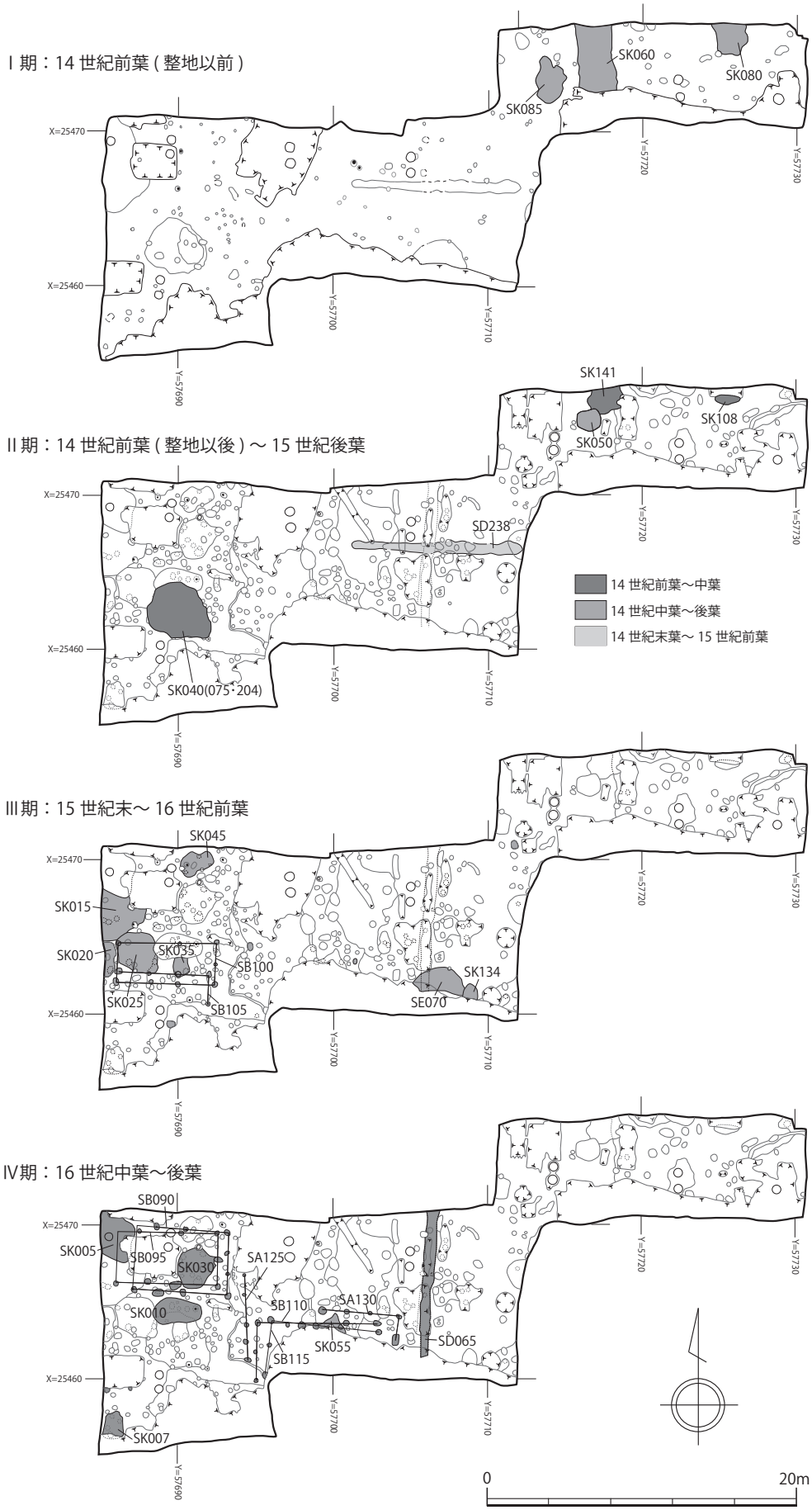
調査区の第１遺構面に展開する遺構群である。遺構は調査区全体に散漫に分布している。遺構は廃棄土坑や溝状遺構があるが、生活の痕跡は見られず、出土遺物の多くは在地系土師器が占めている。整地後、15 世紀後葉までの遺構は極めて少なく、生活用具もほとんど出土していないことから空閑地として使われていたと考えられる。

**Ⅲ期：15 世紀末葉～ 16 世紀前葉**

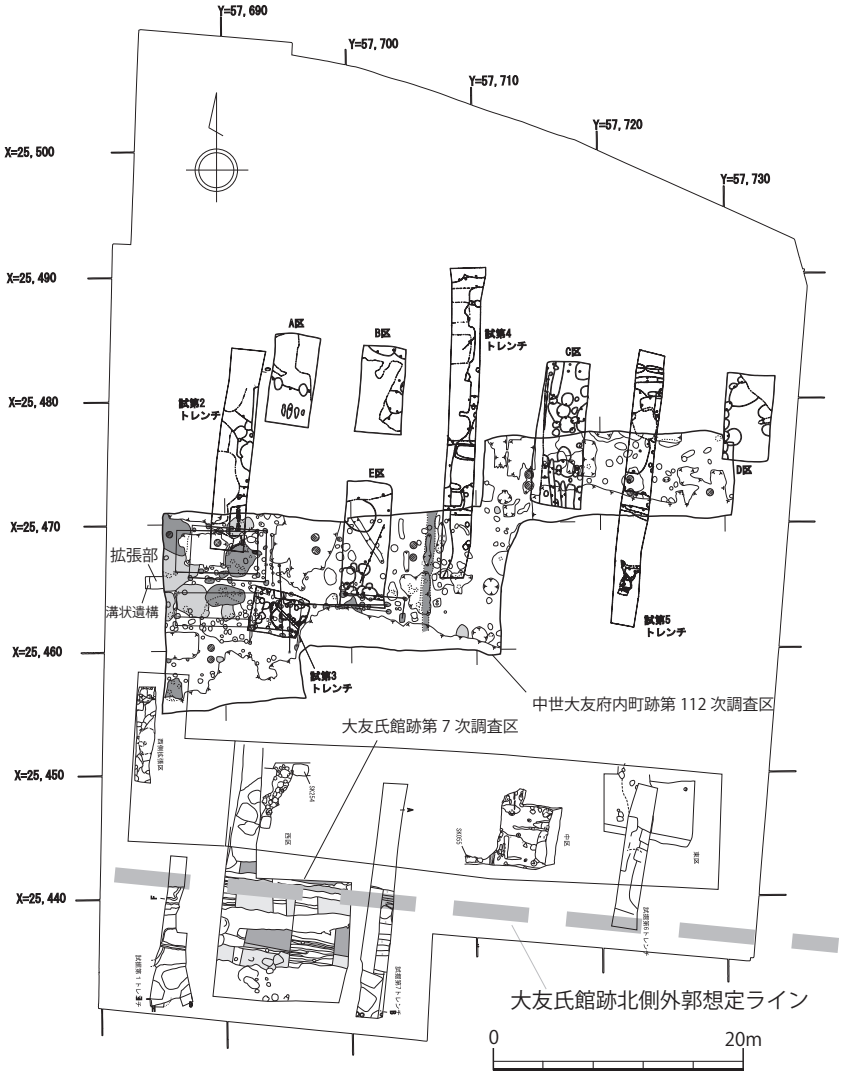
調査区の第１遺構面に展開する遺構群である。遺構間の切り合いや出土遺物から、前後の段階の遺構と区別した。

遺構は調査区の中央から西側にかけて分布しており、掘立柱建物跡は調査区の西壁に面している。２棟の掘立柱建物跡の桁行は東西を指向しており、その東側にある井戸跡 SE070 と一つの区画を形成していたと考えられる。掘立柱建物跡 SB100 の西端から井戸跡の東端までは、約 22 mの距離がある。建物と井戸の間の空間には、同時期の遺構はいくつかのピットがあるだけで、遺構はほとんど見られないため空閑地であったと考えられる。ほぼ同じ場所に建てられた２棟の掘立柱建物跡は建て替えの可能性がある。掘立柱建物跡の周辺の廃棄土坑群からは、土師器の坏や小皿のほか、瓦質土器・土師質土器の鍋や火鉢、土錘、鉄釘、瓦などが出土している。

出土遺物の組成を、実測を行った以外の選別遺物も加えて破片を計数したところ、在地系土師器が出土量の多




第 28 図　時期別遺構変遷図 (1/400)




第 29 図　周辺遺構分布図 ( 1 /600)

第 30 図　調査区周辺模式図

くの割合を占めており、その他の陶磁器類や瓦質・土師質土器はきわめて少ないことがわかった。

桁行の方向から SB100・105 は、西側あるいは東側を正面として、道路あるいは土地の境界を示す区画溝を意識していることが想定された。その確認のために行った調査区西側の拡張部では、整地層上面から掘り込まれた溝状遺構が土層断面で見つかっており、建物は南北の区画を意識している可能性が高い。

以上から調査区西側では、遺物組成のあり方や建物遺構や井戸跡の存在から、空閑地として利用されていたⅡ期までのあり方とは異なる土地利用が行われていたと推定される。

**Ⅳ期：16 世紀中葉～後葉**

Ⅲ期から引き続き、遺構の切り合いや出土遺物の内容から判断した。当期の遺構は調査区の南北を縦断する溝状遺構 SD065 より西側に展開している。区画溝と思われる SD065 や 2 列の柵跡の他、4 棟の掘立柱建物跡、複数の廃棄土坑、ピット群からなる。掘立柱建物跡は 2 棟の建物跡が重なって検出されており、建て替えの可能性が考えられる。建物の桁行は前段階と同じく東西を指向しており、建物も軸はほぼ東西を向いている SB110 を除いて N-83 ～ 88°-W となっており、N-4°-E の傾きを持った溝状遺構 SD065 を意識しているものと思われる。また 2 列の柵跡 (SA125・130) は、掘立柱建物跡 (SB110・115) の周囲を囲むように配されており、より小さな区画の意識が見てとれる。溝状遺構 SD065 が井戸跡 SE070 を切っており、Ⅳ期にⅢ期の土地利用のあり方を改変するような再開発が行われたと考えられる。出土遺物の組成は、前段階と変わらず在地の土師器が多くを占めている。

町 112 次調査区内の遺構の時期的な変遷は、大友氏館成立以前の 14 世紀前葉に整地が行われてから ( Ⅰ期 )、15 世紀後葉まで散発的に遺構が形成されながら空閑地として使用され ( Ⅱ期 )、15 世紀末葉には掘立柱建物跡や井戸跡が作られ生活の場としての利用が始まり ( Ⅲ期 )、16 世紀後葉に区画の改変を伴う再開発が行われる ( Ⅳ期 ) という 4 つの段階にまとめられる。ただし、Ⅲ期以後、遺構は調査区の西側に集中して分布しており、東側は空閑地として利用されていたと思われる。

## 第 2 節　周辺調査区との比較

「府内古図」によると町 112 次調査区は「御北町」に位置する場所となっている。御北町は大友氏館の北側に隣接しており、第 2 南北街路と第 4 南北街路の間に立地している。「府内古図」には大友氏館北側に東西の道が描かれており、御北町は南側を正面とする間口を持っていると考えられる。

町 112 次調査区の南側では、中世大友府内町跡第 15 次調査と大友氏館跡第 7 次調査が行われている。大友氏館跡第 7 次調査 ( 以下、館 7 次 ) では、大友氏館の北側外郭施設と思われる溝状遺構と積土遺構が確認されている。溝状遺構は積土遺構を挟むように 2 条 1 組で 3 つの段階のものがある。溝状遺構や積土遺構に伴う整地は 16 世紀に行われたと報告されている。中世大友府内町跡第 15 次調査 ( 以下、町 15 次 ) は、今回の調査と同じく御北町の様相の把握を目的として行われ、館 7 次調査区から延長される溝状遺構や生活の痕跡を示す廃棄土坑・ピット群が確認された。しかし、カクランによって多くの遺構が壊されており、「府内古図」に描かれた大友氏館北側の東西道路や掘立柱建物跡などの面的な遺構の把握は困難であった。

町 112 次調査区内やその周辺で行われた発掘調査では、「府内古図」にみられる大友氏館の北側を通っている東西道路の存在を示す遺構は確認されていない。今回確認されたⅢ・Ⅳ期の掘立柱建物跡の桁行は東西方向を指向しており、SD065 や西側拡張部で確認された溝状遺構のような南北方向の区画を意識して建設されたと考えられる。特にⅣ期の掘立柱建物跡や柵跡の方向は、その建設にあたって区画溝と思われる SD065 を意識したものである。町 112 次調査区よりも南側に設定された町 15 次調査区では、館の北側外郭施設との境界付近に砂質土と粘質土を交互に積み重ねて作られる道路遺構は確認されていない。

館 7 次調査で確認された 16 世紀中葉から後葉に位置づけられる溝状遺構 SD041 から、ほぼ同時期の掘立柱

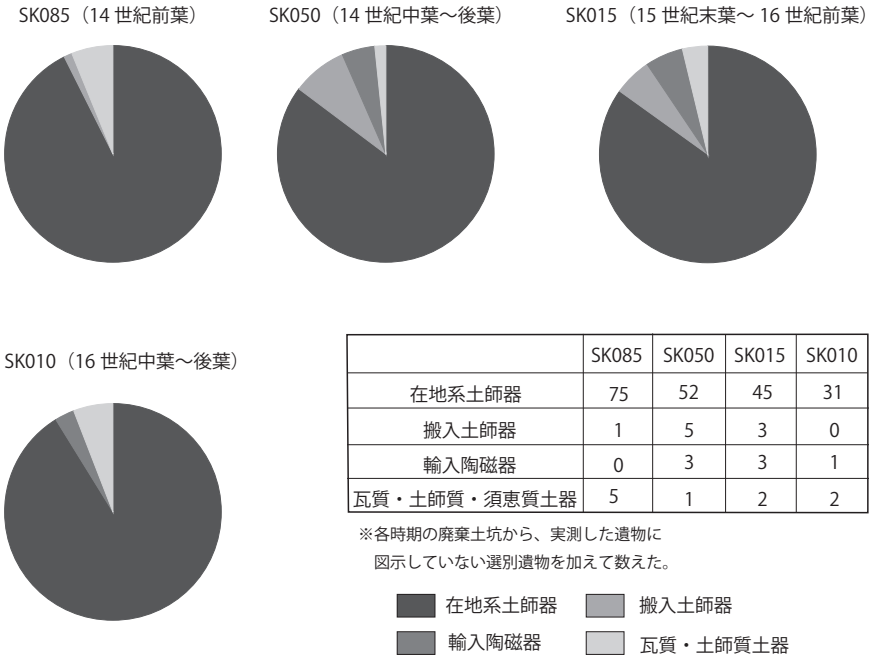
建物跡 SB115 の南端 (115a) までは約 17 mの距離があり、道路があったことを想定するのに十分な空間が存在している。以上のことから、大友氏館北側の東西道路は存在していなかったか、存在していても第 2 南北街路などの主要道路で見られるような明確な版築構造を伴わない簡易な構造の道路であった可能性が考えられる。

## 第３節　まとめ

今回の調査地点は、「府内古図」によると「御北町」付近に相当する。結果として、土層断面の観察と遺構の時期的な変遷の検討から 14 世紀前葉に整地が行われて空間地として使用された後、15 世紀末葉頃に活発な土地の利用がはじまると解釈できる調査所見を得た。主要な遺構として、14 世紀前葉の土師器を一括廃棄した廃棄土坑や溝状遺構、15 世紀末葉～ 16 世紀後葉の掘立柱建物跡、柵跡、井戸跡、溝状遺構などがある。

出土遺物は在地系土師器が一貫して大きな割合を占めており、輸入陶磁器類や生活用具と思われる土師質土器・瓦質土器の量は極めて少ないという特徴を示している。中世大友府内町跡第 4 次調査では、上市町の廃棄土坑から出土した遺物の組成が報告されており、16 世紀後葉から末の遺構では在地の土師器類の割合は 9 ～ 16％と低いことが分かっている。遺物組成からは、「御北町」と推定される町 112 次調査区内の遺構群は、町屋とは異なる武家地、あるいは寺社地などに属する可能性が指摘できる。

掘立柱建物の桁行が東西を指向していることや南北に走る溝状遺構から、調査区内の遺構は南北の区画を意識していることが分かった。東西道路の北側に位置する「御北町」の建物は南北に指向する桁行を持つ構造であったと考えられ、本調査区内で検出された南北溝 (SD065) より西側の遺構群は「御北町」ではなく、「府内古図」に記された「下町」に属する可能性も指摘できる。今後の調査の課題としてあげられる。




| | SK085 | SK050 | SK015 | SK010 |
|---|---|---|---|---|
| 在地系土師器 | 75 | 52 | 45 | 31 |
| 搬入土師器 | 1 | 5 | 3 | 0 |
| 輸入陶磁器 | 0 | 3 | 3 | 1 |
| 瓦質・土師質・須恵質土器 | 5 | 1 | 2 | 2 |

※各時期の廃棄土坑から、実測した遺物に
図示していない選別遺物を加えて数えた。

第 31 図　各時期遺物組成

**【第Ⅳ章　参考文献】**
上野淳也　2000「XⅣ　大友氏館跡第 7 次調査」『大分市埋蔵文化財調査年報 Vol.12』大分市教育委員会
河野史郎　2002「Ⅴ　まとめ　3. 出土遺物の組成変化について」『大友府内 4 』大分市教育委員会
佐藤道文　2015「第Ⅲ章　調査の成果　第３節　遺構　①北地区の調査」『大友氏館跡 1 』大分市教育委員会
大分県教育庁埋蔵文化財センター　2010『豊後府内 14』
大分市教育委員会　2004『大友府内３』

調査区遠景（北西より）

第 1 面調査区全景（上が南）

# 写真図版 2

第 1 面調査区西側ピット群完掘状況（上が南）

第 1 面調査区東側全体遺構写真（西より）

第 1 面調査区中央西側全体遺構写真（東より）

第 2 面調査区東側全体遺構写真（西より）

第 2 面調査区西側ピット群完掘状況（南より）

第 2 面調査区中央西側全体遺構写真（東より）

SE070 東西土層（南より）

SE070 掘削状況（南より）

SK005 完掘状況（東より）

SK010 完掘状況（北より）

SK015 完掘状況（東より）

SK020 遺物出土状況（東より）

SK025 完掘状況（北より）

SK030 完掘状況（南より）

# 写真図版６

SK035 遺物出土状況（北より）

SK035 完掘状況（北より）

SK040（075・204）検出状況（南より）

SK040（204）検出状況（東より）

SK040（075・204）東西土層（南より）

SK040（204）東西土層（南より）

SK040（204）遺物出土状況近景（南より）

SK040（075）完掘状況（東より）

SK045 完掘状況（南より）

SK050 完掘状況（南より）

SD060 検出状況（南より）

SD060 東西土層（南より）

SD060 完掘状況（南より）

SD065・SE070 検出状況近景（南より）

SD065・SE070 検出状況近景（南より）

SD065 北側ベルト東西土層（南より）

# 写真図版８

SD065 南ベルト東西土層（南より）

SD065 完掘状況（南より）

SK080 検出状況（南より）

SK080 遺物出土状況（南より）

SK085 検出状況（西より）

SK085 遺物出土状況（西より）

SK085 中央・南側遺物出土状況近景（西より）

SK085 完掘状況（西より）

調査区中央北壁面東西土層（南より）

調査区西側西壁面南北土層（東より）

調査区西側西壁面南北土層近景１（東より）

調査区西側西壁面南北土層近景２（東より）

調査区西側西壁面南北土層近景３（東より）

調査区東側北壁面東西土層（南より）

調査区西側拡張部全景（東より）

調査区西側拡張部北壁東西土層（南より）

# 写真図版 10

第 23 図 -7

第 23 図 -18

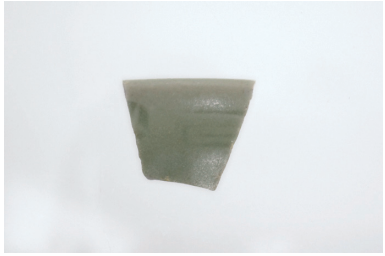
第 23 図 -26

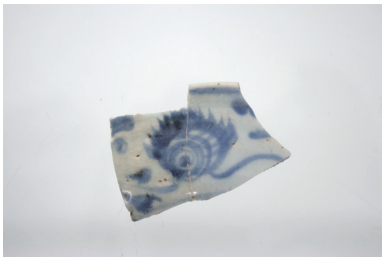
第 23 図 -28

第 23 図 -35

第 23 図 -43　外面

第 23 図 -43　内面


第 24 図 -1


第 24 図 -9　外面

第 24 図 -9　内面

第 24 図 -15

第 24 図 -22

第 24 図 -23

第 24 図 -28

第 24 図 -30

第 24 図 -31

第 24 図 -47　外面

第 24 図 -47　内面

第 24 図 -58

第 24 図 -59

第 25 図 -2

第 25 図 -6

第 25 図 -12

第 25 図 -24

第 25 図 -25

第 25 図 -30

第 25 図 -31

第 25 図 -41

第 25 図 -42

第 25 図 -44

第 25 図 -54

第 25 図 -55

第 25 図 -56

第 25 図 -59

第 25 図 -60

第 25 図 -61

# 写真図版 12

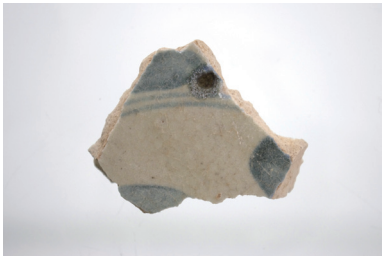
第 25 図 -66

第 26 図 -6

第 26 図 -7

第 26 図 -15　外面

第 26 図 -15　内面


第 26 図 -16

第 26 図 -17

第 26 図 -23

第 27 図 -3

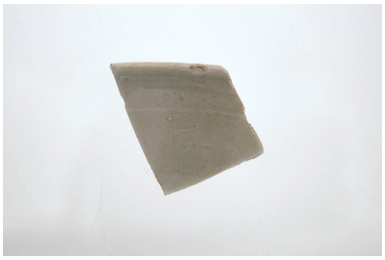
第 27 図 -8

第 27 図 -11

第 27 図 -12　外面

第 27 図 -12　内面

第 27 図 -21


第 27 図 -22

第 27 図 -24

第 27 図 -26

第 27 図 -27

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | おおともふない |
| 書名 | 大友府内23 |
| 副書名 | 中世大友府内町跡第112次調査　集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 大分市埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第142集 |
| 編著者名 | 池邉千太郎　留野優兵　株式会社　九州文化財総合研究所(業務責任者　井上索裕) |
| 編集機関 | 大分市教育委員会 |
| 所在地 | 〒870-8504　大分市荷揚町2番31号　TEL(097)534-6111(代表)　FAX(097)536-0435 |
| 発行年月日 | 西暦2016年3月25日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積<br>㎡ | 発掘原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ちゅうせいおおともふないまちあと<br>中世大友府内町跡 | おおいたしけんとくまち<br>大分市顕徳町 | 44201 | 201051 | 33°　13′　53″ | 131°　37′　00″ | 20150714～20150930 | 522.4 | 集合住宅建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中世大友府内町跡 | 都市 | 中世 | 掘立柱建物跡・廃棄土坑・溝状遺構・井戸跡・土坑・ピット群 | 土師器　瓦質土器　土師質土器　中国青花　中国陶磁器　備前陶器　中世須恵器 | |

| | |
|---|---|
| 要約 | 本書は、平成27年度に実施した中世大友府内町跡第112次調査区の調査成果を所収したものである。調査地点は「府内古図」の推定「御北町」に当たる場所で、過去の調査では南側に大友氏館の北側外郭施設とみられる積土状遺構が確認されている。調査の結果、主に14世紀前葉と15世紀末葉から16世紀後葉にかけての遺構が確認された。14世紀前葉の遺構には、溝状遺構と土師器の一括廃棄土坑がある。当該時期の遺構は周辺の調査ではあまり確認されておらず、大友館成立以前の遺構群として注目される。15世紀末葉から16世紀後葉の遺構として、掘立柱建物跡、柵跡、井戸跡、溝状遺構、ピット群がある。調査区中央の南北に軸を持つ溝状遺構を境に、調査区西側に遺構は集中する。掘立柱建物跡は桁行が東西方向を向いており、建物の建て替えが確認できる。出土遺物は土師器の坏、小皿が多数を占めており、輸入陶磁器や土師質土器、瓦質土器は少ない。 |

大分市埋蔵文化財発掘調査報告書　第142集

# 大友府内23

中世大友府内町跡第112次調査

― 集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

2016年3月25日

発行　　大分市教育委員会
　　大分市荷揚町2-31